



LS 460 / LS 460 L

取扱説明書



Welcome to Lexus

ようこそレクサスへ

安全、快適にお使いいただくため、本書をお読みください。



TABLE OF CONTENTS

目次

1	運転する前に	運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。
2	運転するときに	走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。
3	室内装備の使い方	室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。
4	お手入れのしかた	お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。
5	トラブルが起きたら	故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。
6	車両仕様	車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・ GPS ボイスナビゲーション
- ・ エアコン・デフォッガー
- ・ バックガイドモニター
- ・ クリアランスソナー
- ・ インテリジェントパーキングアシスト
- ・ オーディオ&ビジュアル
- ・ ETC システム／ ITS スポットサービス (DSRC)
- ・ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター

1 運転する前に

1-1. キーの取扱い

キー	32
----------	----

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、 ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム	36
ワイヤレスリモコン	47
ドア	49
トランク	54

1-3. シート、ハンドル、 ミラーの調整のしかた

フロントシート	61
パワーリヤシート	67
ドライビングポジション メモリー	76
リヤシートポジション メモリー	81
ヘッドレスト	83
シートベルト	86
ハンドル	91
インナーミラー	92
ドアミラー	94

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの 開け方、閉め方

パワーウインドウ	97
ムーンルーフ	100

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方	104
---------------	-----

1-6. 盗難防止システム

エンジンモビライザー システム	108
オートアラーム	109

1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢	115
SRS エアバッグ	117
子供専用シート	126
チャイルドシートの 取り付け	135

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	142
エンジン（イグニッション） スイッチ	151
オートマチックトランス ミッション （パドルシフト非装着車）	155
オートマチックトランス ミッション （パドルシフト装着車）	160
方向指示レバー	167
パーキングブレーキ	168
ブレーキホールド	171
ホーン（警音器）	174

2-2. メーターの見方

計器類	175
表示灯／警告灯	180
マルチインフォメーション ディスプレイ	184

2-3. ライトのつけ方・

ワイパーの使い方

ライトスイッチ	191
オートマチックハイビーム	194
フォグライトスイッチ	199
ワイパー＆ウォッシャー	200

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	203
レーダークルーズ コントロール	207
レーダークルーズ コントロール （全車速追従機能付）	219
LKA（レーンキーピング アシスト）	233
電子制御エアサスペンション ...	239
運転を補助する装置	241
プリクラッシュ セーフティシステム（PCS） ...	247
後方プリクラッシュ セーフティシステム	257
ナイトビュー （歩行者検知機能付）	260

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	269
寒冷時の運転	271

3 室内装備の使い方**3-1. 室内灯のつけ方**

室内灯一覧	276
・ インテリアライト	277
・ パーソナルライト	277

3-2. 収納装備の使い方

収納装備一覧	279
・ グローブボックス	281
・ コインホルダー	282
・ ドアポケット	282
・ カップホルダー	283
・ コンソールボックス	284
・ ノースモーカースボックス	286
・ クールボックス・小物入れ	287
・ 小物入れ	291

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	293
バニティミラー	294
灰皿	295
シガレットライター	296
アクセサリソケット／ アクセサリコンセント	298
ステアリングヒーター	302
コンフォータブル・ エアシート／ リヤシートヒーター	304
アームレスト	308
テーブル	309
リヤサンシェード	311
リヤドアサンシェード	315
トランクスルー	318
コートフック	320
フロアマット	321
トランク内装備	323

4 お手入れのしかた**4-1. お手入れのしかた**

外装の手入れ	326
内装の手入れ	329
タイヤについて	332

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	335
ガレージジャッキ	337
エンジンルームカバー	339
タイヤの交換	341
電球（バルブ）の交換	347
ヒューズの点検、交換	358
電子キーの電池交換	361
ウォッシュャー液の補給	363

5 トラブルが起きたら**5-1. まず初めに**

故障したときは	366
非常点滅灯	367
発炎筒	368
けん引について	370
フューエルポンプシャット オフシステム	374

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	375
警告メッセージが 表示されたときは	379
パンクしたときは	382
エンジンがかからないときは ...	394
シフトレバーが シフトできないときは	396
パーキングブレーキが 解除できないときは	397
電子キーが正常に 働かないときは	401
バッテリーがあがったときは ...	405
オーバーヒートしたときは	408
スタックしたときは	411
車両を緊急停止するには	412

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料、オイル量など)	414
---------------------------------	-----

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	421
--------------------------	-----

さくいん

略語一覧	428
五十音順さくいん	429
症状別さくいん	442

1

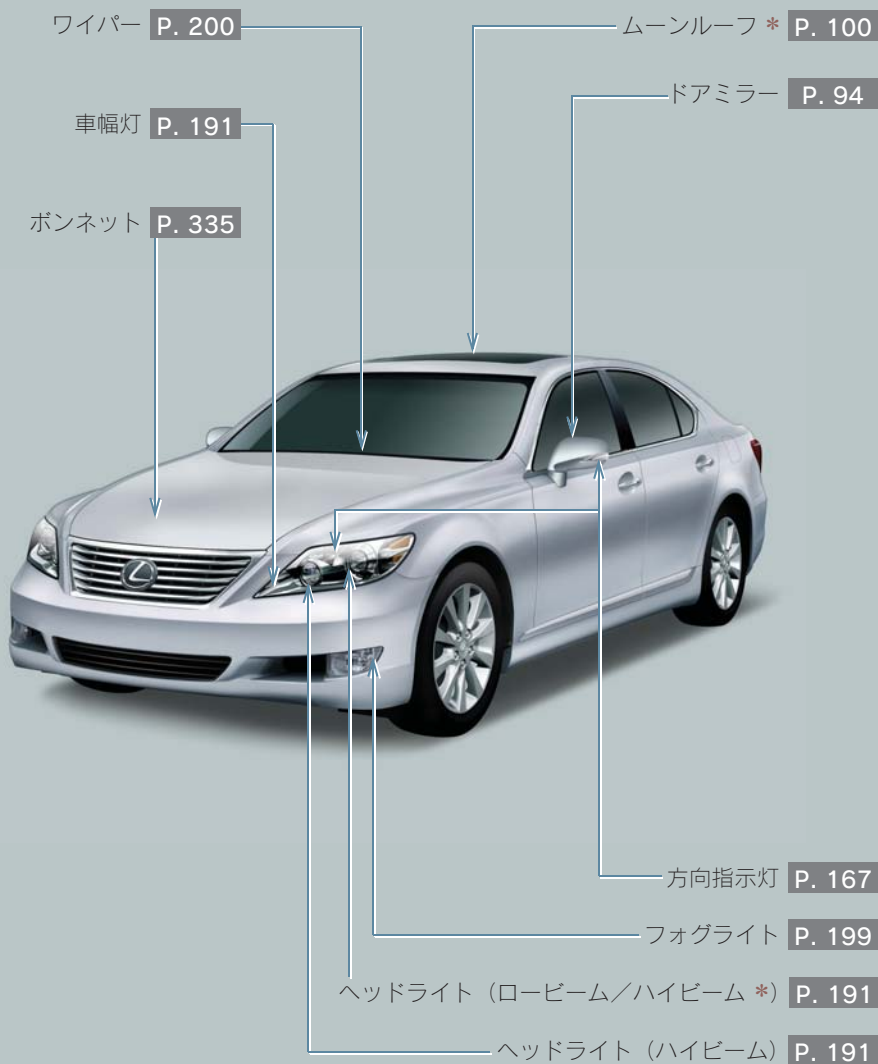
2

3

4

5

6





* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

フロント席

助手席 SRS エアバッグ P. 117

SRS ニーエアバッグ
P. 117

ハンドル位置調整スイッチ P. 91

運転席 SRS エアバッグ P. 117

ドアポケット P. 282

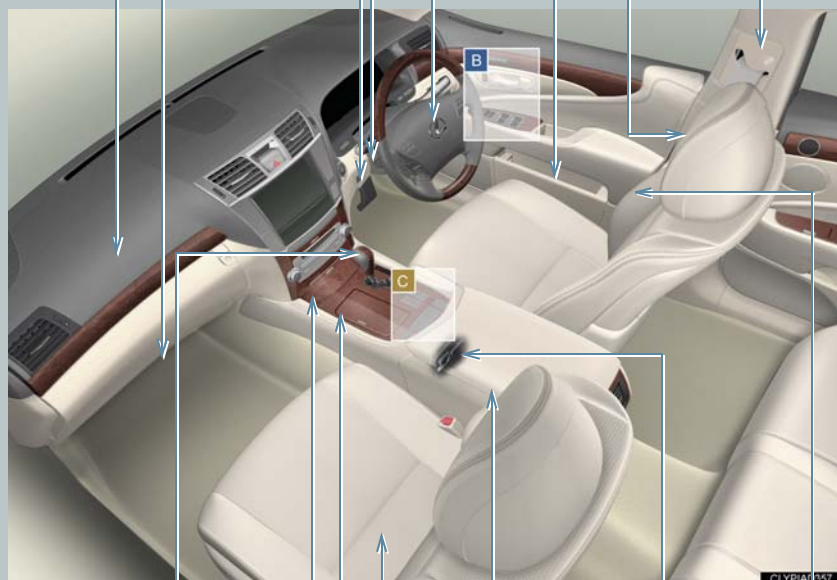
ヘッドレスト P. 83

シートベルト P. 86

A

B

C



シフトレバー P. 155, 160

コンソールボックス
P. 284

フロントシート P. 61

カップホルダー P. 283

SRS サイドエアバッグ
P. 117

シガレットライター * P. 296

灰皿 * P. 295

ノースモーカーズボックス * P. 286

アクセサリースOCKET P. 298

AUX 端子※

USB 端子※

ビデオ端子※

A

インナーミラー P. 92

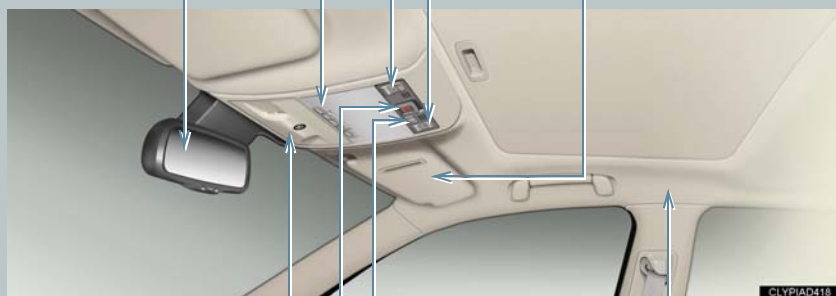
インテリアライト P. 277

パーソナルライト P. 277

ムーンルーフスイッチ * P. 100

バニティミラー P. 294

サンバイザー P. 293



侵入センサー OFF スイッチ
P. 110

ヘルプネットスイッチパネル※

小物入れ * P. 291

セキュリティーカメラ * P. 110

SRS カーテンシールドエアバッグ P. 117

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

B

ドアロックレバー P. 49

ドライビングポジションメモリースイッチ * P. 76

シートベルト高さ調整スイッチ
P. 86

ウインドウロックスイッチ P. 97

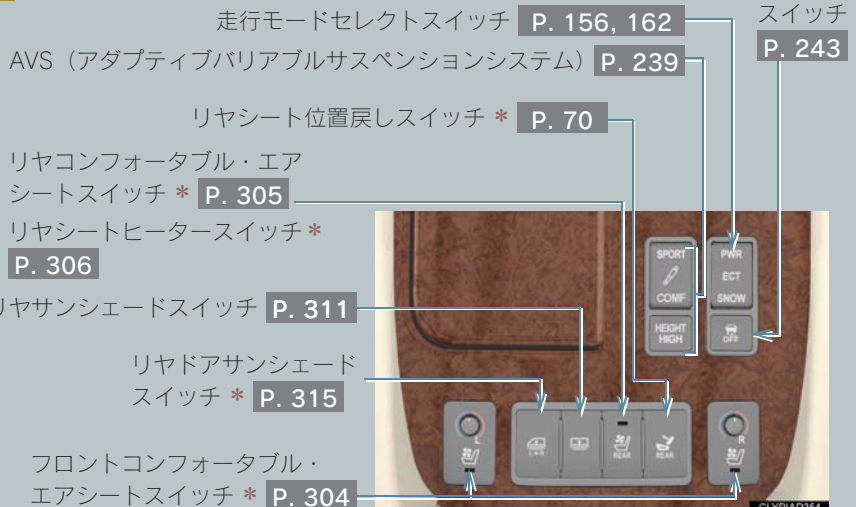
ドアロックスイッチ P. 49

パワーウインドウスイッチ P. 97

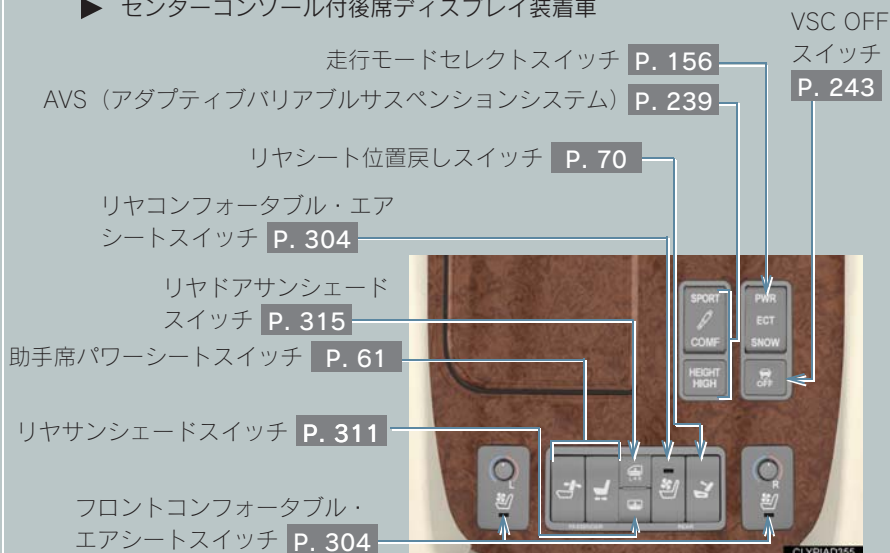


C

▶ センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車



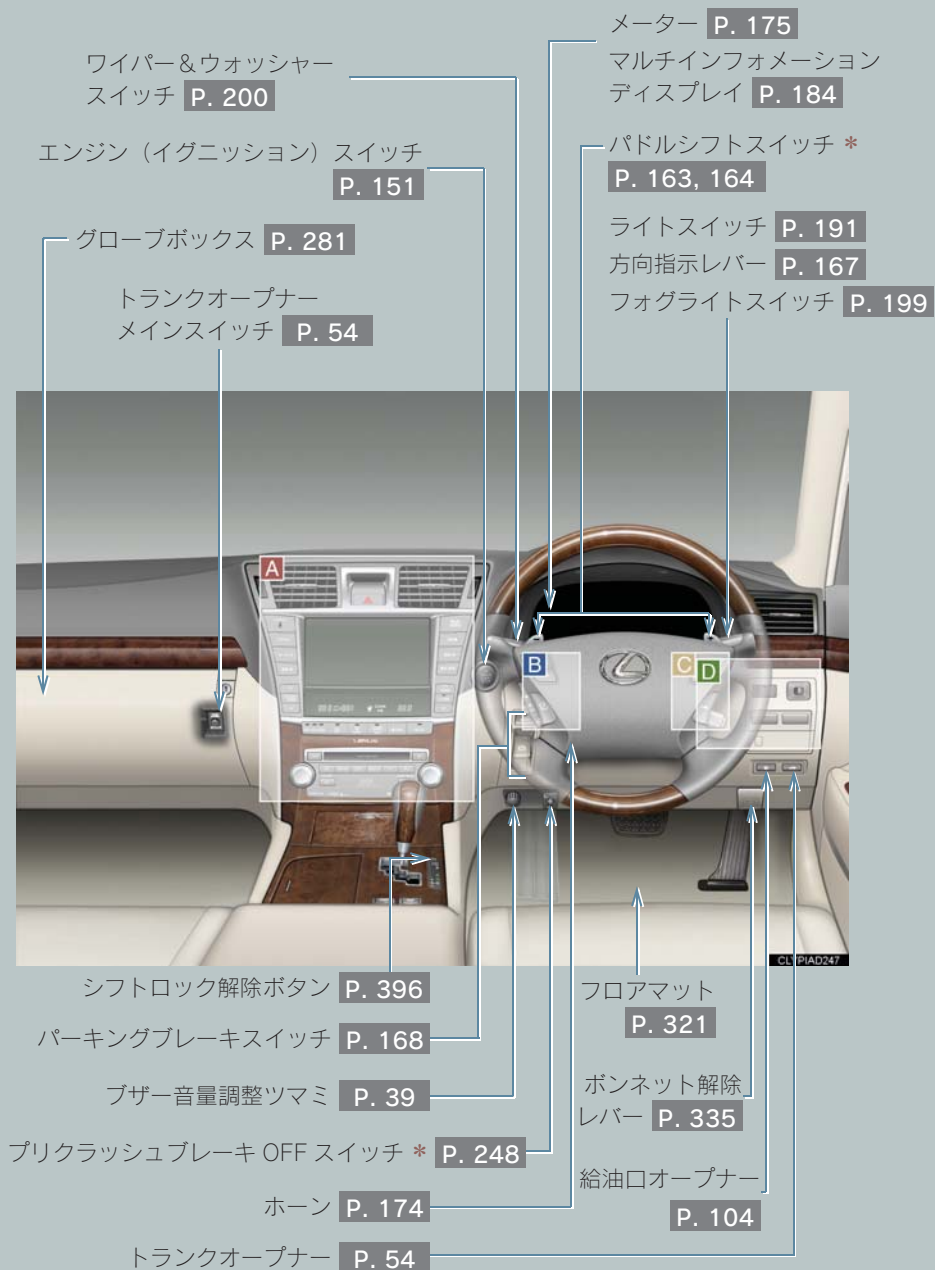
▶ センターコンソール付後席ディスプレイ装着車



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

イラスト目次

インストルメントパネル



A



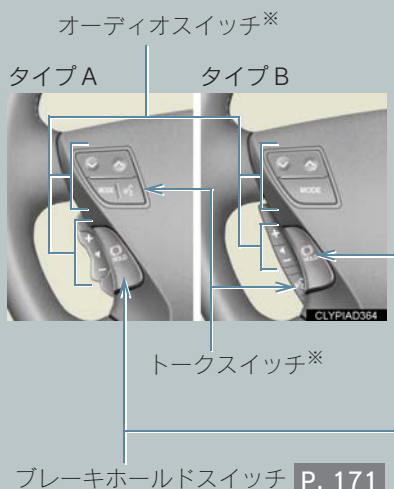
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

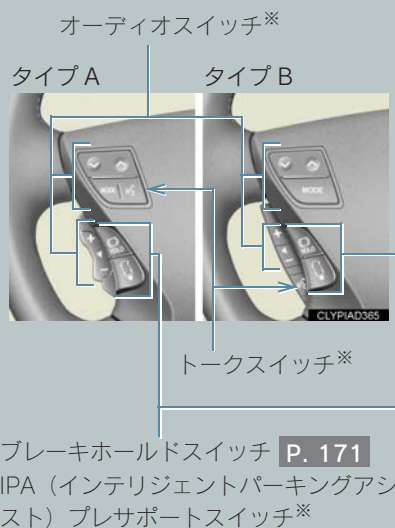
イラスト目次

インストルメントパネル

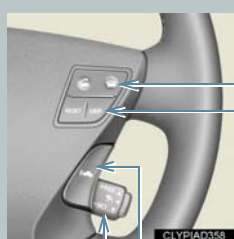
B ▶ インテリジェントパーキングアシスト非装着車



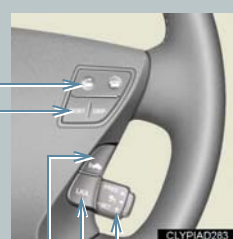
▶ インテリジェントパーキングアシスト装着車



C ▶ レーンキーピングアシスト (LKA) 非装着車



▶ レーンキーピングアシスト (LKA) 装着車



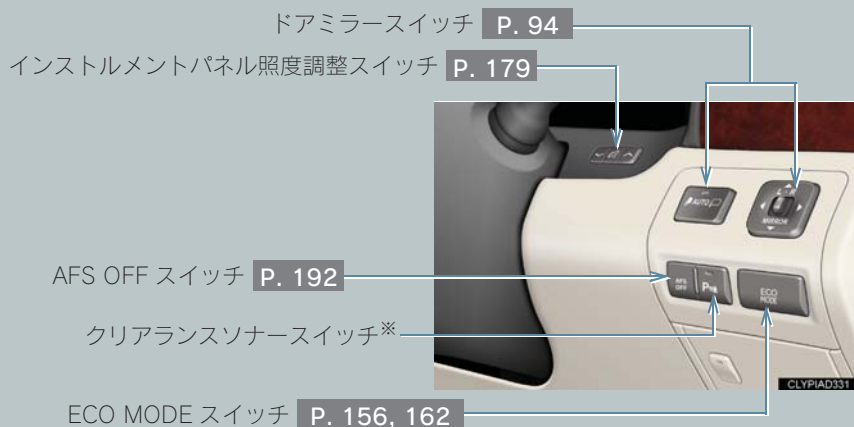
車間距離切り替えスイッチ * P. 207, 219

LKA スイッチ P. 233

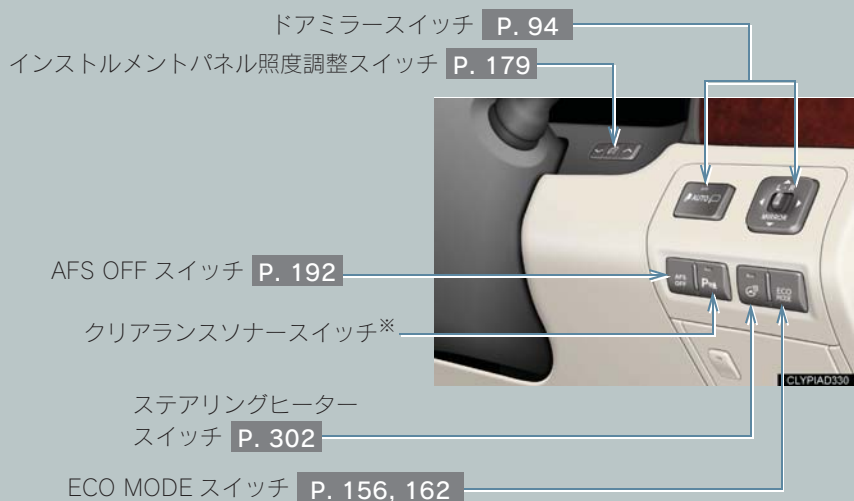
クルーズコントロールスイッチ
P. 203, 207, 219

D

▶ ステアリングヒーター非装着車



▶ ステアリングヒーター装着車

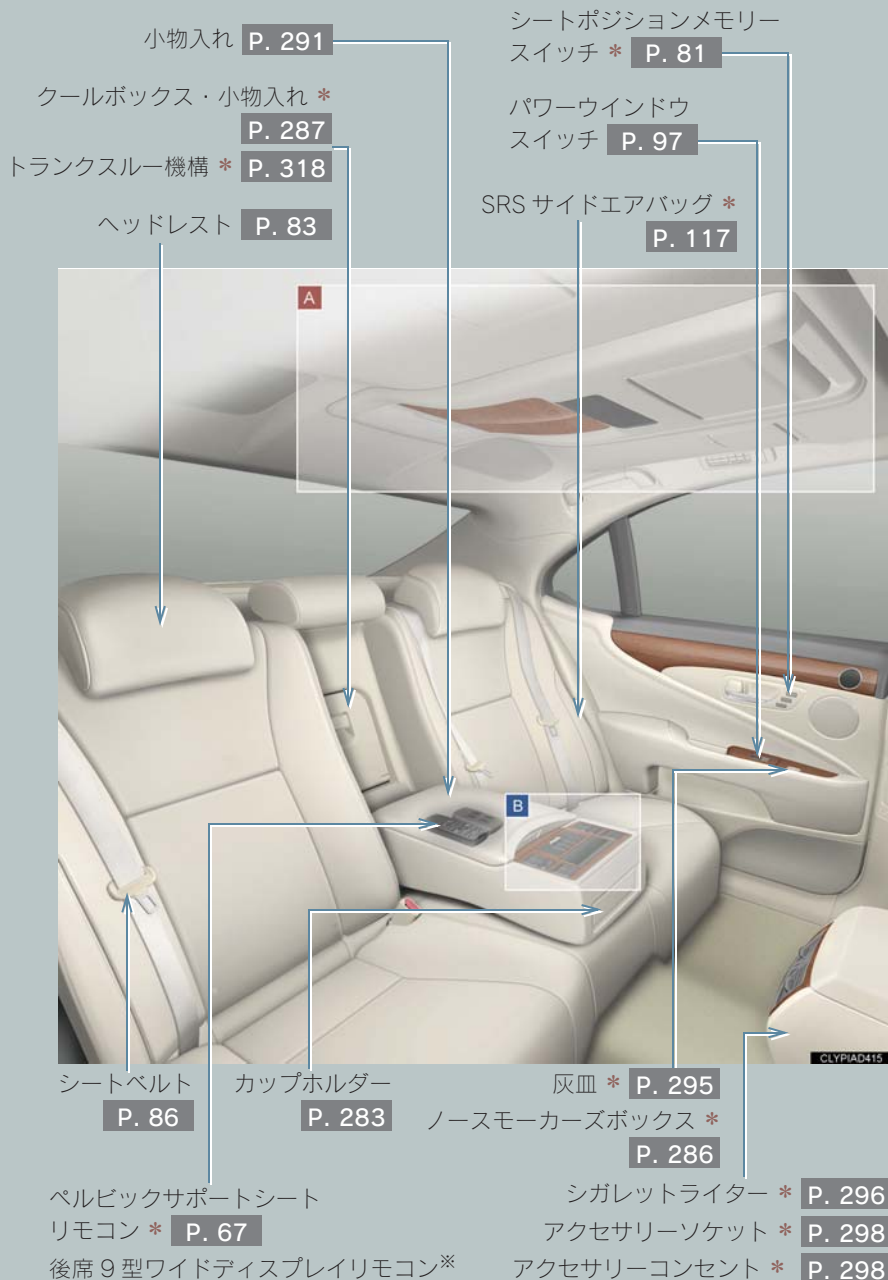


* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

5人乗り リヤ席 (センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車)

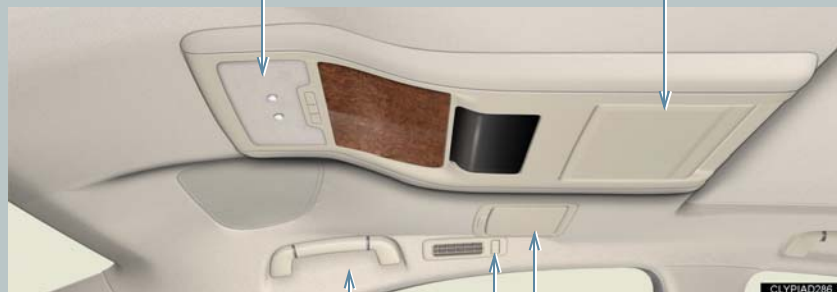


A

インテリアライト **P. 277**

パーソナルライト **P. 277**

後席 9 型ワイドディスプレイ※



SRS カーテンシールド
エアバッグ **P. 117**

バニティーミラー **P. 294**

コートフック **P. 320**

B

パワーシート
スイッチ * **P. 67**

リアオーディオスイッチ※

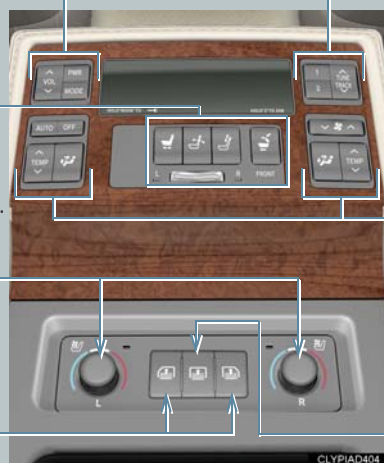
リアコンフォータブル・
エアシートスイッチ *
P. 304

リアエアコンスイッチ※

シートヒーター
スイッチ * **P. 304**

リアドアサン
シェードスイッチ *
P. 315

リアサンシェード
スイッチ **P. 311**



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

5人乗り リヤ席 (センターコンソール付後席ディスプレイ装着車)

灰皿 * P. 295

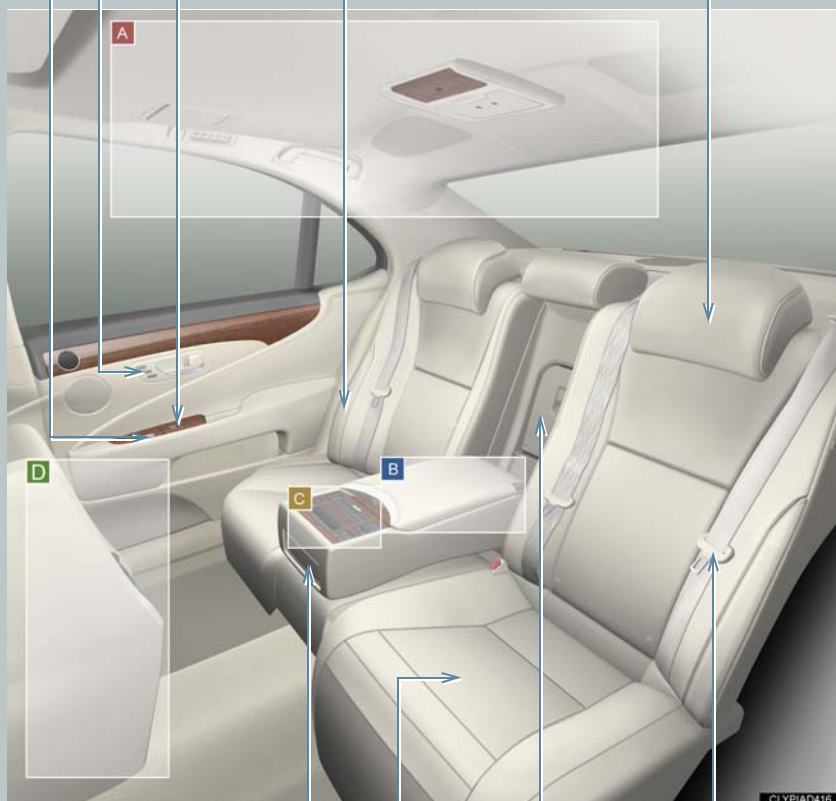
ノースモーターボックス * P. 286

シートポジションメモリースイッチ P. 81

パワーウィンドウスイッチ P. 97

SRS サイドエアバッグ P. 117

ヘッドレスト P. 83



カップホルダー P. 283

SRS シートクッションエアバッグ * P. 117

シートベルト P. 86

クールボックス・小物入れ P. 287

A

インテリアライト P. 277

パーソナルライト P. 277



バニティーミラー P. 294

コートフック P. 320

SRS カーテンシールド
エアバッグ P. 117

B

ヘッドフォンジャック※

後席 9 型ワイドディスプレイリモコン※

リヤシートリラクゼーション
システム／ペルビックサポート
シートリモコン * P. 67

ペルビックサポートシート
リモコン * P. 67



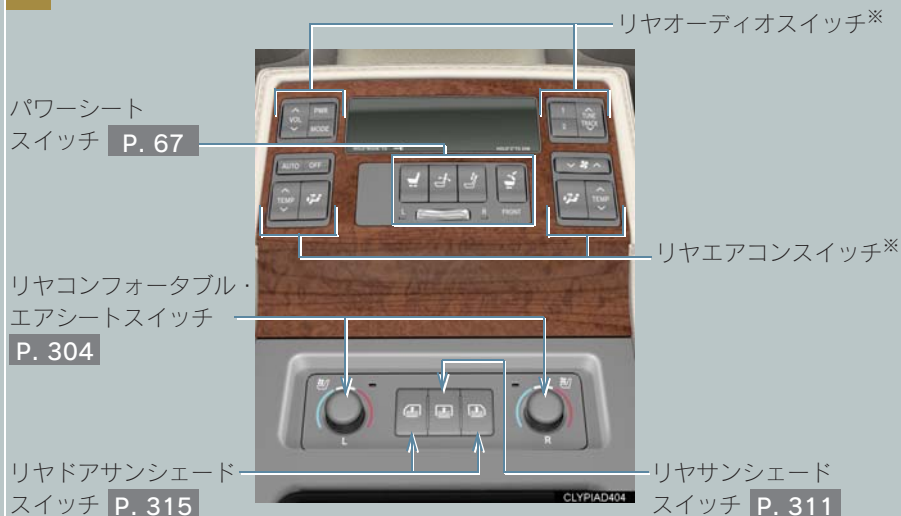
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

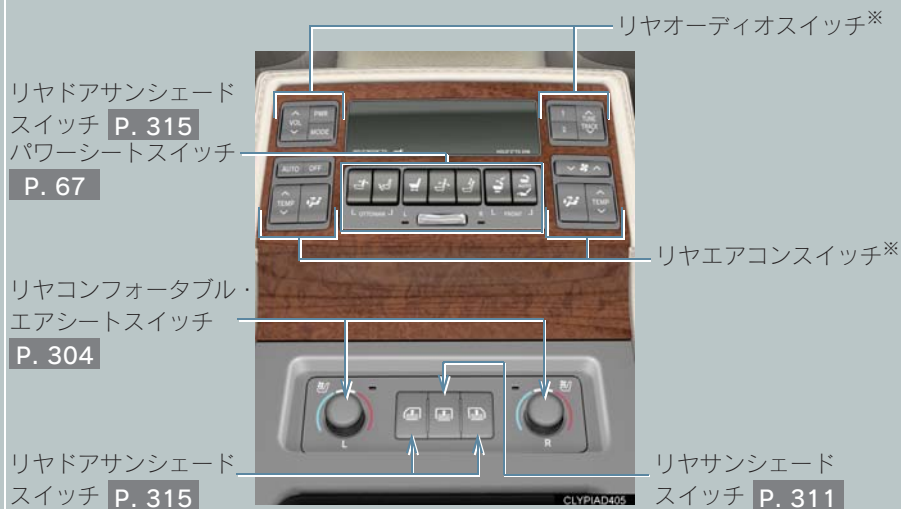
イラスト目次

5人乗り リヤ席 (センターコンソール付後席ディスプレイ装着車)

C ▶ リラクゼーションシート非装着車



▶ リラクゼーションシート装着車



D



後席 9 型ワイドディスプレイ※

DVD プレイヤー※

小物入れ P. 291

アクセサリソケット * P. 298

アクセサリコンセント * P. 298

ビデオ端子※

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

4人乗り リヤ席

灰皿 * P. 295

ノースモークスボックス * P. 286

シートポジションメモリースイッチ P. 81

パワーウインドウスイッチ P. 97

SRS サイドエアバッグ P. 117

DVD プレイヤー※

ヘッドフォンジャック※

ヘッドレスト P. 83



アクセサリコンセント P. 298

カップホルダー P. 283

SRS シートクッションエアバッグ P. 117

シートベルト P. 86

小物入れ P. 291

A

後席 9 型ワイドディスプレイ※

インテリアライト P. 277

パーソナルライト P. 277



バニティーミラー P. 294

SRS カーテンシールド
エアバッグ P. 117

コートフック P. 320

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

B

シガレットライター * P. 296

アクセサリソケット * P. 298

ビデオ端子※

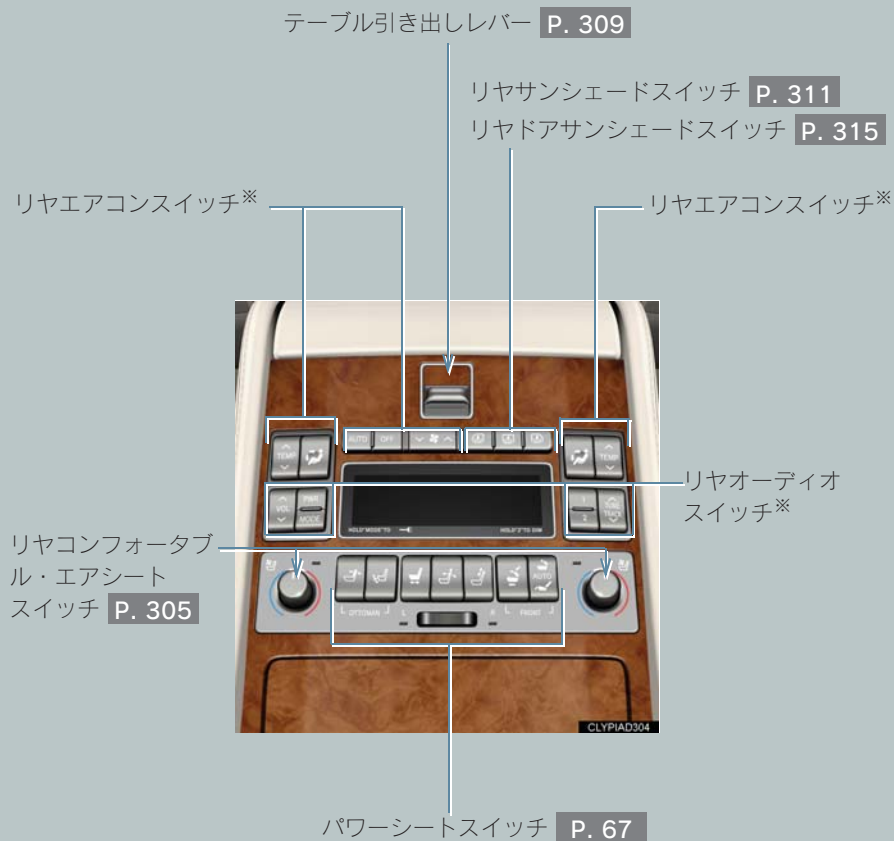
リヤシートリラクゼーション
システム／ペルビックサポート
シートコントローラー P. 67



後席 9 型ワイドディスプレイ
リモコン※

クールボックス・小物入れ P. 287

C



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはS R Sエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまをのせるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまをのせる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 135）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務づけられています。）

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

- ・ エンジンの回転数
- ・ 車速
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ トランスミッションのシフトポジション
- ・ 助手席乗員の有無
- ・ 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- ・ 運転席のシート位置
- ・ エアバッグ作動に関する情報
- ・ エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

● EDR データの開示について

レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意がある場合
- ・ 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

 スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

 操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

1-1. キーの取扱い

キー.....	32
---------	----

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム	36
ワイヤレスリモコン	47
ドア.....	49
トランク.....	54

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

フロントシート	61
パワーリヤシート	67
ドライビングポジション メモリー	76
リヤシートポジション メモリー	81
ヘッドレスト	83
シートベルト	86
ハンドル.....	91
インナーミラー	92
ドアミラー	94

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方

パワーウインドウ.....	97
ムーンルーフ	100

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方.....	104
--------------	-----

1-6. 盗難防止システム

エンジンイモビライザー システム	108
オートアラーム.....	109

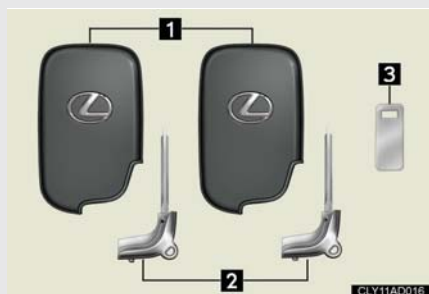
1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢.....	115
SRS エアバッグ.....	117
子供専用シート.....	126
チャイルドシートの 取り付け	135

1-1. キーの取扱い

キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。



■ カードキー



1 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 36)
- ・ ワイヤレス機能の作動 (→P. 47)

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

1 電子キー

スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 36)

2 メカニカルキー

メカニカルキーを使うには



メカニカルキーを取り出す

メカニカルキーは差し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに差し込めないときは、キー溝面の向きをかえて差し込んでください。

使用後はもとに戻し、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 401)

知識

■カードキーについて

- カードキー内蔵のメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。



- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



- 電池カバーがはずれたときや濡れたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。

- カードキーは非防水です。

■ 駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてトランクオープナーのメインスイッチを OFF にして、グローブボックスとトランクスルードアを施錠します。(→P. 54, 281, 318)

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。新しいキーを作製する場合にキーナンバーが必要となります。

■ 新しくキーを作製する場合は

車両に付属している電子キー、カードキー、キーナンバープレートからレクサス販売店でレクサス純正品の新しいキーを作ることができます。

■ 航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐために

以下のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- 濡らしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近づけたりしない
- 分解しない

⚠ 注意

- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ 電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用下さい。

■ キーを紛失したときは

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

■ カードキー取り扱いの注意

- メカニカルキーをカードキーに差し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極が濡れた場合は、電池が錆びて作動しなくなるおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分を拭き取ってください。（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください。）電池が錆びた場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷をつけたりするおそれがあります。
- 電池カバーを頻繁に取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなる場合があります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 以下のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷をつけたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面を拭いたとき

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた スマートエントリー&スタートシステム

電子キー（カードキーを含む）をポケットなどに携帯するだけで以下の操作がおこなえます。

（必ず運転者が携帯してください。）



1 ドアの解錠・施錠 （→P. 37）

2 トランクの解錠 （→P. 37）

3 モードの切り替え、エンジンの始動 （→P. 151）

ドアの解錠・施錠



ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠したあと3秒間は解錠できません。



ロックスイッチを押して施錠する

長押しするとドアガラスが閉まります。
ムーンルーフ装着車は、ムーンルーフも閉まります。

トランクを開ける

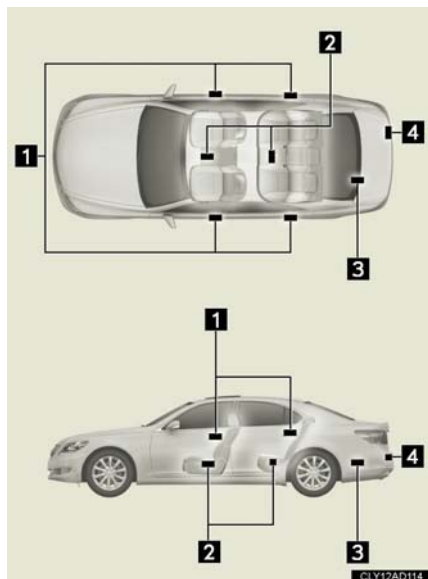


スイッチを押す

パワートランクリッド装着車の場合は
自動で全開します。

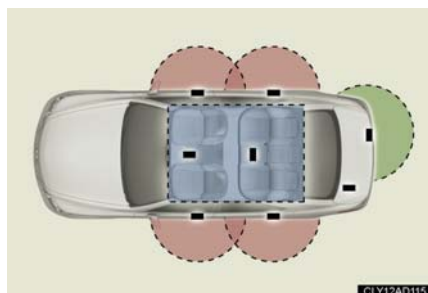
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



- 1 車外アンテナ
- 2 車内アンテナ
- 3 トランク内アンテナ
- 4 トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



- : ドアの施錠・解錠時
ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。)
- : トランクの解錠時
トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。
- : エンジン始動時またはモード切り替え時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

 知識

■ 作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

トランク：ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ ブザーの音量調整

作動の合図のときに鳴るブザーや半ドア警告ブザーはお好みの音量に調整できます。



1 音量大

2 音量小

いっぱいまでまわすと音を消すことができます。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 401)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所に置いたとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、以下のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したたばこの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CD や DVD などのメディア
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 近くでほかの電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ほかの車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ 解錠ドアの切替機能

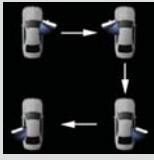
ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切り替えることができます。

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする。

手順 2 オートアラームの侵入センサーを停止する。(操作中のオートアラーム誤作動防止) (→P. 109)

手順 3 キー表面のインジケーターが点滅していないのを確認後  ボタンと同時に、 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける。

操作をおこなうごとに次の表のように設定が切り替わります。(続けて切り替え操作をおこなう場合は、ボタンから手をはなしたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 をおこなってください。)

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ” (3 回) 車内：“ポーン” (1 回)
	握ったドアハンドル側の前後席を解錠	車外：“ピピッ” (4 回) 車内：“ポーン” (1 回)
	握ったドアハンドルのドアのみ解錠	車外：“ピピッ” (1 回) 車内：“ポーン” (1 回)
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ” (2 回) 車内：“ポーン” (1 回)

オートアラームの誤作動防止のため、設定切りかえ後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。)

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。(→P. 109)

■節電機能

電子キーの電池と車のバッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー&スタートシステムを停止します。

- 1ヶ月以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかをおこなうと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- 電子キーを携帯し、ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する
- ワイヤレスリモコンで施錠・解錠する (→P. 47)
- メカニカルキーで施錠・解錠する (→P. 401)

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。(カードキーは 1 年半程度で消耗します。)
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警報音が鳴ります。(→P. 44)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しなかったり作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→ P. 361)
- 電池の著しい消耗を防ぐために以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車に近づけすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。)

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近づきすぎた場合
 - ・ エンジン始動時またはモード切り替え時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上、リヤシート後方のパッケージトレイ上、ドアポケット内、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。
- 洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、電子キーが作動範囲内にある場合ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）
- 手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。
- 車に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠をおこなうと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンを使って解錠すると復帰します。）
- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置に戻し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■ 長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車から 2 m 以上はなしておいてください。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ 警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。以下の対処方法にしたがい適切に対処してください。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出した後、再度施錠してください。
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じてください。
車外から“ピー”と 60 秒間鳴る	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めた後、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

警告音	状況	対処方法
車内から “ピー” と鳴り続ける※ ¹	“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON またはアクセサリモードのとき、シフトレバーを P 以外の位置にしたままドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーを P に入れ、“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にしてください。
車内・車外から “ピー” と鳴り続ける※ ¹	“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON またはアクセサリモードのとき、シフトレバーを P 以外の位置にしたまま電子キーを持ち出して運転席ドアを閉めた	シフトレバーを P に入れ、“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にした後、運転席ドアを閉めてください。
車内から “ポーン” と 1 回鳴る※ ¹	電子キーの電池が残り少ない	電子キーの電池を交換してください。
	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯してエンジンをかけてください。※ ²
車内から “ポーン” と 1 回鳴る 車外から “ピー、ピー、ピー” と 3 回鳴る※ ¹	“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にせずに電子キーを外に持ち出して運転席ドアを閉めた	“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にした後、再度運転席ドアを閉めてください。
	“エンジンスタートストップ” スイッチが OFF になっていないときに、同乗者が電子キーを持ち出してドアを閉めた	キーを車内に戻してください。

※¹ メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

※² 電子キーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。(→P. 40)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

- ドア・トランクの施錠、解錠：→P. 401
- エンジン始動：→P. 403

■ 電池が切れたときは

→P. 361

■ 設定可能な機能

スマートエントリー&スタートシステムの変更ができます。

(カスタマイズ一覧 →P. 421)



警告

■ 電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、室内アンテナ・車外アンテナから約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくは雷克萨斯販売店にお問い合わせください。

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた ワイヤレスリモコン

車外からドアを施錠・解錠、トランクを解錠できます。



- 1 全ドア施錠
- 2 ドアガラスとムーンルーフを閉める（長押し）※
- 3 全ドア解錠
- 4 ドアガラスとムーンルーフを開ける（長押し）※
- 5 トランク解錠（長押し）

パワートランクリッド装着車：
トランクが開く（長押し）

※：レクサス販売店ででの設定が必要です。

知識

■ 作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。
（施錠は1回、解錠は2回）

トランク：ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ ブザーの音量調整

作動の合図のときに鳴るブザーや半ドア警告ブザーはお好みの音量に調整できます。
（→P. 39）

■ オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→P. 109）

■ 電池の消耗について

→P. 42

■ 解錠操作のセキュリティ機能

→P. 44

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは

● ドア・トランクの施錠、解錠：→P. 401

● エンジン始動：→P. 403

■ 電池が切れたときは

→P. 361

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 40

■ 設定可能な機能

トランク解錠操作の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 421)

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた ドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 37

■ ワイヤレスリモコン

→P. 47

■ ドアロックスイッチ



1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ロックレバー



1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

キーを使わずに車外から運転席ドアを施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリまたはイグニッション ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター



施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

以下の機能を設定・解除することができます。(→P. 425)

機能	作動内容
シフト操作連動ロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

 知識**■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方**

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■衝撃感知ドアロック解除システム

車が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■イージークローザー

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。

- “エンジンスタートストップ”スイッチがどのモードであっても、イージークローザーは作動します。
- 車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。(ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く。)
- イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■設定可能な機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧→P. 421)



警告

■ 事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思いもやらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する

- すべてのドアを施錠する

- すべてのドアを確実に閉める

- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

⚠ 警告

■ イージークローザーについて



- ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。指などを挟まないよう十分注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 半ドア状態からイージークローザーが作動するまでに数秒かかります。指などをドアの間に挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、イージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。

⚠ 注意

■ イージークローザーの故障を防ぐために

頻繁にドアの開閉を繰り返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには



トランクオープナースイッチを押して、トランクのロックを解除する

パワートランクリッド装着車の場合は自動で全開します。

■ 車外からトランクを開けるには

▶ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 37

▶ ワイヤレスリモコン

→P. 47

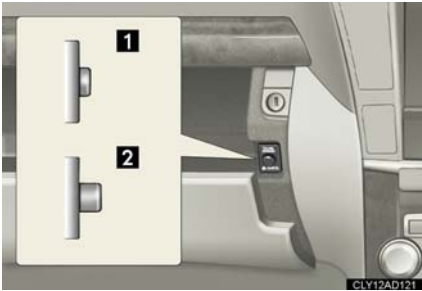
トランククローザー（パワートランクリッド装着車）



スイッチを押すとブザーが鳴り、トランクが自動で閉まります。

トランクが閉まる途中でスイッチを押すと、トランクは再び開きます。

トランクオープナーを使用できなくするには



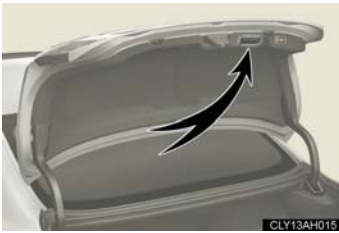
グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

- ① ON
- ② OFF

ワイヤレスリモコン、スマートエントリー&スタートシステムでも、トランクが開かなくなります。



■ トランクグリップ



トランクを引き下げるときにお使いください。

■ イージークローザー

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働きトランクが自動で閉まります。

- “エンジンスタートストップ” スイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動しないときには、トランクを一旦半分以上開けてから、再度閉めてください。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について（すべてのドアが施錠されている場合）

トランク内に電子キーを置いたままトランクリッドを閉めると、警告音が鳴ります。この場合はトランクリッドの解除スイッチで開けられます。

■ 過負荷防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドの上に無理な力がかかっていると作動しません。

■ 落下防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドが自動で開くときに無理な力がかかると、トランクリッドが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■ 挟み込み防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドが閉まる途中で異物を挟むと、作動が停止し、開きます。

■ トランクオープナーメインスイッチを OFF したあとに駐車場などでキーを預けるときは

→ P. 34

■ 設定可能な機能

パワートランクリッドを非作動にすることができます。

（カスタマイズ一覧→ P. 421）

**警告****■ 走行中の警告**

- 走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■ お子さまをのせているときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■ トランクの使用にあたって

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。

トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。



- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

⚠ 警告

■ イージークローザーについて



トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクの間に挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ パワートランクリッドについて

パワートランクリッドの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- トランクリッドが自動で開いている途中でパワートランクリッドスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにトランクが落ちる場合があります。トランクは必ず全開で静止していることを確認して使用してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にトランクリッドが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワートランクリッドが自動作動しているときに、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。自動で作動できずにパワートランクリッドが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。



警告

■ 挟み込み防止機能

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、トランクが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機構は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。



注意

■ イージークローザーの故障を防ぐために

イージークローザーの作動中はトランクに無理な力をかけないでください。

■ パワートランクリッドの故障を防ぐために

- パワートランクリッドを作動させる前に、トランクリッドの上に雪や氷などの荷物が乗っていないことを確認してください。また、凍結によるトランクの貼り付きがないことを確認してください。トランクリッドに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワートランクリッドの作動中は、トランクリッドに無理な力をかけないでください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた フロントシート

1

運転する前に



1 前後位置調整

運転席はシートの動きに合わせてヘッドレストの高さも自動で上下します。

2 リクライニング調整

3 ヘッドレストの上下調整 (→ P. 83)

4 クッション前端の上下調整

5 シート全体の上下調整

6 腰部硬さ調整 (ランバーサポート)

運転席 : 硬さと上下の調整

助手席*: 硬さの調整

7 クッションの長さ調整*

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

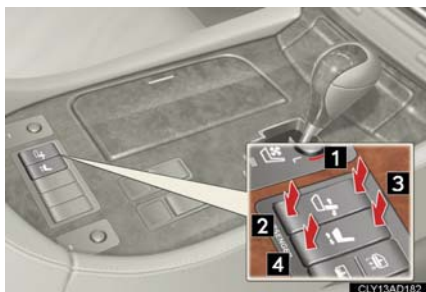
運転席からの助手席操作について

▶ センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車



- 1 背もたれを前に傾ける※¹
- 2 背もたれをうしろに傾ける※²
- 3 シートを前方に動かす
- 4 シートを後方に動かす

▶ センターコンソール付後席ディスプレイ装着車



- 1 背もたれを前に傾ける※¹
- 2 背もたれをうしろに傾ける※²
- 3 シートを前方に動かす
- 4 シートを後方に動かす

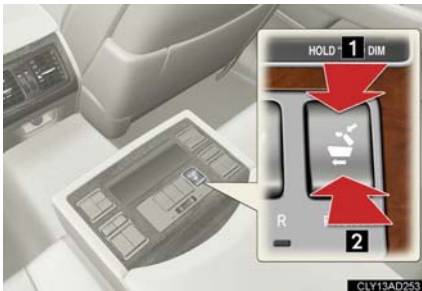
- ※¹ 可倒式ヘッドレスト装着車は、背もたれがいちばん前に傾いたあと、ヘッドレストが倒れます。
- ※² 可倒式ヘッドレスト装着車は、ヘッドレストがもとの位置に戻ったあと、背もたれが傾き始めます。

知識

■ 可倒式ヘッドレストの作動について *

- “エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき、助手席側面または、センターコンソール上のシートリクライニングスイッチの操作にあわせてヘッドレストが以下のように作動します。
 - ・ 前方ヘリクライニング時：リクライニング作動後、ヘッドレストが上昇したのち前倒しになり、作動が完了するとブザーが鳴ります。作動の途中でスイッチから手をはなすと、ヘッドレストは中立位置に戻ります。
 - ・ 後方ヘリクライニング時：ヘッドレストが前倒しになっていると、中立位置まで戻ります。
- 以下の場合、シートリクライニングスイッチを操作してもヘッドレストは作動しません。
 - ・ “エンジンスタートストップ” スイッチが OFF のとき
 - ・ 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知しているとき
 - ・ 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
 - ・ 助手席ドアが開いているとき

リヤ席からの助手席操作について（リラクゼーションシート非装着車）*



1 助手席を前へ移動

スイッチを押し続けると、シートが移動したあと、背もたれ・ヘッドレスト※が倒れます。すべての作動が終了したあと、ブザーが鳴ります。

2 助手席をうしろへ移動

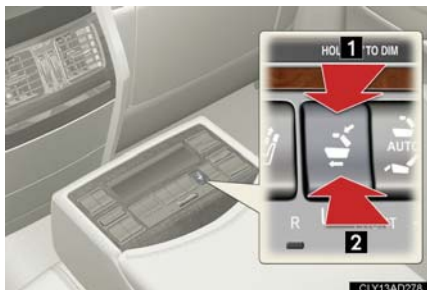
スイッチを押し続けると、ヘッドレスト※・背もたれが中立位置まで戻ったあと、シートがうしろへ移動します。

※ 可倒式ヘッドレスト装着車のみ

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

リヤ席からの助手席操作について（リラクゼーションシート装着車）

▶ 5 人乗り



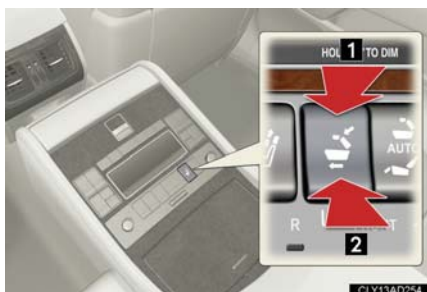
1 助手席を前へ移動

スイッチを押し続けると、シートが移動したあと、背もたれ・ヘッドレストが倒れます。すべての作動が終了したあと、ブザーが鳴ります。

2 助手席をうしろへ移動

スイッチを押し続けると、ヘッドレスト・背もたれが中立位置まで戻ったあと、シートがうしろへ移動します。

▶ 4 人乗り



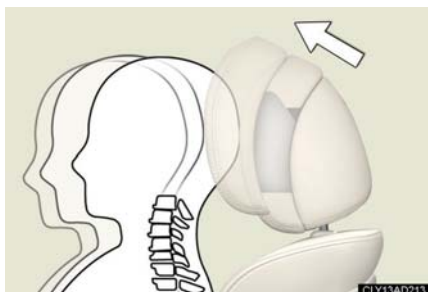
1 助手席を前へ移動

スイッチを押し続けると、シートが移動したあと、背もたれ・ヘッドレストが倒れます。すべての作動が終了したあと、ブザーが鳴ります。

2 助手席をうしろへ移動

スイッチを押し続けると、ヘッドレスト・背もたれが中立位置まで戻ったあと、シートがうしろへ移動します。

アクティブヘッドレスト（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車および可倒式ヘッドレストを除く）



追突の衝撃を車両が感知することで、ヘッドレスト前面が斜め上方に動き、乗員のむち打ち傷害軽減に貢献します。

後退時に、後方からの弱い衝撃でも作動する場合があります。

プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト(後方プリクラッシュセーフティシステム装着車)

後方からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、追突前にヘッドレストを適切な位置まで移動させます。(→P. 257)

 知識**■ リヤ席からの助手席操作について**

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき使用できます。ただし以下の場合は、スイッチを操作しても助手席が作動しません。

- 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき
- 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
- 助手席ドアが開いているときの前方への作動

■ 運転席クッション長さの自動調整*

運転席を前方に調整しているとき、インストルメントパネル周辺にクッションの先端が接触しそうになると、自動的にクッションが短くなるよう調整します。

■ シート作動の自動停止(リラクゼーションシート装着車)

シート操作時やオートアウェイ機能作動時に、フロントシートがテーブル(4人乗り)またはオットマンと接触しそうになると、ブザーが鳴り、シートの作動が止まります。

(マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。)

■ アクティブヘッドレストについて*

- 助手席に乗員がいないと、助手席のアクティブヘッドレストは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトがバックルに留められている場合は、追突時に乗員がいなくても助手席のアクティブヘッドレストが作動することがあります。
- アクティブヘッドレストが作動すると、ヘッドレスト前面が斜め上方に出たままの状態になるため、作動後は必ずレクサス販売店で修理を受けてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



警告

■ シート調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして生命に関わる重大な傷害のおそれがあります。

■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中やヘッドレストが前倒しになっているときは、助手席に座らないでください。

足や頭を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■ 助手席アクティブヘッドレストについて

助手席座面には座布団などを敷かないでください。

乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席のアクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

■ アクティブヘッドレストの取り扱い

● レクサス純正品以外のヘッドレストカバーをつけないでください。

● アクティブヘッドレストの取りはずしや取り付け、分解、廃棄などは、レクサス販売店にご相談ください。不適切に扱うと、事故の際に正常に作動しなくなるおそれがあります。



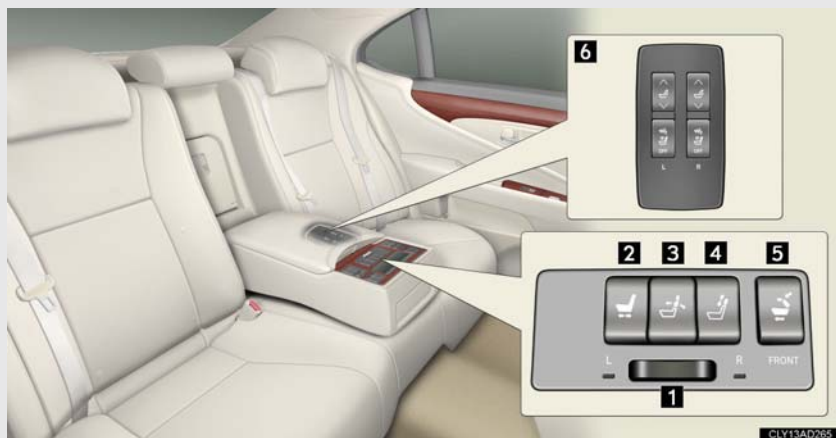
注意

■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について

操作するときは助手席の上や足元に作動を妨げるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた パワーリヤシート*

▶ 5人乗り（リラクゼーションシート非装着車）



1 シート選択

調整できるシートのインジケーターが点灯します。

2 前後位置調整

3 背もたれ上部角度調整

4 ヘッドレスト上下調整（→P. 83）

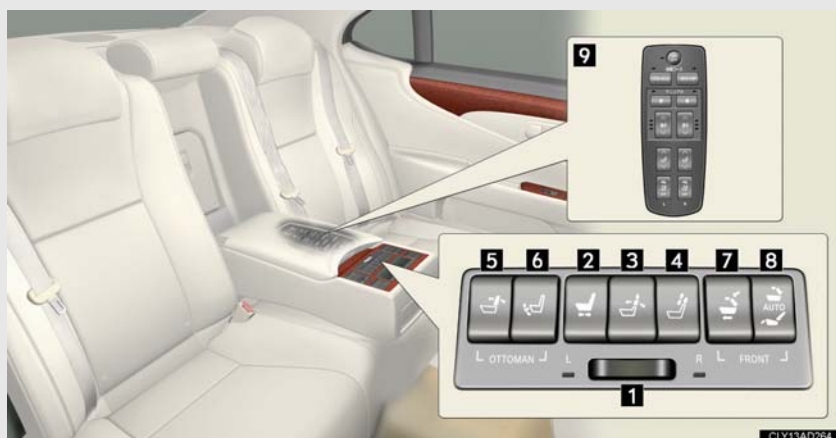
5 助手席コントロールスイッチ（→P. 63）

6 ペルビックサポートシートリモコン（→P. 71）

ドア連動シートリターン機能により、ドアを開けると自動的にシートが中立位置に戻り、乗り降りしやすくなります。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ 5人乗り（リラクゼーションシート装着車）



助手席側のリヤ席には、リクライニング機能とオットマンを備えたリラクゼーションシートが装備されています。

1 シート選択

調整できるシートのインジケーターが点灯します。

2 前後位置調整

3 背もたれ上部角度調整

4 ヘッドレスト上下調整（→P. 83）

5 リクライニング調整

6 オットマン角度調整

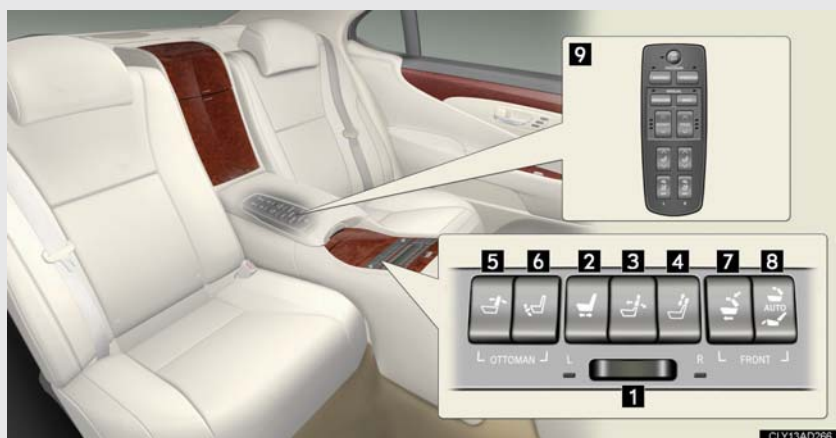
7 助手席コントロールスイッチ（→P. 64）

8 リラクゼーションモードスイッチ

9 リヤシートリラクゼーションシステム（→P. 72）／ペルビックサポートシートリモコン（→P. 71）

ドア連動シートリターン機能により、ドアを開けると自動的にシートが中立位置に戻り、乗り降りしやすくなります。

▶ 4 人乗り



助手席側のリヤ席には、リクライニング機能とオットマンを備えたリラクゼーションシートが装備されています。

1 シート選択

調整できるシートのインジケーターが点灯します。

2 前後位置調整**3 背もたれ上部角度調整****4 ヘッドレスト上下調整 (→P. 83)****5 リクライニング調整****6 オットマン角度調整****7 助手席コントロールスイッチ (→P. 64)****8 リラクゼーションモードスイッチ****9 リヤシートリラクゼーションシステム (→P. 72) / ペルビックサポートシートリモコン (→P. 71)**

ドア連動シートリターン機能により、ドアを開けると自動的にシートが中立位置に戻り、乗り降りしやすくなります。

フロント席からリヤシートを戻す

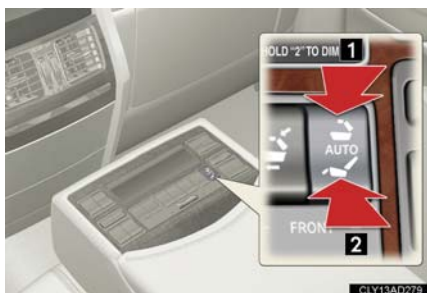


ボタンを押しているあいだ、リヤシートが中立位置へ戻ります。

リラクゼーションモード（リラクゼーションシート装着車）

スイッチ操作で、シートをリラクゼーションモードにすることができます。助手席が前へ移動し、助手席側のリヤ席の背もたれとオットマンが同時に作動します。

▶ 5人乗り



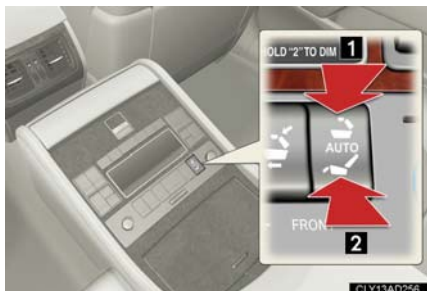
スイッチを押すとブザーが鳴り、作動を開始します。

1 リラクゼーションモードにする

2 中立位置に戻す

途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、ほかのシート操作スイッチを押してください。

▶ 4人乗り



スイッチを押すとブザーが鳴り、作動を開始します。

1 リラクゼーションモードにする

2 中立位置に戻す

途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、ほかのシート操作スイッチを押してください。

ペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）

腰部のサポート機能にバイブレーターを備えたペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）が左右席に装備されています。腰位置に内蔵されたサポートプレート前後位置とバイブレーターの速度をお好みにより調整することができます。

▶ リラクゼーションシート非装着車

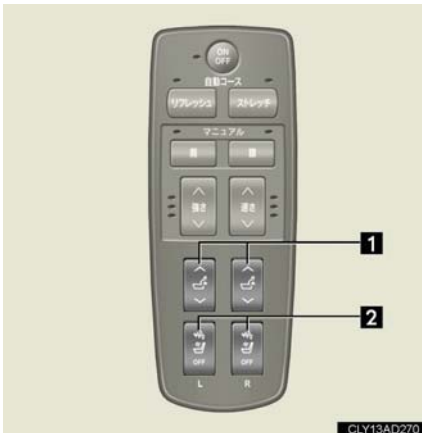


1 前後調整スイッチ

2 バイブレータースイッチ

 を押すと前回使用していた速度で作動を開始します。 を押すごとに、バイブレーターの速度を3段階で調整することができます。
OFF を押すとバイブレーターが停止します。

▶ リラクゼーションシート装着車



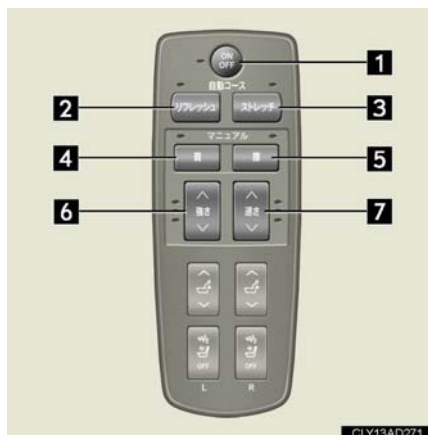
1 前後調整スイッチ

2 バイブレータースイッチ

 を押すと前回使用していた速度で作動を開始します。 を押すごとに、バイブレーターの速度を3段階で調整することができます。
OFF を押すとバイブレーターが停止します。

リヤシートリラクゼーションシステム（リラクゼーションシート装着車）

エアの作動による押圧機能を備えたリラクゼーションシステムが助手席側のリヤ席に装備されています。作動の強さ、速度をお好みにより調整することができます。



1 システムの ON/OFF、各作動の停止

約3分間作動ボタンが選択されなかった場合、自動的にシステムが OFF になります。

2 リフレッシュの自動コース作動を開始

背中全体へ部分的に作動します。

3 ストレッチの自動コース作動を開始

腰部中心に作動します。

4 肩部の作動を開始

5 腰部の作動を開始

6 作動の強さ調整

3 段階で調整することができます。

7 作動の速度調整

3 段階で調整することができます。

知識

■ ドア連動シートリターン機能について

● 作動条件

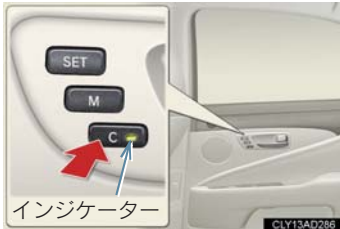
“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

● 作動の停止

次のいずれかの操作でシートのリターン作動が途中で止まります。

- ・ SET・M・C ボタンのいずれかを押す。
- ・ シート調整スイッチのいずれかを押す。

● 機能のキャンセル



C ボタンを押すとドア連動シートリターン機能がキャンセルされます。

キャンセル中はインジケータが点灯します。

ドアを連動させるにはもう一度 C ボタンを押します。

● “エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にしたあと約 45 秒間は、ドア連動シートリターン機能が作動します。

■ リラクゼーションモードについて（リラクゼーションシート）

● 作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき使用できます。ただし以下の場合は、スイッチを押しても作動しません。

- ・ 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき
- ・ 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
- ・ 助手席ドアが開いているときの前方への作動

● “エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にしたあと約 45 秒間は、リターン操作でリヤシートを中立位置に戻すことができます。

■ペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）について

●作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

●自動停止機能

- ・ バイブレーターの作動は、開始から約 15 分で自動的に停止します。
- ・ バイブレーターは、使用している席のドアを開けると、自動的に停止します。

●リターン機能

- ・ サポートプレートの前後調整は、“エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後、約 5 秒で自動的にもとの位置に戻ります。
- ・ サポートプレートは、使用している席のドアを開けると、自動的にもとの位置に戻ります。

■リヤシートリラクゼーションシステムについて

●作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

●自動停止機能

各作動は、開始から約 15 分で自動的に停止します。

 警告

■ パワーリヤシートについて

● シート調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして生命に関わる重大な傷害のおそれがあり危険です。

● フロント席からリヤシートを戻すときは

リヤ席の乗員が車を降りてから操作してください。

● 前後調整やオットマンの操作をするときは（リラクゼーションシート装着車）

足元のスペースを確保し足をフロント席に挟まないように注意してください。

● オットマンの使用について（リラクゼーションシート装着車）

- ・ オットマン部分には座らないでください。シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ つまづいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。

■ ペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）/ リヤシートリラクゼーションシステムのご使用について

● 妊娠中のかた、出産直後のかた、静養を要する疾患（心臓疾患）のあるかたは、使用する前に必ず医師に相談してください。

● お子様は使用しないでください。

● 食後や飲酒後、または長時間の使用は避けてください。

● 使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

 注意

■ オットマンの故障を防ぐために（リラクゼーションシート装着車）

● 足元のスペースを確保しオットマンの作動を妨げないようにしてください。

● オットマン部分に重いものを載せないでください。

● オットマンを上げているときに下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ドライビングポジションメモリー

お好みのドライビングポジション（運転席、ハンドルの位置、ドアミラーの角度、シートベルトの高さ）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。

ドライビングポジションは3パターンまで登録できます。

助手席側のスイッチ*は助手席の位置を登録できます。

■ ポジションの登録

- 手順 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する。
- 手順 2 “エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードにする。
- 手順 3 運転席、ハンドル、ドアミラー角度、シートベルト高さをお好みの位置に調整する。（助手席の位置を記憶させるときは、助手席をお好みの位置に調整する。）



SETボタンを押したあと3秒以内に1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

- 手順 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する。
- 手順 2 “エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードにする。



1～3のうち呼び出したいポジションのボタンを押す。

助手席（リラクゼーションシート装着車）：後席用テーブル使用時（4人乗り）または、オットマン作動時はポジションの呼び出しができません。

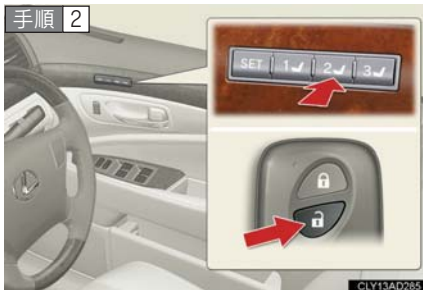
*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠と連動させるには（運転席）

ポジションを電子キーに登録しておく、スマートエントリー&スタートシステム、またはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けたとき、ドライビングポジションが呼び出されます。

▶ ワイヤレスリモコンでの登録

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。



1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの

i をブザーが鳴るまで押す。

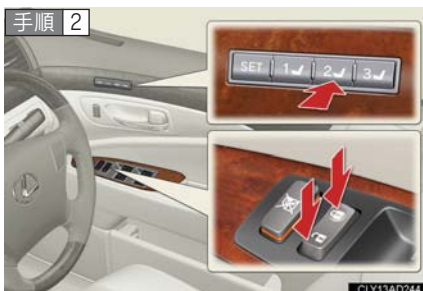
オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんドアを開閉してください。（**i** を押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。）

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。（→P. 109）

▶ ドアロックスイッチでの登録

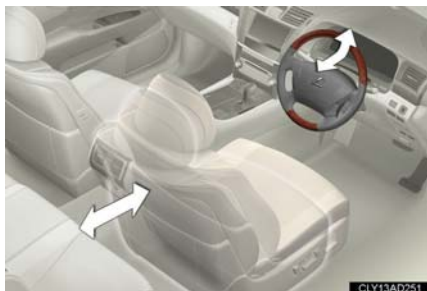
登録させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内にキーが2つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。



1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す。（運転席側・助手席側のどちらか一方でおこなう。）

パワーイージーアクセスシステム（運転席）



運転者が乗り降りしやすいよう、乗降時にオートアウェイ機能 / オートリターン機能が作動します。

▶ オートアウェイ機能（降車時）

以下のすべての操作をおこなったとき、ハンドルが最前方・最上段に、運転席が後方にそれぞれ移動します。

- ・ シフトレバーを P に入れる
- ・ “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする
- ・ シートベルトをはずす

▶ オートリターン機能（乗車時）

以下のいずれかの操作をおこなったとき、ハンドルが手前に、運転席が前方にそれぞれ移動します。

- ・ “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにする
- ・ シートベルトを着用する



知識

■ ドアの解錠と連動させたとき

運転席ドアを開けると運転席が登録したポジションまで動くように作動しますが、乗車しやすいように登録したポジションより少し後方でいったんシートが止まります。“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにする、またはシートベルトを装着すると、登録したポジションまでもう一度スライドします。

■ ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。

手順 2 ワイヤレスリモコンで解除する場合：SET ボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの  をブザーが鳴るまで押す。
ドアロックスイッチで解除する場合：SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す。

■ “エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動

以下の場合、“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にしたあとでも、登録したポジション（1～3）の呼び出しができます。

運転席（ハンドルを除く）：運転席ドアを開けて 180 秒以内、または再び運転席ドアを閉めて 60 秒以内

助手席：助手席ドアを開けて 180 秒以内

■ 各ポジションの呼び出し作動を止めるには

SET・1・2・3 のいずれかのボタンを押すと、呼び出し作動のすべてが停止します。

呼び出し作動中にシート、ハンドル、ドアミラー角度、シートベルト高さの調整スイッチを操作すると、操作したシステムがマニュアル作動に切り替わります。

■ シート作動の自動停止（リラクゼーションシート装着車）

シート操作時やオートアウェイ機能作動時に、フロントシートがテーブル（4人乗り）またはオットマンと接触しそうになると、ブザーが鳴り、シートの作動が止まります。

（マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。）

■ パワーイージーアクセスシステムの作動について

- 降車時に、シートの位置が最後方付近にあると、オートアウェイ機能をおこなわない場合があります。
- オートアウェイ機能作動中にシート位置を調整すると、作動が停止します。
- オートアウェイ機能作動中または作動後にシート位置を調整すると、乗車時にオートリターン機能は作動しません。

■ カスタマイズ機能

オートアウェイ機能によるシート移動量を変更できます。

（カスタマイズ一覧 → P. 421）



■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員に当たったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

リヤシートポジションメモリー*

お好みのリヤ席の位置を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

■ ポジションの登録

手順 1 “エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにする。

手順 2 リヤ席をお好みの位置に調整する。



SET ボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し



M ボタンをブザーが鳴るまで押す。

リラクゼーションシート装着車：
オットマン位置が登録されている位置より上にある場合は、下に作動します。登録されている位置より下にある場合は、上に作動しません。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

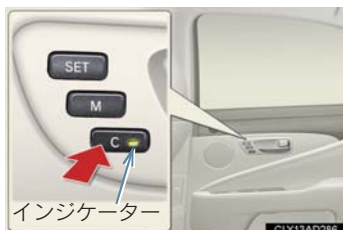


知識

■ ドア連動シートリターン機能

ドアを開けたときに、シートが自動で中立位置に戻ります。“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドア連動シートリターン機能が作動します。

■ ポジションの呼び出し作動・ドア連動のシートリターン作動のキャンセル



C ボタンを押すと、ポジションの呼び出し作動やドア連動シートリターン機能がキャンセルされます。

キャンセル中はインジケータが点灯します。機能を復帰させるにはもう一度 C ボタンを押します。

次のいずれかの操作でシートのリターン作動が途中で止まります。

- SET・M・C ボタンのいずれかを押す。
- シート調整スイッチのいずれかを押す。



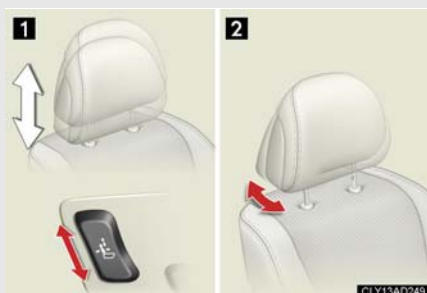
警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、リヤ席乗員がフロントシートに当たらないよう注意してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ヘッドレスト

■ フロント席



1 上下調整

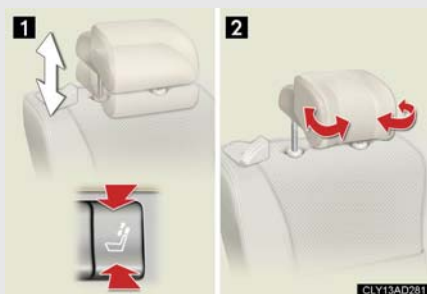
→P. 61

2 前後調整

可倒式ヘッドレスト装着車：運転席のみ調整できます。

■ リヤ外側席

▶ 電動式

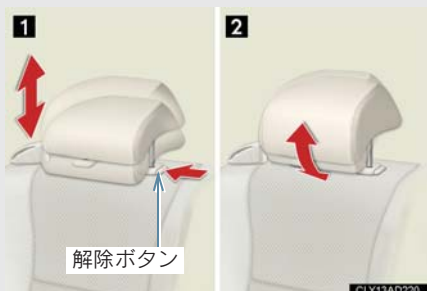


1 上下調整

→P. 67

2 サイドサポート調整

▶ 手動式

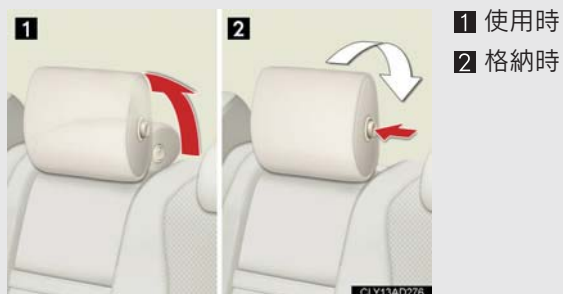


1 上下調整

下げるときは解除ボタンを押しながら調整します。

2 前後調整

■ リヤ中央席（5人乗り）

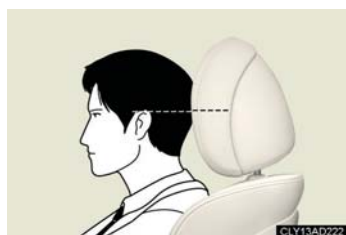


□ 知識

■ ヘッドレストの取りはずしについて

ヘッドレストの取りはずし・取り付けについてはレクサス販売店へご相談ください。

■ ヘッドレストの高さについて（リヤ中央席を除く）



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

■ リヤ中央席について

リヤ中央席に座るときは、必ずヘッドレストを手前に引き起こしてご使用ください。

**警告****■ヘッドレストについて**

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- 手動式ヘッドレスト：ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

■ 着け方、はずし方



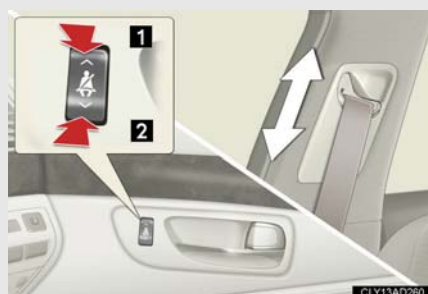
1 固定

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。
はずれないときは、ベルトをひき上げながら解除ボタンを押してください。

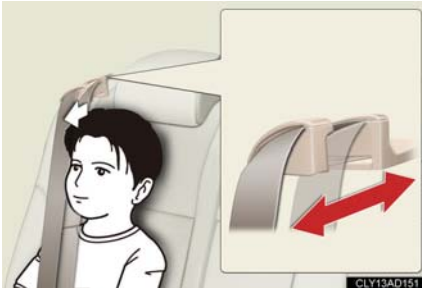
■ シートベルトの高さ調節（フロント席）



1 上がる

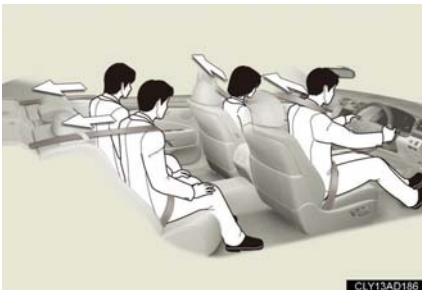
2 下がる

シートベルトコンフォートガイド（リヤ外側席）



肩ベルトが首の近くにかかるときはコンフォートガイドを前方にスライドさせてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席、リヤ外側席）



前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車フロント席）

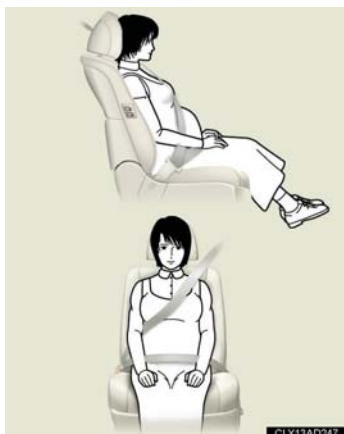
衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取ります。（→P. 247）

知識

■ 緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ 妊娠中の女性や疾患のあるかたの場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 86)

妊娠中のかたも、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまのシートベルトの使い方

シートベルトは、それを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 135)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたにしたがってください。(→P. 86)

■ シートベルト高さの自動調整(運転席・リラクゼーションシート装着車の助手席のみ)

調整後のシートベルト高さをドライビングポジションメモリーとシートポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P. 76)

■シートベルトプリテンショナーについて

- 助手席に乗員がいないと、助手席のシートベルトプリテンショナーは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席のシートベルトプリテンショナーが作動することがあります。
- シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■助手席シートベルトプリテンショナーについて

助手席座面には座布団などを敷かないでください。
乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席のシートベルトプリテンショナーが作動しないことがあります。



警告

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし、分解、廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

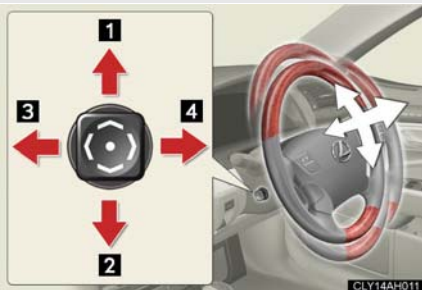
■ プリクラッシュシートベルトについて

プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。

運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを確認して安全運転に心がけてください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ハンドル

“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モードのとき、ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。



- 1 上がる
- 2 下がる
- 3 前方に動く
- 4 手前に動く

知識

■ ハンドル位置の自動調整

好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録することができます。(→P. 76)

■ パワーイージーアクセスシステム

“エンジンスタートストップ” スイッチのモード切り替えや運転席シートベルト脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→P. 78)

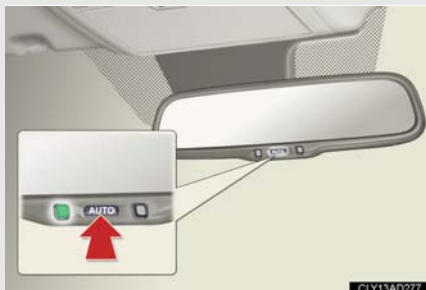
警告

■ 走行中の警告

運転中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた インナーミラー

自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。



自動モードの切り替え

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

上下調整のしかた



インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

知識

■ センサーの誤作動防止



センサーの誤作動を防ぐため、センサーに触れたりセンサーを覆ったりしないでください。

**警告****■ 運転中の警告**

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

1

運転
する
前に

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ドアミラー

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリまたはイグニッション ON モードのとき、スイッチで鏡面の角度調整ができます。



- 1 ミラーを選ぶ
(L : 左、R : 右)
- 2 スイッチを操作してミラーの鏡面を上下左右に調整する。

ドアミラーを格納するときは



- 1 格納する
- 2 もとの位置に戻す

スイッチを中立の位置 (AUTO) にすると自動モードに切り替わり、ドアの施錠・解錠と連動します。

知識

■ ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。)

■ ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P. 76)

■ リバース連動機能

後退時にドアミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。ただし、ミラー選択スイッチを中立の位置 (L・R の間) にしておくと、この機能は作動しません。

■レインクリアリングミラー

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

鏡面に汚れなどが付着すると親水効果は一時的に低下しますが、太陽光をあてることにより付着した汚れを化学的に分解し、親水効果を徐々に回復させる機能も持っています。

- 次のような場合、親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→P. 327）を行ってください。
 - ・ 鏡面に、汚れや異物が付着したり、素手でふれたり汚れた布などでふいたとき
 - ・ 洗車により鏡面に洗剤やワックスが付着したとき
 - ・ 地下・屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したとき
- 次のような場合、親水効果が回復できなくなります。十分注意してください。
 - ・ 鏡面にシリコン入りのカーメンテナンス商品が付着したとき
 - ・ 鏡面に傷を付けたとき

⚠ 警告

■ 走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーをもとの位置に戻して、正しく調整する

■ ミラーが動いているときは

手を触れないでください。

手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるので触れないでください。



■ レインクリアリングミラーの取り扱いについて

- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。
親水膜の効果を持続させるため、鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- シリコン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないように十分注意してください。
- 砂の付いた布・油膜取り剤・研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ロックスイッチ



スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- スマートエントリー&スタートシステムでドアガラスを閉じることができます。
(→P. 37)
- メカニカルキーの操作に連動してドアガラスを開閉できます。(→P. 401)

■ “エンジンスタートストップ”スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ パワーウィンドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウィンドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードの状態、パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 設定可能な機能

ドアキー連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 → P. 421)

⚠ 警告

■ ドアガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などをださないよう「声かけ」をしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方

ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉およびチルトアップ/ダウンできます。

■ 開閉



1 開く

全開の少し手前で止まります。(風切音の低減機能。) さらに開く場合は、スイッチをもう一度押してください。

2 閉まる

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ/ダウン



1 チルトアップ

2 チルトダウン

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ムーンルーフ開警告ブザー

“エンジンスタートストップ”スイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- スマートエントリー&スタートシステムでムーンルーフを閉じることができます。(→P. 37)
- メカニカルキーの操作に連動してムーンルーフを開閉できます。(→P. 401)

■ “エンジンスタートストップ”スイッチ OFF 後の開閉作動

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあと約 45 秒間操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しません。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの CLOSE 側を押し続ける※¹

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※² その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの UP 側を押し続け※¹、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 3 スイッチから一度手をはなし、再度 UP 側を押し続ける※¹

ムーンルーフがチルトアップの状態に 10 秒間停止し、※² 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

※¹ 途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

※² 10 秒間停止したあとにスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの UP、または、CLOSE 側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手をはなしてください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■設定可能な機能

ドアキー連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧 →P. 421)

警告**■ ムーンルーフを開けているときは**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ ムーンルーフを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻きこんだりしないように注意してください。
- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1-5. 給油のしかた 給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

ドアとドアガラスを開め、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしてください。

■ 給油口の開け方



スイッチを押す



キャップをゆっくりまわして開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを開めるときは



キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉めます。

手をはなすと、キャップが逆方向に少し戻ります。

知識

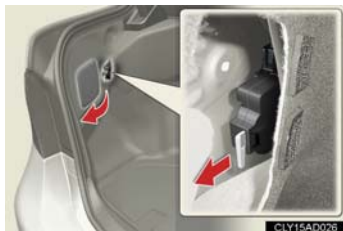
■ 燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■ 燃料タンク容量

約 84 L

■ 給油口が車内から開けられないときは



車内のスイッチを押しても給油口が開かないときは、トランク内のレバーを引きます。



警告

■ 給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けると、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内に戻ったり、帯電している人やものに触れない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

■ キャップ交換時の警告

レクサス純正以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使用しないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ 給油するときは**

指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。



“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、エンジンイモビライザーシステムが正常に働かずエンジンが始動できないことがあります。(→P. 40)

注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、キーを使わずに解錠されたり、こじ開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 / G-Link / G-Security」をご覧ください。

■ オートアラームを設定するには



ドア・トランク・ボンネットを閉め施錠します。30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームの設定を解除・作動を停止するには

以下のいずれかをおこなってください。

- ドアまたはトランクを解錠する。
- “エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する。（数秒後に解除・停止します。）

セキュリティカメラ*



オートアラームが作動するとカメラが車内の様子を撮影します。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 / G-Link / G-Security」をご覧ください。

侵入センサー

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを電波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

車内で動くすべてのものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを停止するには



“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にし、侵入センサー OFF スイッチを押す

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、侵入センサー停止のメッセージが表示されます。もう一度スイッチを押すと侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを停止してアラームを設定するには、アラームを設定するごとに侵入センサー OFF スイッチを押す必要があります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、以下のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームの作動について

次のような場合オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除、作動を停止する操作をおこなってください。



- 車内に残った人が、ドアやトランク、ボンネットを開けたとき



- 施錠後、バッテリーあがりなどで充電や交換をしたとき

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ オートアラーム作動によるドアロック機能について

- オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
- オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

■ 侵入センサーの停止・復帰について

- 侵入センサーを停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとに“エンジンスタートストップ”スイッチを押すかスマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによる解錠操作をおこなうと、侵入センサーが復帰します。
- オートアラームの設定を解除することに侵入センサーは復帰します。

■ G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れを、ご指定のEメールアドレスへお知らせすることができます。また携帯電話からリモート操作機能*を使用して、ドアの施錠・ドアガラスの全閉・非常点滅灯の消灯を操作できます。

これらの機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知・リモート操作機能*が正しく働かないことがあります。

- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／G-Security」を参照してください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■ 侵入センサーの検知について

次のような場合侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。



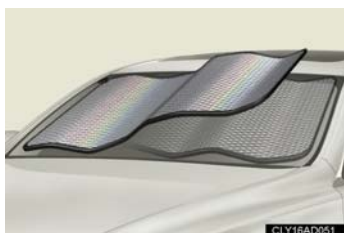
- 車内に乗員やペットなどを残して車両からはなれる場合



- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



- 霜よけシートが風などで動いたとき

 注意

- マスコットやアクセサリをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にあるとき
- ドアガラスやムーンルーフ*などが開いているとき
- 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転ください。



- 1 まっすぐ座り、背もたれから背をはなさない (→ P. 61)
- 2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする (→ P. 61)
- 3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする (→ P. 61)
- 4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする (→ P. 91)
- 5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上の辺りになるようにする (→ P. 83)
- 6 シートベルトが正しく着用できる (→ P. 86)

警告

■ 走行中は

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

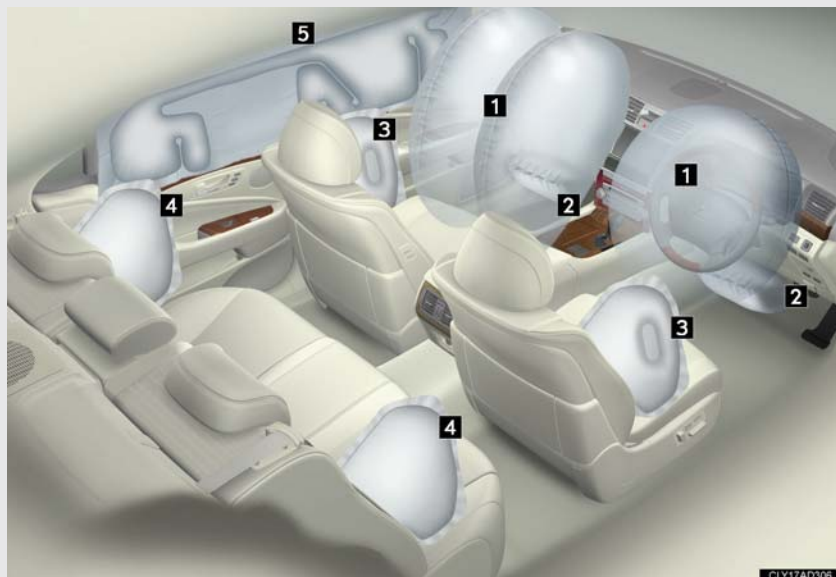


■シートを調整するときは

- 同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。



▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

2 SRS ニーエアバッグ
(運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助)

▶ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS フロントサイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

4 SRS リヤサイドエアバッグ (パワーリヤシート装着車)
(リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

5 SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和)



6 SRS シートクッションエアバッグ（リラクゼーションシートのみ）
（リラクゼーションシート乗員の拘束に寄与）

 知識

■ SRS エアバッグが展開すると

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席、リヤ席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-Linkの契約期間内は、SRSエアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ SRS エアバッグが作動するとき (フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ)

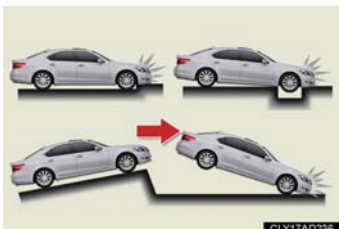
- フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグは、衝撃の強さが設定値 (移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h 程度の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値) 以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突 (例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など) の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。
- 助手席に乗員がいないと、助手席 SRS エアバッグと助手席側の SRS ニーエアバッグは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席 SRS エアバッグと助手席側の SRS ニーエアバッグが作動することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき (SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ)

- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値 (約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値) 以上の場合に作動します。
- 助手席に乗員がいないと、助手席の SRS サイドエアバッグは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席の SRS サイドエアバッグが作動することがあります。

■ 衝突以外で作動するとき (フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ)

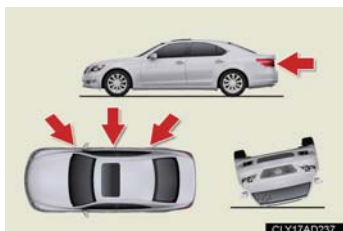
以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、硬いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRS エアバッグが作動しないとき (フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ)

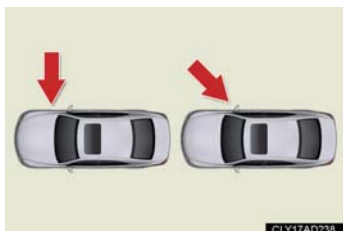
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。



- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグとSRSカーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

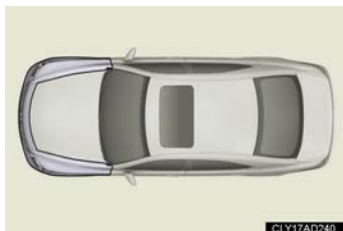


- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分やダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近、インストルメントパネル下部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- リラクゼーションシート: シートクッションの表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■ SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグからはなし、まっすぐに座ってください。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーがついている場合は取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。
- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

警告

■ SRS エアバッグについて



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。



- ドアやフロント・センター・リアピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。(→ P. 135)

警告

■ SRS エアバッグについて



- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。



- ダッシュボード、ステアリングパッド、インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない。



- ドア、フロントウインドウガラス、ドアガラス、フロントおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない。

(速度制限ラベルを除く →P. 385)

- SRSエアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。
- SRSエアバッグがふくらんだあとにもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。
- 助手席座面には座布団などを敷かないでください。
乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席 SRS エアバッグが作動しないことがあります。

 警告**■改造・廃棄について**

レクサス販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理や取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の修理や改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)、除雪装置、ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により以下の5種類に分類されます。

グループ 0	: 10kg まで
グループ 0+	: 13kg まで
グループ I	: 9 ~ 18kg
グループ II	: 15 ~ 25kg
グループ III	: 22 ~ 36kg

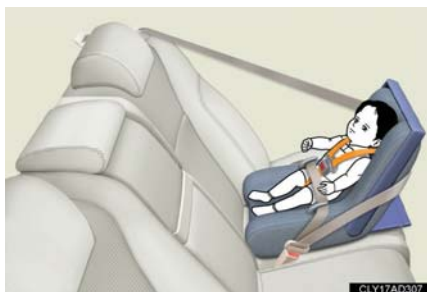
この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにもなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート



ECE R44 基準のグループ 0、0⁺ に相当

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0⁺、I に相当

▶ ジュニアシート



ECE R44 基準のグループ II、III に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U	U
0+（13kg まで）	×	U	U
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き UF	U	U
	うしろ向き ×		
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF	U	U
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF	U	U

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向きの子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
II（15 ～ 25kg）		(1)	×
III（22 ～ 36kg）		(1)	×

1

運転する前に

● 上表に記入する文字の説明

(1)：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

● ISOFIX 子供専用シートの一覧

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	レクサス純正ベビーシート	準汎用
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	レクサス純正ベビーシート	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。



知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用ください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 128)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 129)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子様の体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1) : 体重が 12 kg の場合、質量グループは「O⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1) : 質量グループが「O⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「II」に記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→ P. 129)で指定されている製品を使用してください。



子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用(ユニバーサル)子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

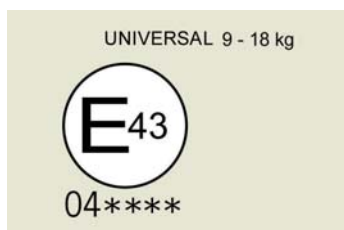
※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



- 1** ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

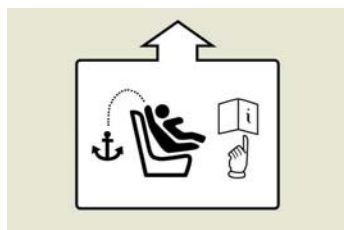
サイズ等級が示されています。(表示される文字は、製品により異なります)

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



- 2** 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



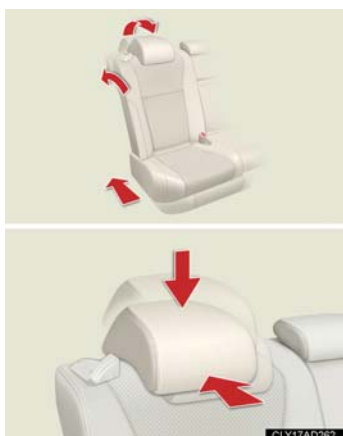
- 3** トップテザー（→ P. 135）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■パワーリヤシートの外側席にチャイルドシートを取り付けるときは



シートを以下のように調整してください。

- 背もたれ上部をいちばんうしろにする。
- リラクゼーションシート: 背もたれをいちばん上まで起こす。
- シートをいちばんうしろに下げる。
- ヘッドレストをいちばん低くし、いちばんうしろにする。

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき



やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 子供専用シートを取り付け背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。



■ 子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

1-7. 安全にお使いいただくために チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤ外側シートに取り付けてください。

取り付け方法は、必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがってください。



- 1** シートベルトによる取り付け
(→ P. 136)



- 2** ISOFIX 対応チャイルドシート
固定専用バー (→ P. 136)

リヤシート外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています。)



- 3** トップテザーアンカー
(→ P. 136)

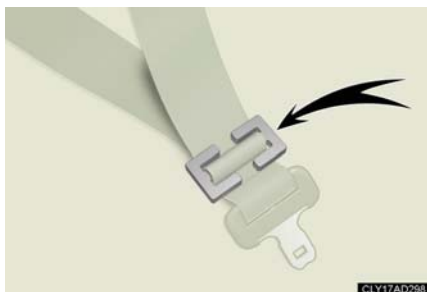
テザーベルトを固定するときには使用します。
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

シートベルトで固定する



チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートを保ックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

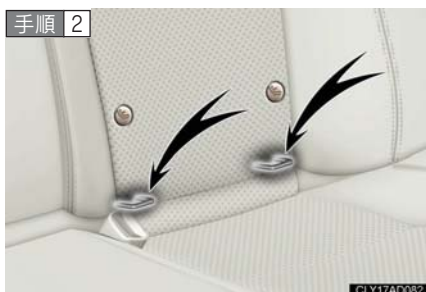
ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。
(ロッキングクリップ 品番：73119-22010)

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する



ヘッドレストをいちばん下まで下げる。(→ P. 83)



ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する。

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。



チャイルドシートをシートに取り付ける。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがってください。



トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトは必ずヘッドレストの上を通し、ピンと張ってフックがしっかり固定されているか確認します。



取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する。



警告

■チャイルドシートについて

- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、子供がフロントウインドウガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心になるようにしてください。ベルトを首からはなすとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。



- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



警告

■チャイルドシートを取り付けるときは



- 助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを使用しないときは

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください (→ P. 136)。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

運転するときに

2

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	142
エンジン（イグニッション） スイッチ	151
オートマチック トランスミッション （パドルシフト非装着車）...	155
オートマチック トランスミッション （パドルシフト装着車）	160
方向指示レバー	167
パーキングブレーキ	168
ブレーキホールド	171
ホーン（警音器）.....	174

2-2. メーターの見方

計器類	175
表示灯／警告灯	180
マルチインフォメーション ディスプレイ	184

2-3. ライトのつけ方・ ワイパーの使い方

ライトスイッチ	191
オートマチック ハイビーム	194
フォグライトスイッチ	199
ワイパー & ウォッシャー	200

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	203
レーダークルーズ コントロール	207
レーダークルーズ コントロール （全車速追従機能付）	219
LKA（レーンキーピング アシスト）	233
電子制御エア サスペンション	239
運転を補助する装置	241
プリクラッシュセーフティ システム（PCS）	247
後方プリクラッシュ セーフティシステム	257
ナイトビュー （歩行者検知機能付）	260

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	269
寒冷時の運転	271

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ エンジンをつける (→P. 151)

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする。
(→P. 155, 160)

手順 2 パーキングブレーキを解除する。
(→P. 168)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足をはなし、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。
(→P. 155, 160)

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。
(→P. 168)

手順 3 シフトレバーを P にする。
(→P. 155, 160)

手順 4 “エンジンスタートストップ” スイッチを押してエンジンを止める。

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを D にする。

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

 知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが働きます。(→P. 241)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ アイドリング時のエンジン回転数について

シフトレバーが P または N でアイドリング状態を長時間続けたとき、エンジン回転数が約 1000 r/min に上昇することがありますが、異常ではありません。(上昇後、一定時間経過すると、もとのエンジン回転数にもどります。)

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

 警告

■ 発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

 警告

■ **運転するときは**

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを前進側のシフトポジションにいったまま惰性で後退したり、Rにいったまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因になるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

 警告

- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 412 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→ P. 155, 160)
- 坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- 走行中はハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした AWD 車ではありません。やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

 警告

■ **すべりやすい路面を運転するときは**

- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。

シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **停車するときは**

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

**警告****■ 駐車するときは**

- 炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ スプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車からはなれるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてエンジンを止め施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車からはなれないでください。
- エンジン回転中または停止直後はマフラーやバンパー体ディフューザーに触れないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。



警告

■ 排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずレクサス販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ 仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ ブレーキをかけるときは

- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- ブレーキシステムは三つの独立したシステムで構成されており、一つの油圧システムが故障しても、のこりは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。この状態で走行しないでください。走行中、ブレーキ警告灯（赤色）の点灯と同時にブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店に連絡してください。

■ 万一脱輪したときは（AWD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意

■ 運転中は

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ブレーキパッド摩耗の警告メッセージが表示されたら

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換がおこなわれないと、ブレーキディスクの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやブレーキディスクなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりとって徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 382 をご覧ください。

 注意

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、トランスファー（AWD 車）ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作をおこなうことで、エンジンの始動または“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードを切り替えることができます。

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する。

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む。

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。

緑色に点灯していないとエンジンは始動しません。



“エンジンスタートストップ”スイッチを押す。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏みつけてください。

“エンジン スタート ストップ”スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

■ “エンジンスタートストップ” スイッチのモード切り替え

ブレーキペダルを踏まずに“エンジンスタートストップ”スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。（スイッチを押すごとにモードが切り替わります。）



1 OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※：シフトレバーがP以外のときは OFF になりません。

知識

■ エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→ P. 108)

■ ステアリングロックが解除できないときは



マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、“エンジンスタートストップ”スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ “エンジンスタートストップ”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、1 時間以上アクセサリモードにしたままにしておくと、“エンジンスタートストップ”スイッチが自動で OFF になります。

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 42

■ 電子キーが正常に働かないときは

→ P. 401

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 40

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 43

 警告

■ **エンジンを始動するときは**

必ず運転席に座っておこなってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **緊急時のエンジン停止方法**

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上“エンジンスタートストップ”スイッチを押し続けてください。

ただし、緊急時以外は走行中に“エンジンスタートストップ”スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 注意

■ **バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ **エンジンを始動するとき**

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方



← “エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

← ゲートにそってそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

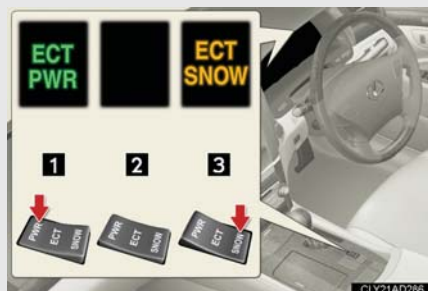
■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P（パーキング）	駐車またはエンジン始動
R（リバース）	後退
N（ニュートラル）	動力が伝わらない状態
D（ドライブ）	通常走行※（1 速～ 8 速まで自動変速）
S（シークエンシャル）	S モード走行（→ P. 157）

※ D ポジションを使用することで、そのときの走行状況に適切なギヤ段が自動で選択されます。通常は D ポジションを使用してください。

■ 走行モードの選択

走行・使用条件にあわせて以下のモードをすべてのシフトポジションで選択できます。



1 パワーモード

パワフルな運転や山間地などの走行に適しています。

2 通常走行モード

3 スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行に適しています。

パワーモードまたはスノーモードを解除するときは、もう一度同じスイッチを押します。



4 エコドライブモード

車両駆動力とエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

オプティロンメーター装着車：マルチインフォメーションディスプレイの表示が平均燃費／エコドライブインジケータゾーン表示に切り替わります。（→P. 186）

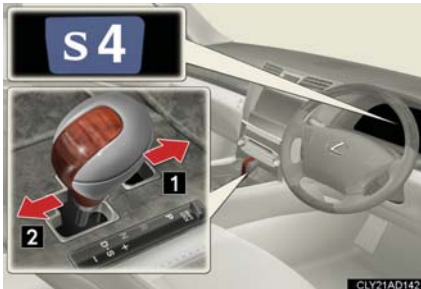
エコドライブモードを OFF にするには、もう一度スイッチを押します。

選択するごとに走行モードが切り替わります。

S モードでのシフトレンジ切り替え

シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切り替わります。

S モードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限します。上り坂などで高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたいときや、下り坂などでエンジンプレーキ力を切り替えたいときに使用します。



- 1 シフトレンジアップ
- 2 シフトレンジダウン

Sポジションへ操作したときの初期シフトレンジは車速や走行状況に応じて3～6レンジに設定されます。

■ シフトレンジ機能

- 車速や走行状況に応じて、1 速～8 速のギヤ段を自動的に選択します。ただし、選択したシフトレンジに応じて最高ギヤ段は制限されます。
- エンジンプレーキ力は、8 段階から選択が可能です。
- より大きなエンジンプレーキ力を使用するときは、シフトレンジの数字を小さくしてください。



知識

■ S モード

- 6 レンジ以下のとき、シフトレバーを＋側へ保持すると 8 レンジに設定されます。
- シフトレバーを一側へ操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるシフトレンジにダウンします。
- エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。

■ シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります。）

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ クルーズコントロールを使って走行しているとき

S モード走行時に 7、6、5 または 4 へシフトレンジダウンしてもエンジンブレーキは効きません。（→P. 203, 207, 219）

■ スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを切ると、自動的に通常走行モードに切り替わります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは車両駆動力や暖房／冷房の作動・風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをより良くしたいときは、風量の調整、またはエコドライブモードを解除してください。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 396

■ AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切り替えます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D または S にしているときに自動的に作動します。

アクセルペダルをはなしてもエンジン回転数の高い状態が続くことがあります。異常ではありません。

NAVI・AI-SHIFT：

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方は別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

警告

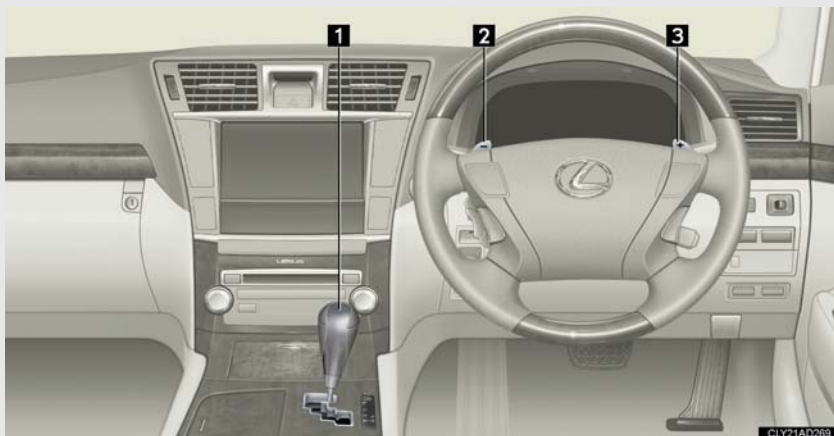
■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

2-1. 運転のしかた

オートマチックトランスミッション（パドルシフト装着車）

状況に応じてシフトポジションをお選びください。



① シフトレバー

② パドルシフトスイッチ（－）

③ パドルシフトスイッチ（＋）

■ シフトレバーの動かし方



← “エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

← ゲートにそってそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

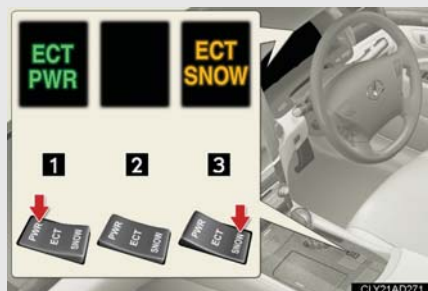
■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	メーター表示	目的
P（パーキング）		駐車またはエンジン始動
R（リバース）		後退
N（ニュートラル）		動力が伝わらない状態
D（ドライブ）		通常走行※ (1 速～ 8 速まで自動変速)
	 (パドルシフトス イッチ操作時)	レンジの選択 (→P. 163)
M（マニュアル）		M モード走行 (→P. 164)

※ D ポジションを使用することで、そのときの走行状況に適切なギヤ段が自動で選択されます。通常は D ポジションを使用してください。

■ 走行モードの選択

走行・使用条件にあわせて以下のモードをすべてのシフトポジションで選択できます。



1 パワーモード

パワフルな運転や山間地などの走行に適しています。

2 通常走行モード（推奨）

3 スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行に適しています。

パワーモードまたはスノーモードを解除するときは、もう一度同じスイッチを押します。



4 エコドライブモード

車両駆動力とエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

オプティロンメーター装着車：マルチインフォメーションディスプレイの表示が平均燃費／エコドライブインジケータゾーン表示に切り替わります。（→P. 186）

エコドライブモードを OFF にするには、もう一度スイッチを押します。

選択するごとに走行モードが切り替わります。

D ポジションでのレンジ選択

シフトレバーが D ポジションのときにパドルシフトスイッチの一侧を操作すると、一時的にシフトレンジを選択する走行へ切り替わります。

シフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限します。上り坂などで高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたいときや、下り坂などでエンジンプレーキ力を切り替えたいときに使用します。

パドルシフトスイッチの一侧または+側の操作でシフトレンジを選択することができます。



1 シフトレンジダウン

走行状態に適したエンジンプレーキ力を得られるシフトレンジにダウンします。

2 シフトレンジアップ

1～8レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

通常走行に戻すときは、パドルシフトスイッチの+側を一定時間以上保持します。

D ポジションでパドルシフトスイッチの一侧を操作したときの初期のレンジは、通常走行中のギヤ段より1段シフトダウンするレンジになります。

■ シフトレンジ機能

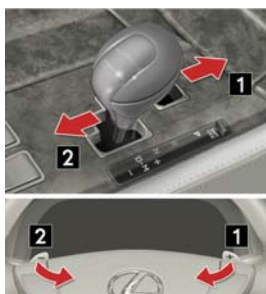
- 車速や走行状況に応じて、1 速～8 速のギヤ段を自動的に選択します。ただし、選択したシフトレンジに応じて最高ギヤ段は制限されます。
- エンジンプレーキ力は、8 段階から選択が可能です。
- より大きなエンジンプレーキ力を使用するときは、シフトレンジの数字を小さくしてください。
- 以下のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。
 - ・ 停車したとき
 - ・ 6 レンジ以上の同一レンジで、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

M ポジションでのギヤ段選択

シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切り替わります。

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの－側または＋側の操作でギヤ段を選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作することにより 1 速ずつ変速し、選択したギヤ段に固定されます。

1 ～ 8 速のあいだで選択されているギヤ段がメーターに表示されます。

M モードでは、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しない限り変速しません。ただし、以下の場合は自動的に変速します。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- オートマチックトランスミッションフルードやエンジン冷却水が低温の場合
- オートマチックトランスミッションフルードが高温の場合

 知識**■ シフトダウン制限警告ブザー**

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーやパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが2回鳴ります。）

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ クルーズコントロールを使って走行しているとき

D ポジションでのレンジ選択走行中に 7、6、5 レンジまたは 4 レンジへダウンしてもエンジブレーキは効きません。（→P. 203、207、219）

■ パワーモードとスノーモードの自動解除

パワーモードまたはスノーモードを選択して走行後、エンジンを切ると、自動的に通常走行モードに切り替わります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは車両駆動力や暖房／冷房の作動・風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをより良くしたいときは、風量の調整、またはエコドライブモードを解除してください。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 396

■ オートマチックトランスミッション高油温警告メッセージが表示されたときは

走行中にオートマチックトランスミッション高油温警告メッセージが表示されたときは、D ポジションの通常走行に切り替えたうえでアクセルをゆるめ、車速を落としてください。

安全な場所に車両を停止させ、シフトレバーを P ポジションにシフトして、警告メッセージが消えるまでアイドリング状態にしてください。

警告メッセージが消えたあと、再び走行することができます。

しばらくしても消えないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切り替えます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションにしているとき、自動的に作動します。（シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます。）

アクセルペダルをはなしてもエンジン回転数の高い状態が続くことがあります。異常ではありません。

NAVI・AI-SHIFT：

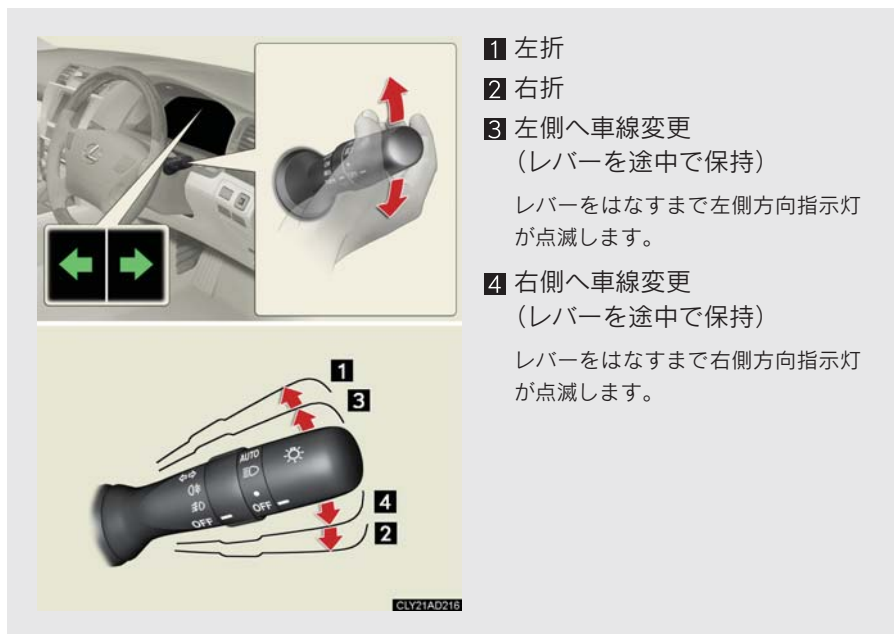
ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方は別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。



■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作やエンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

2-1. 運転のしかた 方向指示レバー



知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた

パーキングブレーキ

パーキングブレーキは電動パーキングブレーキシステムを採用しています。

■ マニュアルモード



- 1 パーキングブレーキをかける
(スイッチを押す)

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。(→P. 170)

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。押しているあいだのみパーキングブレーキがかかります。

- 2 パーキングブレーキを解除する
(スイッチを引く)

パーキングブレーキ表示灯が消えます。ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモード

シフトレバーの操作に連動して、パーキングブレーキが自動で作動します。発進時などに自動で解除されたり、駐車時などに自動でかかります。



スイッチを押す

オートモードがONになると、スイッチ上のインジケーターが点灯します。

OFF するにはもう一度スイッチを押します。

オートモードがON のとき、次のように作動します。

- シフトレバーを P に入れる
パーキングブレーキがかかります。
- シフトレバーを P から動かす
パーキングブレーキが解除されます。

シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
(→P. 155, 160)

知識

■ パーキングブレーキの作動

- “エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- “エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モード以外では、オートモードによる作動（かける、解除する）はできません。
- 短時間に作動を繰り返すと、システムのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態に戻ります。

■ パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、“エンジンスタートストップ” スイッチのモードによって、以下のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
イグニッション ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
イグニッション ON モード以外：約 15 秒間点灯します。
- パーキングブレーキをかけた状態で“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが異常ではありません。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→P. 375, 379）
また、状況によってはパーキングブレーキ表示灯が点滅します。

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→P. 271）の記載を参照してください。



注意

■ 駐車するとき

車からはなれるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にし、車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告表示を確認してください。（→P. 380）

■ パーキングブレーキがかかったままになったときは

パーキングブレーキシステムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店に連絡してください。

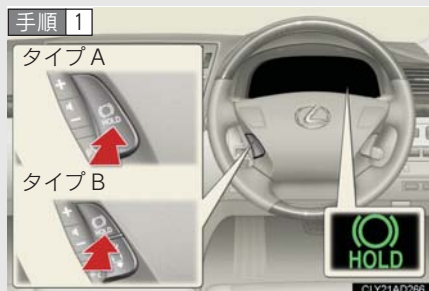
緊急時のみ、手動解除用ツールを使用して解除してください。（→P. 397）

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

2-1. 運転のしかた

ブレーキホールド

ブレーキペダルを踏んで停車することで、ブレーキがかかったまま保持されます。その後、アクセルペダルを踏むと同時にブレーキが解除され、スムーズに発進できます。



ブレーキホールドスイッチを押す

システムが ON になると、ブレーキホールドスタンバイ表示灯() が点灯します。

▶ パドルシフト非装着車

手順 2 シフトレバーが D、S または N のとき、ブレーキペダルを踏んで停車する

ブレーキが保持されます。保持中はブレーキホールド作動表示灯 () が点灯します。

手順 3 シフトレバーが D または S のとき、アクセルペダルを踏んで発進する

ブレーキが解除されます。

▶ パドルシフト装着車

手順 2 シフトレバーが D、M または N のとき、ブレーキペダルを踏んで停車する

ブレーキが保持されます。保持中はブレーキホールド作動表示灯 () が点灯します。

手順 3 シフトレバーが D または M のとき、アクセルペダルを踏んで発進する

ブレーキが解除されます。



知識

■ システムが ON にならない / OFF になる条件

以下のときはシステムを ON できません。

- トランクまたはボンネットが閉まっていない
- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記のいずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯が消えます。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中に次のいずれかを行うと、警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。
 - ・ トランクまたはボンネットを開ける
 - ・ 運転席ドアを開ける
 - ・ 運転席シートベルトをはずす
 - ・ 約 3 分間ブレーキペダルを踏まなかった
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。このときはマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- ブレーキ保持中にシステムを OFF するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

パーキングブレーキは自動的に解除されません。パーキングブレーキスイッチを操作してブレーキを解除し、パーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。(→P. 168)

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 375, 379)

 警告**■ すべりやすい路面では**

タイヤのグリップ限界を超えて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

 注意**■ 駐車するとき**

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中に“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。“エンジンスタートストップ”スイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。

2-1. 運転のしかた

ホーン（警音器）



ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。

2-2. メーターの見方

計器類

▶ オプティトロンメーター



“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 184

3 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

4 燃料計

燃料残量を示します。

5 インstrumentパネル照度調整スイッチ

6 オドメーター

走行した総距離を表示します。

7 トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

8 シフトポジション・シフトレンジ表示

→P. 155、160

9 トリップメーター切り替え・トリップメーターリセットスイッチ

10 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

▶ ファイングラフィックメーター



“エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

3 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

4 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 184

5 燃料計

燃料残量を示します。

6 エコドライブインジケーターゾーン表示

→P. 188

7 インストルメントパネル照度調整スイッチ**8** オドメーター

走行した総距離を表示します。

9 トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

10 外気温度表示

外気温度を -40°C ~ 50°C の間に表示します。

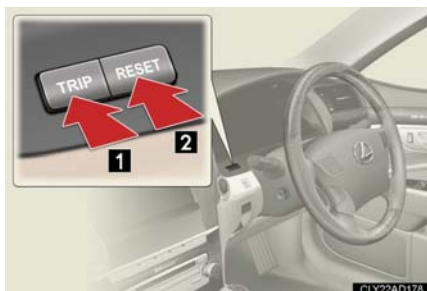
11 シフトポジション・シフトレンジ表示

→P. 155、160

12 トリップメーター切り替え・トリップメーターリセットスイッチ

ナイトビュー装着車にお乗りの方は、「ナイトビュー」(→P. 260) もあわせてご覧ください。

トリップメーター切り替え、トリップメーターリセットスイッチ



1 表示を切り替える

2 表示中のトリップメーターの走行距離が 0 に戻る

インストルメントパネル照度調整スイッチ

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



1 明るくなる

2 暗くなる

知識

■ 外気温表示について（ファイングラフィックメーター）

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 408）

2-2. メーターの見方 表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ オプティロンメーター



▶ ファイングラフィックメーター



▶ センターパネル



■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→P. 167)



クルーズコントロール
表示灯
(→P. 203, 207, 219)



尾灯表示灯 (→P. 191)



LKA 表示灯* (→P. 233)



ヘッドライト
上向き表示灯 (→P. 191)



※ 1
AFS OFF 表示灯
(→P. 192)



オートマチックハイビーム
表示灯 (→P. 194)



※ 1, 3
スリップ表示灯
(→P. 242)



フロントフォグライト
表示灯 (→P. 199)



※ 1
VSC OFF 表示灯
(→P. 243)



リヤフォグライト
表示灯* (→P. 199)



※ 1
ブレーキホールド
スタンバイ表示灯
(→P. 171)



スポーツモード表示灯
(→P. 239)



※ 1
ブレーキホールド
作動表示灯 (→P. 171)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



コンフォートモード表示灯
(→P. 239)



パーキングブレーキ表示灯
(→P. 168)



エアサスペンション HIGH
表示灯 (→P. 239)



エコドライブインジケー
ターランプ (→P. 188)



ECT SNOW 表示灯
(→P. 156, 162)



ECO MODE 表示灯
(→P. 156, 162)



ECT PWR
表示灯 (→P. 156, 162)

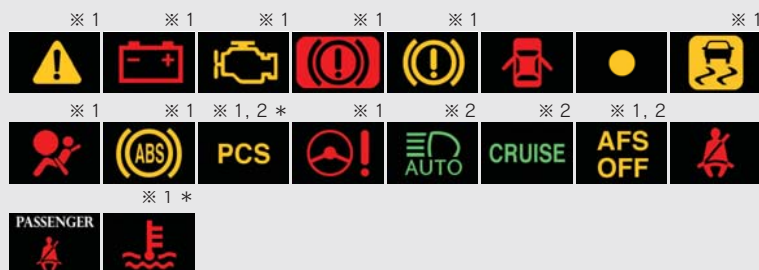
※ 1 作動確認のために“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※ 2 オプティロンメーター装着車は、作動確認のために“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※ 3 点滅した場合はシステムが作動していることを示します。

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 375)



※1 作動確認のために“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

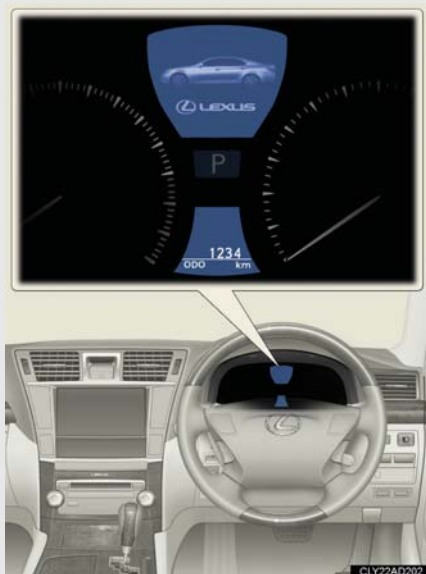
ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、走行に関する様々な情報を表示します。

▶ オプティロンメーター



- トリップインフォメーション (→P. 186)

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

- クリアランスソナー表示*

(別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照)

- レーダークルーズコントロール表示* (→P. 207, 219)

レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。

- レーンキーピングアシスト表示* (→P. 233)

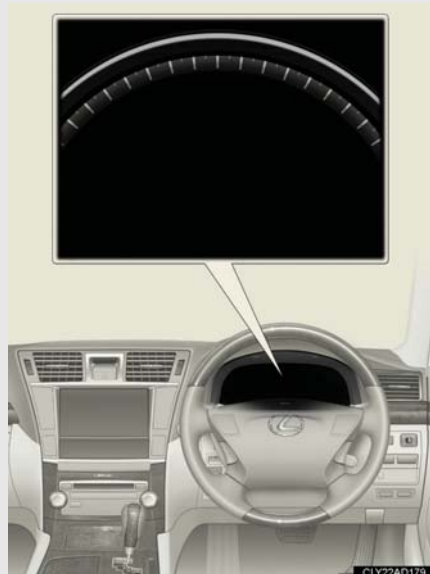
レーンキーピングアシスト使用時に自動で表示されます。

- 警告メッセージ (→P. 379)

各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ ファイングラフィックメーター



- トリップインフォメーション
(→P. 186)

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

- クリアランスソナー表示*

(別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照)

- レーダークルーズコントロール表示* (→P. 207, 219)

レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。

- レーンキープアシスト表示* (→P. 233)

レーンキープアシスト使用時に自動で表示されます。

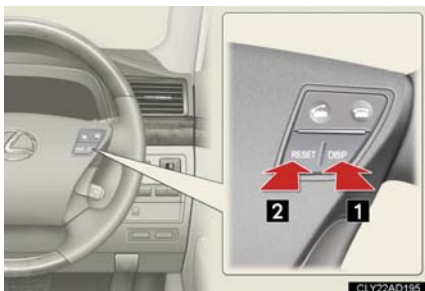
- レーン表示／交差点案内表示
(→P. 190)

- 警告メッセージ (→P. 379)

各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

トリップインフォメーション



1 DISP スイッチ

項目を切り替えるには、DISP スイッチを押します。

2 RESET スイッチ

■ 外気温（オプティロンメーター）

外気温を表示します。

-40℃ ～ 50℃ の間に表示します。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際は“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてください。万一、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ 平均燃費／エコドライブインジケーターゾーン表示（オプティロンメーター）

リセットしてからの通算平均燃費とエコドライブインジケーターゾーン表示を表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費表示中に RESET スイッチを押します。
ナビゲーションシステム画面の区間燃費画面も更新されます。
区間燃費画面については「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 平均燃費（ファイングラフィックメーター）

リセットしてからの通算平均燃費を表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費表示中に RESET スイッチを押します。
ナビゲーションシステム画面の区間燃費画面も更新されます。
区間燃費画面については「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 給油後平均燃費

給油をしてからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 給油後走行距離

給油をしてからの走行距離を表示します。

■ 走行時間

リセットしてからの走行時間を表示します。

リセットするには、走行時間表示中に RESET スイッチを押します。

■ 平均車速

リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に RESET スイッチを押します。

■ エコドライブインジケータランプの表示／非表示の切り替え（オプティトロンメーター）

エコドライブインジケータランプの表示／非表示を設定できます。

DISP スイッチを 1 秒以上押すと切り替わります。

■ カスタマイズ（ファイングラフィックメーター）

エコドライブインジケーターランプの表示／非表示の切り替えや文字サイズの設定などを変更できます。

車両停車中に、DISP スイッチを 1 秒以上押すとカスタマイズメニュー画面が表示されます。

カスタマイズメニュー画面に、カスタマイズ項目説明や操作方法などが表示されるので、表示に従って設定を変更できます。

クルーズコントロールスイッチが ON の状態、またはナイトビュー画面表示中は設定を変更できません。



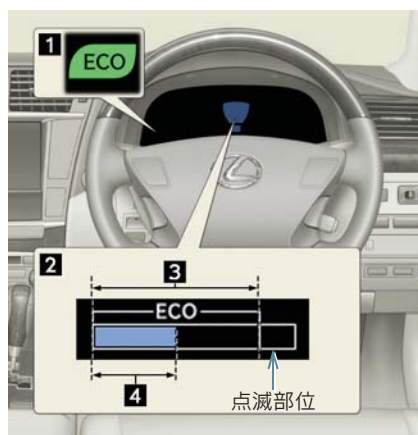
知識

■ システムチェック表示（オプティロンメーター）

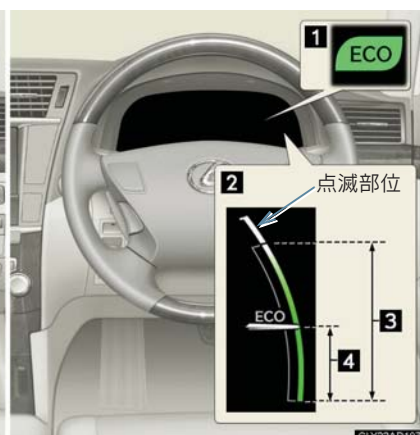
“エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッション ON モードにしたとき、システムの作動確認のため「SYSTEM CHECK」と表示されます。チェックが終わると、通常の画面表示になります。

■ エコドライブインジケーターについて

▶ オプティロンメーター



▶ ファイングラフィックメーター



1 エコドライブインジケータランプ

環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）中は、エコドライブインジケータランプが点灯します。

2 エコドライブインジケータゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

3 エコ運転の範囲**4 現状のアクセル開度**

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲を超えたとき、エコドライブインジケータゾーン表示の端部が点滅します。

このとき、エコドライブインジケータランプは消灯します。

▶ パドルシフト非装着車

次の場合、エコドライブインジケータは作動しません。

- シフトレバーが D 以外のとき
- 走行モードがパワーモードまたはスノーモードのとき（→P. 156）
- 車速が約 100 km/h 以上のとき

▶ パドルシフト装着車

次の場合、エコドライブインジケータは作動しません。

- シフトレバーが D 以外のとき
- パドルシフトを使用しているとき（→P. 163）
- 走行モードがパワーモードまたはスノーモードのとき（→P. 162）
- 車速が約 100 km/h 以上のとき

■ 外気温表示について（オプティロンメーター）

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

■ トリップインフォメーションの背景画を消すには（オプティロンメーター）

瞬間燃費以外を表示中に DISP スイッチを約 1 秒以上押します。

表示したいときはもう一度約 1 秒以上押します。

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- 航続可能距離
- 平均燃費
- 給油後平均燃費
- 給油後走行距離
- 走行時間
- 平均車速

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■ レーン表示／交差点案内表示について（ファイングラフィックメーター）



- 交差点案内表示は、ナビゲーションシステムの目的地案内設定をしているときに表示されます。分岐する交差点に近づくと、分岐までの距離、分岐方向が表示されます。
- レーン表示は、交差点に近づくと表示されず。ナビゲーションシステムで目的地案内を設定しているときは、推奨レーンを青色で表示します。

カスタマイズで、交差点案内表示／レーン表示の有無を設定できます。（→P. 188）

⚠ 注意

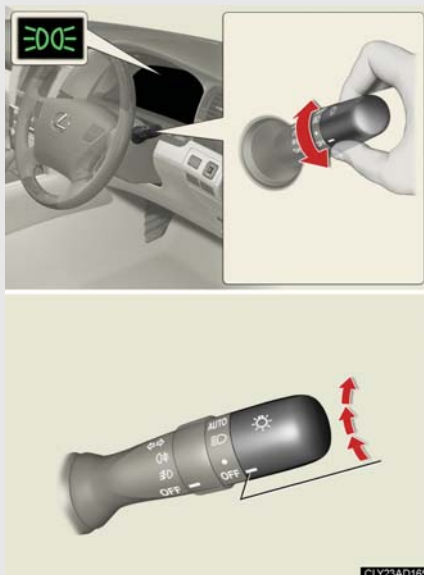
■ レーン表示、交差点案内表示の形状について

レーン表示、交差点案内表示の形状は、実際と異なる場合があります。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

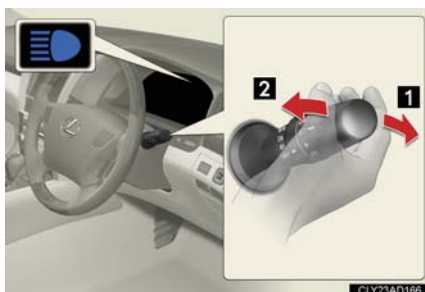
ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。



- 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯
- ☰ 上記ライトとヘッドライトを点灯
- AUTO** ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯（“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき）

ハイビームにする



- 1 ライト点灯時ハイビームに切り替え
レバーをもとの位置へ戻すとロービームに戻ります。
- 2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーをはなすと、ロービームに戻るまたは消灯します。

AFS（アダプティブフロントライティングシステム）

AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドライトの光軸を自動で調整します。

車速が 10 km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには



ON/OFF

AFS を OFF にすると AFS OFF 表示灯が点灯します。



■ ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光が遮られると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ ライト消し忘れ防止機能

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF に戻し、再度  の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 421)



注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

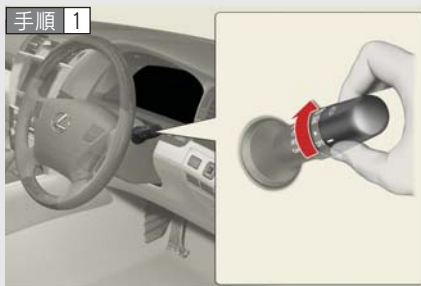
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

オートマチックハイビーム

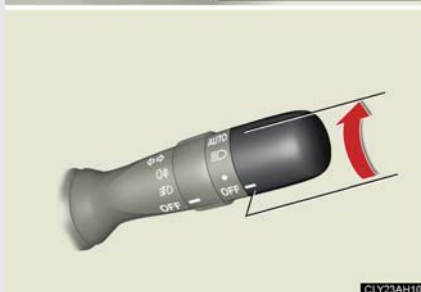
オートマチックハイビームは、インナーミラーに設置されたカメラセンサーにより対向車または先行車のライトや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

■ オートマチックハイビームの使い方

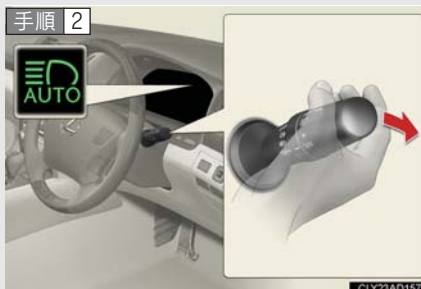
手順 1



ライトスイッチを AUTO にする



手順 2



レバーを前方に押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。

カメラセンサーが遮断物などで状況を検知できないときは、オートマチックハイビーム表示灯は点灯しません。

ハイビーム点灯中は、ヘッドライト上向き表示灯も点灯します。

■ ハイビームとロービームの自動切り替え条件

以下の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

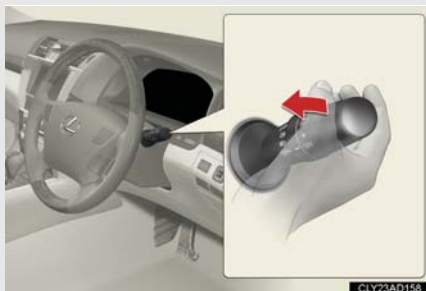
- 車速が約 30 km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはライトを点灯していない

以下の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25 km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がライトを点灯している

■ 手動切り替えのしかた

▶ ロービームへの切り替え



レバーをもとの位置に戻す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

▶ ハイビームへの切り替え



ライトスイッチを  にする

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。



知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ オートマチックハイビームについて

- 以下の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 対向車のフォグライトにより、ハイビームがロービームに切り替わる場合があります。
- 街路灯や信号、広告などの照明、または標識、看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 以下の要因により、ハイビームとロービームの切り替えのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 対向車または先行車のライトの明るさ
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のライトが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- オートマチックハイビームは、車両前方にあるライトの明るさなどで周囲の状況を認識します。したがって、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●以下の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

- ・ 悪天候時（霧、雪、砂嵐、大雨など）
- ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・ インナーミラーやカメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
- ・ 周囲にヘッドライトや尾灯などに似た光があるとき
- ・ 対向車または先行車のライトが無灯火のときや、ライトに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・ カーブが多い道路を走行しているとき
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドライトが破損または汚れているとき
- ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ オートマチックハイビーム表示灯が点滅しているとき

■ オートマチックハイビーム表示灯が点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ

オートマチックハイビームを非作動にすることができます。

（カスタマイズ一覧 → P. 421）

警告

■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

注意

■オートマチックハイビームを正しく作動させるために



オートマチックハイビームを正しく作動させるために以下のことをお守りください。

- カメラセンサーのレンズに触れない
- インナーミラーやカメラセンサーに強い衝撃を与えない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーやカメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- ダッシュボードの上にものを置かない
- インナーミラーやカメラセンサー周囲にアクセサリーを取り付けない
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- レクサス純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない

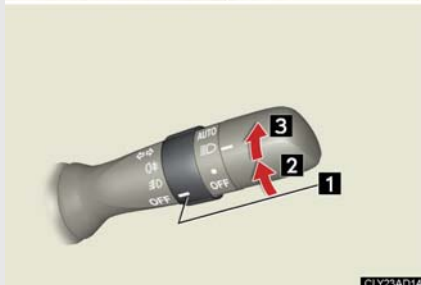
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 フォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。(リヤフォグライトはフロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。)



- 1 消灯
- 2 フロントフォグライト点灯
- 3 リヤフォグライト装着車：
フロント&リヤフォグライト
点灯 (再度操作すると、リヤ
フォグライトのみ消灯)

手をはなすと **F** の位置まで戻ります。



知識

■ リヤフォグライトについて

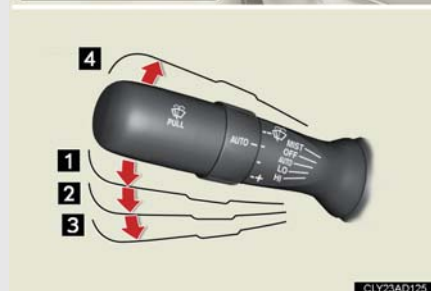
- リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー

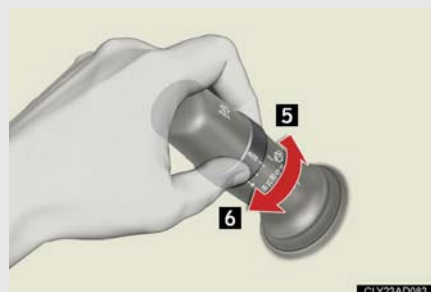
AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



- 1 雨滴感知オート作動 (AUTO)
- 2 低速作動 (LO)
- 3 高速作動 (HI)
- 4 一時作動 (MIST)



CLY23AD125



CLY23AD005

- 5 雨滴センサーの感度調整 (低)
- 6 雨滴センサーの感度調整 (高)



CLY23AD004

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。(数回作動した後、液だれ防止としてさらに1回作動します。)



知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 車速による作動への影響

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）が変わります。

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切り替わります。

（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます。）

■ 雨滴感知センサー



CLY23AD012

● 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などでよごれたときに正しく作動しないことがあります。

- “エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが1回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が90℃以上または-15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 警告

■ AUTO モード時のワイパー作動に関する警告

AUTO モードでは、センサーに触れたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないようにご注意ください。

 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているときは

ガラスを傷つけるおそれがありますのでワイパーを使わないでください。

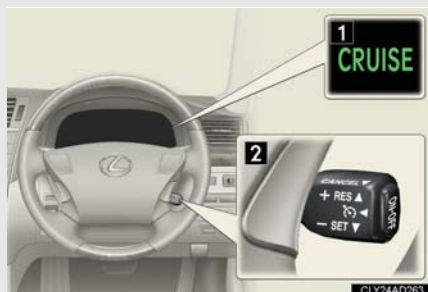
■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作しつづけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。



- 1 クルーズコントロール表示灯
- 2 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する



ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF には、再度スイッチを押します。



希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

レバーを離れたときの速度で定速走行できます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度を変えるには

設定速度を変えるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作するごとに約 1.6 km/h

調整：レバーを保持する間

■ 定速走行を解除する・復帰させる



1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
(パドルシフト非装着車)
- シフトレバーが D のとき設定できます。
(パドルシフト装着車)
- パドルシフトで D の 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
(パドルシフト装着車)
- 車速は約 40 ～ 約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

- 通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。
- クルーズコントロールをキャンセルしなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げるにより設定車速を変更することができます。

■ 定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 実際の速度が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した

■ 定速走行中にクルーズコントロール表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。

設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

 警告

■ 誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。



警告

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

レーダークルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の车速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。



- 1 ディスプレイ
- 2 設定速度
- 3 表示灯
- 4 レーダークルーズコントロールスイッチ
- 5 車間距離切りかえスイッチ

■ 车速を設定する（車間制御モード）



ON-OFF スイッチを押してシステムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFFにするには再度ON-OFFスイッチを押します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

手順 2



希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

レバーを離れたときの速度で定速走行できます。

■ 設定速度を変えるには

設定速度を変えるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

車間制御モードでは、設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1 km/h

調整：レバーを保持する間、0.75 秒ごとに約 5 km/h

定速制御モード（→P. 213）では、設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1.6 km/h

調整：レバーを保持する間

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに **1** に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

■ 車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。（→P. 209）

（時速 80 km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

■ 制御を解除する・復帰させるには



- 1** 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

- 2** もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

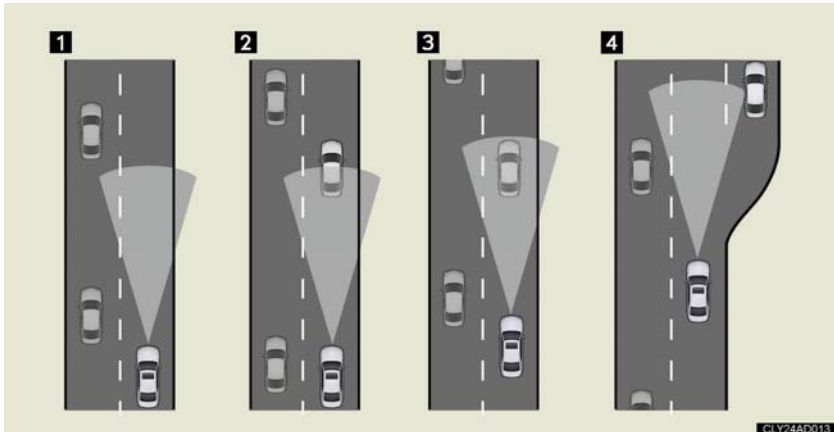
レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。

ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



1 定速走行

先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

2 減速走行

設定した車速より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行

設定した車速より遅い先行車に追従するとき

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行

設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

設定車速まで加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

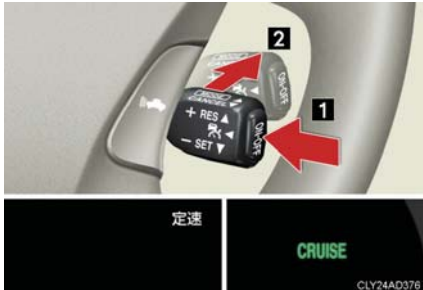
■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードを選択する

定速制御モードを選択したときは、車間制御モードと異なり、先行車の有無に関わらず一定の速度で走行します。



- 1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF するには再度 ON-OFF スイッチを押します。

- 2 定速制御モードに切りかえ
(約 1 秒間レバーを前方に押し続ける)

定速制御モードから車間制御モードに戻すには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続ける

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にし、再度 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動で車間制御モードに戻ります。

設定速度を変えるには

→P. 208

制御を解除する・復帰させるには

→P. 210



知識

■ 設定速度の表示（ファイングラフィックメーター）



設定した速度をスピードメーター上にインジケーターで表示します。

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
(パドルシフト非装着車)
- シフトレバーが D のとき設定できます。
(パドルシフト装着車)
- パドルシフトで D の 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
(パドルシフト装着車)
- 車速は約 50 ～ 約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■ 車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 実際の速度が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した
- センサーが何かでふさがれて適切に働かない
- ワイパーが高速で作動した（ワイパースイッチを AUTO モードまたは高速作動の位置にしたとき）
- 走行モードをスノーモードにセットした

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 実際の速度が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した

■ レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります)

汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

■ レーダークルーズコントロールの警告灯・警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告灯や警告メッセージ・警告ブザーで注意を促します。(→P. 375, 379)

警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ 誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

 警告**■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などの滑りやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 212）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

警告

■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではありません。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）*

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

全車速追従機能付では、通常のレーダークルーズコントロールの機能に加え、先行車の停止にあわせ自車も停止する制御停車機能があります。停車後、レバーを上げるかアクセルを踏むことで、再び追従走行にもどります。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。



- 1 ディスプレイ
- 2 設定速度
- 3 表示灯
- 4 レーダークルーズコントロールスイッチ
- 5 車間距離切りかえスイッチ

■ 車速を設定する（車間制御モード）



ON-OFF スイッチを押してシステムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF するには再度 ON-OFF スイッチを押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

手順 2



希望の速度（約 50 km/h ～ 100 km/h）まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

車速が約 50 km/h 未満で先行車が検知できるときに操作をすると、設定速度を約 50 km/h として先行車に追従走行を始めます。（車間制御モードのみ）

■ 設定速度を変えるには

設定速度を変えるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる

（車間制御モードで制御停車中を除く）

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

車間制御モードでは、設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1 km/h

調整：レバーを保持する間、0.75 秒ごとに約 5 km/h

定速制御モード（→P. 225）では、設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1.6 km/h

調整：レバーを保持する間

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに **1** に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

■ 車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。（→P. 221）

（時速 80 km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車したときの車間距離は設定に関わらず約 3 ～ 5m です。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

■ 制御停車から追従走行に復帰させるには（車間制御モード）



先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルを操作しても追従走行に復帰します。

■ 制御を解除する・復帰させるには



1 解除するには、レバーを手前に引く

走行中にブレーキを踏んだときも解除されます。（制御停車中は、ブレーキを踏んでも制御は解除されません。）

2 もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

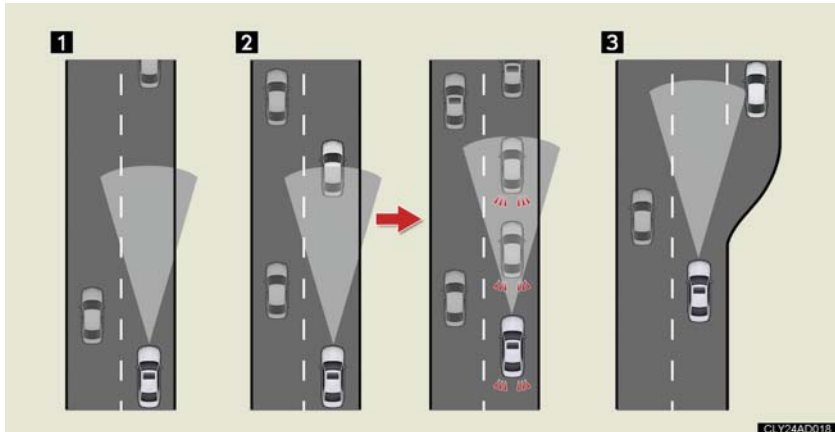
レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。

ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーとカメラセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



1 定速走行

先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

2 減速走行 - 追従走行

設定した車速より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルを踏むと追従走行にもどります。

3 加速走行

設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

設定車速まで加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

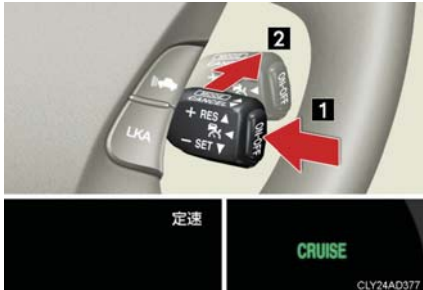
■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードを選択する

定速制御モードを選択したときは、車間制御モードと異なり、先行車の有無に関わらず一定の速度で走行します。



- 1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF するには再度 ON-OFF スイッチを押します。

- 2 定速制御モードに切りかえ
(約 1 秒間レバーを前方に押し続ける)

定速制御モードから車間制御モードに戻すには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続ける

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にし、再度 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動で車間制御モードに戻ります。

設定速度を変えるには

→P. 220

制御を解除する・復帰させるには

→P. 222



■ 設定速度の表示（ファイングラフィックメーター）



設定した速度をスピードメーター上にインジケーターで表示します。

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
(パドルシフト非装着車)
- シフトレバーが D のとき設定できます。
(パドルシフト装着車)
- パドルシフトで D の 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
(パドルシフト装着車)
- 車速は約 50 ～ 約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■ 車間制御走行の自動解除

次のようになったとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 先行車がいなく速度が約 40km/h 以下になった
- 速度が 40km/h 以下で追従走行中に先行車がいなくなった
- VSC が作動した
- レーダーセンサー / カメラセンサーのよごれが判定された
- センサーが何かでふさがれて適切に働かない
- ワイパーが高速で作動した (ワイパースイッチを AUTO モードまたは高速作動の位置にしたとき)
- 走行モードをスノーモードにセットした
- パーキングブレーキが作動した
- 急坂路で制御停車した
- プリクラッシュブレーキが作動した
- 制御停車時に次を検出した
 - ・ 運転席シートベルトを着用していない
 - ・ 運転席ドアが開いた
 - ・ トランクまたはボンネットが開いた

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 実際の速度が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した

■ レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります)

汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

■ カメラセンサーについて

システムを正しく作動させるためにフロントウインドウガラスは常にきれいにしておいてください。



■ レーダークルーズコントロールの警告灯・警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告灯や警告メッセージ・警告ブザーで注意を促します。(→P. 375, 379)

 警告**■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

 警告

■ **レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などの滑りやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

■ **センサーが正しく検知しないおそれのある先行車**

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 224）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

 警告**■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

センサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、センサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではありません。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。



警告

■ カメラセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない
- フロントウインドウガラスが曇ったときはフロントデフロスターでガラスの曇りを取る
寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えます。
- ダッシュボードの上にものを置かない
フロントウインドウガラスに写りこんだ映像で性能が低下する場合があります。
- カメラのレンズをよごしたり、傷を付けたりしない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラに強い衝撃や力を加えない、または分解しない

LKA（レーンキーピングアシスト）*

白線の整備された高速道路や自動車専用道路を走行中に、カメラセンサーを利用して車線を認識させることにより、車線内の走行を支援します。

■ 車線逸脱警報機能

車線から外れる可能性がある場合に、“ピピピピ・・・”というブザーやマルチインフォメーションディスプレイ表示、体感警報※を用いて注意をうながします。

※ハンドルに短時間、車線の中央方向への小さな作動を与えます。

作動条件：LKA が ON で、車速が約 50 km/h 以上のとき



1 車線表示

LKA スイッチが ON のときに表示されます。また、状況によって以下のように表示が変わります。



：白線が認識できていない

などの理由で機能を一時解除している（→ P. 235）



：白線を認識している

2 レーダークルーズコントロール表示

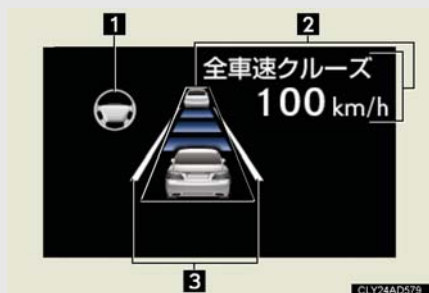
レーダークルーズコントロールを使用しているときに表示します。（→P. 219）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 車線維持支援機能

車線中央付近を走行しやすく、ハンドルに小さな作動を連続的に与えてドライバーのハンドル操作を支援します。

作動条件：LKA が ON で、レーダークルーズコントロール (→P. 219) で車速 65 km/h ~ 100 km/h の間で車間制御走行しているとき



1 ハンドル表示

車線維持支援機能作動中に表示されます。

2 レーダークルーズコントロール表示

レーダークルーズコントロールの作動状態を表示します。

3 車線表示

LKA スイッチが ON のときに表示されます。

■ LKA スイッチ



LKA の ON/OFF を切りかえる

ON のときメーター内の LKA 表示灯が点灯します。

 知識**■ LKA の一時解除**

以下のいずれかの場合、機能を自動的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 方向指示レバーを操作したとき
- 車線変更に相当する程度にハンドルを操作したとき
- 作動条件以外の車速になったとき※
- 走行中の白線が認識できなくなったとき※
- ワイパーが連続で作動したとき※

レーダークルーズコントロール解除のお知らせを優先し、解除時のブザーが鳴らないときがあります。

- ブレーキペダルを踏んだとき

ただし、ブレーキを踏むのを止めても、レーダークルーズコントロールが解除されるため車線維持支援機能は再開しません。（車線逸脱警報機能のみ再開します）

※ 車線維持支援機能が作動中だった場合は、車線維持支援機能が解除されたことを知らせる為の“ピピッ”というブザーがなります。

■ 車線逸脱警報機能が作動したとき

車線逸脱警報機能が作動したあとは、機能を一時的に解除し、数秒間経過するまで再開しません。

■ 手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、直線路で約 15 秒、またはカーブで約 5 秒ハンドルを操作しないと、ピピッとブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示が点滅し、機能が一時的に解除されます。ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたときも同様です。

■ 炎天下に駐車したとき

走行開始後、しばらく作動しないことがあります。車内の温度が低下し、カメラセンサー周辺（→ P. 238）の温度が適温になると作動開始となるので、一旦 LKA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

 警告

■ **LKA をお使いになる前に**

LKA を過信しないでください。前方への注意を軽減する装置ではないため、常にハンドル操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。

■ **次のような状況では、LKA を OFF にして走行してください。**

次の状況では、LKA を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- スタッドレスタイヤ・タイヤチェーンなどを装備しているとき
- レクサス純正品以外の部品に交換しているとき（タイヤ・サスペンションなど）
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物・模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ボールなど）
- 雪道のわだちなどで、帯状に雪が残っているとき
- 白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき
- 雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行するとき
- 高速道路などの本線（走行車線・追い越し車線）以外の車線を走行するとき
- 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき
- うねった道路や荒れた道路を走行するとき

 警告

■ 次の状況では、LKAが作動しない、または十分な性能が確保できない場合があります。

- 検札所や料金所手前など、白（黄）線が途切れるとき
- 片側のみに白（黄）線があるとき
- 急カーブを走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 白（黄）線がかすれているとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、もしくは見えにくくなっているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行するとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき
- 対向車のヘッドランプ光、太陽光などがカメラに入射するとき
- 分岐、合流路などを走行するとき
- 雨・雪・霧などで白（黄）線が見えにくいとき
- 雨天・雨上がり・水溜りなど濡れた路面を走行するとき
- 悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 走行中の車両が横風を受けているとき

警告

■ 白線認識用カメラ



LKA の故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
雨滴・結露・氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない
- フロントウインドウガラスが曇ったときはフロントデフロスターでガラスの曇りを取る
寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えます。
- ダッシュボードの上にものを置かない
フロントウインドウガラスに映り込んだ映像を、白（黄）線と誤って認識する場合があります。
- カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
- カメラの向きは精密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない

2-4. その他の走行装置の使い方

電子制御エアサスペンション

路面の状態や走行状況にあわせて車高やサスペンションの硬さを選択できるシステムです。

■ 車高選択スイッチ

車高は、乗員や荷物重量にかかわらず選択したレベルを維持します。HIGH モードにすると車高が上昇し、坂道などで車体と路面が接しにくくなります。

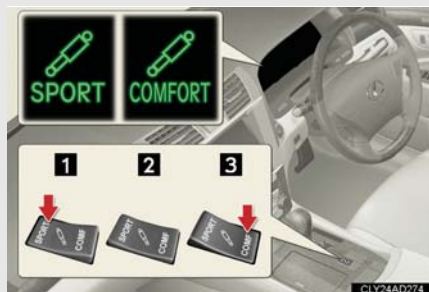


HIGH モードの ON/OFF を切りかえる

ON のときメーター内の HEIGHT HIGH 表示灯が点灯します。

■ AVS (アダプティブバリアブルサスペンションシステム) スイッチ

サスペンションの硬さをお好みに合わせて選択できます。



1 SPORT モード (硬い)

NORMAL モードと比べて、操縦性・安定性をさらに高めます。

2 NORMAL モード (普通)

乗心地を優先しつつ、操縦性・安定性を確保します。

3 COMFORT モード (やわらかい)

NORMAL モードと比べて、さらに乗心地を高めます。



■エアサスペンション用コンプレッサーの作動音について

乗車や荷物の積み込みなどによって車高が低下したときやHIGHモードを選択したときなどに、コンプレッサーが作動して“ヴィーン”という音が聞こえることがありますが、異常ではありません。



■エアサスペンションについて

次の状況ではエンジンを停止してください。

- 縁石などに乗り上げて駐車するとき
- 脱輪したとき
- ジャッキアップするとき
- レッカー車などで車を持ち上げてけん引するとき

“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードのままにしておくと、車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）

車速やハンドルの動きに合わせてタイヤが切れる角度を制御します。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS、ブレーキアシスト、TRC、VSC、ヒルスタートアシストコントロール、EPS、VGRS、トランスミッションを総合的に制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ブレーキ、エンジン出力、ハンドル操作力、タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ プリクラッシュセーフティシステム (PCS) *

→P. 247

■ 後方プリクラッシュセーフティシステム*

→P. 257

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・VSC・ABS・ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき



TRC・VSC・ABS・ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。



■ TRC を停止するには

TRC を停止するにはスイッチを押します。

TRC が OFF になったことをメッセージでマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態に戻ります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し、3 秒以上保持します。

VSC OFF 表示灯が点灯し、TRC が OFF になったことをメッセージでマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態に戻ります。



■ VSC OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC およびヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。レクサス販売店にご相談ください。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にすると自動的に TRC と VSC は作動可能状態に戻ります。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■ TRC と VSC OFF の作動制限

TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ ABS、ブレーキアシスト、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロール、VGRS の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
- エンジン始動時や停止時にハンドルがわずかに動いたり、小さな音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作をおこなったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

- シフトレバーが P、R および N 以外の位置にあるとき
- ブレーキペダルが踏まれていないとき

■ VGRS の作動について

以下の状況では直進時のハンドル位置がずれることがありますが、状況が改善されればもとに戻ります。

- 停車中か極低速走行中に素速くハンドル操作をしたり、長時間ハンドルをまわし続けたりしたとき
- ハンドルをいっぱい切った状態で長く力をかけ続けたとき
- バッテリーの充電が不十分、または電圧が一時的に下がったとき
- -30℃ 以下でエンジンを始動したあと

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けると、EPS システムのオーバーヒート为了避免のため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態に戻ります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

以下のときシステムが作動します。

- 車速約 55 km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの解除条件

以下のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルをはなした
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

■ スリップ表示灯が点灯したとき

VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの故障が考えられます。(→P. 375)

⚠ 警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき
- 雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えるにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

 警告

■ **TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■ **ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

■ **スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは**

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったらとくに慎重に運転してください。

■ **TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

■ **タイヤを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ **タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、VDIM システムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

プリクラッシュセーフティシステム (PCS) *

センサーにより、前方の車両や障害物との衝突が予測されたときに、警報により運転者に対して回避操作を促し、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員のけがや車両損傷の低減に寄与します。

■ プリクラッシュシートベルト（フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。

また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも、同様に作動します。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切り替えができます。



1 注意喚起表示

衝突の可能性があると検知したときに表示されます。

2 衝突警告表示

衝突の可能性が高い場合に表示され、回避操作を促します。

■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いと判断したとき、サスペンションの硬さを適正化します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ ドライバーモニター*

衝突の可能性があると判断し、かつ運転者が正面を向いていないまたは運転者の眼が閉じている状態にあると判断した場合に、より早い段階で警報し、早期に危険を知らせます。さらに、状況が改善しない場合は、短時間の減速による体感警報（警報ブレーキ）により回避操作をうながします。スイッチを使って、警報ブレーキのON/OFF 切り替えができます。

■ ステアリングギヤ比コントロール（ドライバーモニター装着車）

衝突の可能性があるとき、VGRS によってステアリングギヤ比を変化させ、ハンドル操作に対する応答性を高めます。

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチ



- 1 プリクラッシュブレーキ、警報ブレーキ* OFF

OFFにするとPCS警告灯が点灯します。

- 2 プリクラッシュブレーキ、警報ブレーキ* ON

レーダーセンサー



走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

カメラセンサー（ドライバーモニター装着車）

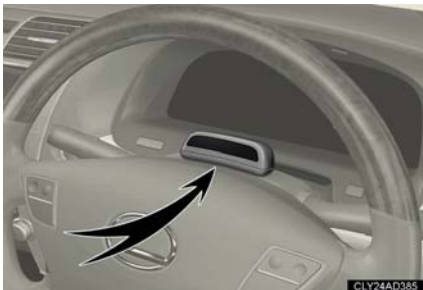


レーダーセンサーに加え、走行中に路上またはその付近の歩行者など立体物を検知します。

ヘッドライト点灯時には近赤外線を照射し、夜間の検出性能の確保に寄与します。

- 1 カメラセンサー
- 2 近赤外線投光器

ドライバーモニター用カメラ（ドライバーモニター装着車）



運転者の顔をモニターし、正面を向いていない状態・目を閉じている状態をシステムが判断します。

知識

■レーダーセンサーが検知しない場合

プラスチック類は検知できません。また、人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■カメラセンサーが検知しない場合（ドライバーモニター装着車）

- 太陽光など強い光がレンズに直接あたっているとき
- 悪天候などで視界が悪いとき
- センサーの温度が非常に高いとき

■ システムの作動条件

● プリクラッシュシートベルト

▶ 作動条件 A

- ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 緊急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき

▶ 作動条件 B

- ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上
- ・ ブレーキペダルが踏まれているとき

● プリクラッシュブレーキ

- ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
- ・ 車速が約 15 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 15 km/h 以上

● サスペンションコントロール

- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

● ステアリングギヤ比コントロール（ドライバーモニター装着車）

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

● 警報ブレーキ（ドライバーモニター装着車）

- ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
- ・ 正面を向いていないか、眼を閉じていると判断したとき
- ・ 自車速度が約 15 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 15 km/h 以上
- ・ 車両直進状態

■ システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しないこともあります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況
- VSC が OFF で車が横すべりの状態
- 車両姿勢が極端に変化している状態
- 前方の車両や障害物への部分的な衝突や接触をする状況

■ システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口の道路脇に障害物があったとき
- カーブで、対向車とすれちがったとき
- 狭い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があったとき
- 下り坂走行中に、鉄板などの路面の金属物が車両の前方にみえるとき
- 上り坂走行中に、看板などの金属物が車両の前方にみえるとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれちがったとき
- 前を走っている車に急に近づいたとき
- 立体交差・標識・看板などが進行方向に見えたとき
- 上り坂走行中に看板などの上方金属物が前方に見えるとき
- VSC が OFF で車が横すべりしているとき
- ETC ゲートを高速で通過したとき
- 車高が極端に変化しているとき
- レーダーの軸がずれているとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引き戻されたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くなったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示でお知らせします。(→P. 375, 379)

**警告****■安全にお使いいただくために**

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援をおこなうために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援をおこないます。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らがおこなう必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

プリクラッシュブレーキは、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

 警告

■ **レーダーセンサーの取り扱い**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- センサーとグリルは常にきれいにしておく。
お手入れをする際は、センサーやグリルを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない。
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。
- センサーやグリル周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。
- センサーやグリルを改造したり塗装したりしない。

 警告**■ カメラセンサーの取り扱い（カメラセンサー装着車）**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- フロントウインドウガラスが曇ったときはフロントデフロスターでガラスの曇りを取る
寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えます。
- ダッシュボードの上にものを置かない
フロントウインドウガラスに写り込んだ映像で検出性能が低下する場合があります。
- カメラのレンズをよごしたり、傷をつけたりしない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない

■ ヘッドライトについて（カメラセンサー装着車）

近赤外線投光量を確保するため以下のことをお守りください。

- ヘッドライトは、いつもきれいにしておく。
- ハイビームの光軸がずれていたり、点灯しないときは検出性能が低下する場合があります。レクサス販売店で点検を受けてください。
- 安全のために
近赤外線投光器は、目に見えない強いエネルギーを照射します。通常、停車時には照射していませんが、のぞき込まないでください。

 警告

■ **ドライバーモニター用カメラの取り扱い（ドライバーモニター装着車）**

ドライバーモニターの効果を発揮できるように以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、故障の原因となったり、顔向き／眼の開閉判定ができないおそれがあります。

- カメラを改造したり、傷つけたり、持ち上げたり、ひっぱったりしない
- 走行中はカメラを触ったりしない
- カメラを濡らしたり、飲料水をかけたりしない
- カメラにものを落としたり、ぶつけたり、衝撃を与えない
- カメラ前面部に傷、よごれ、シール貼りなどがないようにする
- カメラ前面部の前にものを置いたり、おおったりしない

■ **顔向き／眼の開閉判定について（ドライバーモニター装着車）**

以下のときは正常に判定ができない場合があります。

- カメラと顔の間にさえぎるものがあるとき
（カメラの前にものを置くなど。）
- 顔の一部が隠れる状況
- 太陽光などの強い光が、直接顔やカメラにあたる状況
- 正しい運転姿勢をしていないとき
- 停車中

 注意

■ **ドライバーモニター用カメラのお手入れ時の注意（ドライバーモニター装着車）**

- 傷をつけないよう、柔らかい布で軽くふいてください。
- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、その後、乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナー、ガラスクリーナー、ワックスなどを使用しないでください。

後方プリクラッシュセーフティシステム*

追突を予測して、後方車両への注意喚起とむち打ち傷害の軽減に寄与するシステムです。

■ 後方車両への警報（非常点滅灯）

追突の可能性があるると判断したときに非常点滅灯を作動させ、後方車両に注意を促します。

■ むち打ち傷害の軽減（プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト※）

追突の可能性が非常に高いと判断したときにフロントヘッドレスト内のセンサーにより頭部位置を検出し、追突前にヘッドレストを適切な位置まで移動させ、追突された際のむち打ち傷害の軽減に寄与します。

※ 可倒式ヘッドレスト装着車：運転席のみ

レーダーセンサー



レーダーセンサーにより、後方から接近するものを検知し、その位置や速度、進路から追突する可能性を事前に判断します。

* : グレードで異なる装備やオプション装備

 知識

■ システムの作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードで、自車線内の後方車両が追突する可能性があるときに以下の条件で作動します。

● 後方車両への警報（非常点滅灯）：

- ・ 自車から見た後方車の接近速度が約 30 km/h 以上
- ・ 停止時または前進時でブレーキを踏んでいる
- ・ 方向指示灯や非常点滅灯が OFF

● むち打ち傷害軽減：

- ・ 自車から見た後方車の接近速度が約 15 km/h 以上
- ・ 停止または前進している

■ センサーが検知しにくい場合

後方プリクラッシュセーフティシステムはすべての追突を検知できるシステムではなく、自転車、オートバイなどは検知しないことがあります。また、以下のときは作動しない場合がありますので周辺への注意を怠らないでください。

- 悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき
- カーブや起伏の大きな道路のとき
- 斜めからの追突や、車両中央より左右いずれかにずれた位置での追突
- 雨滴、氷雪がリヤバンパーに付着したとき

■ むち打ち傷害軽減システムについて

帽子をかぶっていたり、髪をうしろで束ねたりしているとき、プリクラッシュインテリジェントヘッドレストが適切な位置に停止できないことがあります。

■ 追突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

- 右左折などで停車したときなどに自車の真うしろを後方車がすり抜けたとき
- 道路脇に停車したときなどに、車が真横をすり抜けたとき
- 走行時、後方車が近距離から追い越したとき
- 走行時または停車時、後方車が近距離まで急接近したとき

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示でお知らせします。（→ P. 375, 379）

 警告**■レーダーセンサーの取り扱い**

- センサーを分解しない。
- センサーの裏に貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

■リヤバンパーの取り扱い

後方プリクラッシュセーフティシステム装着車のリヤバンパーはレーダーセンサーの電波透過性に影響します。システムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- リヤバンパーは常にきれいにしておく。
雨滴、冰雪などによって性能が低下することがあります。
- レーダーセンサー周辺では強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、修理してください。
- リヤバンパー中央部にトーイングヒッチやバイクホルダーをつけたり、保護フィルムやステッカーを貼ったりしない。
- リヤバンパーの改造や別のものに交換しない。
- リヤバンパーの塗装修理についてはレクサス販売店に相談してください。

■プリクラッシュインテリジェントヘッドレストの取り扱い

レクサス純正品以外のヘッドレストカバーはつけないでください。

ナイトビュー（歩行者検知機能付）*

ナイトビューは、夜間の走行を補助するシステムです。

夜間に肉眼では見えにくい前方の歩行者、障害物、道路状況を、投光器から照射した近赤外線反射光をカメラで撮影・映像化して、メーター中央部に表示します。

■ ナイトビュー画面の表示のしかた

手順 1 “エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションON モードにする

手順 2 ヘッドライトを点灯する



ナイトビュースイッチを押す

メーターの中央部にナイトビュー画面が表示されます。

ナイトビュー画面が表示されると、以下の表示の位置が変わります。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイ
- ・ シフトポジション／シフトレンジ表示
- ・ 外気温度表示
- ・ オドメーター
- ・ トリップメーター

■ 歩行者検知機能

映像から歩行者を検知すると、その位置を黄色の枠（歩行者検知枠）で表示し、同時にスピードメーターの枠を黄色（注意喚起枠）で点滅させることにより運転者に注意喚起を促す機能です。

作動条件：ナイトビュー作動中で車速が約 15 ～ 60 km/h

*：グレードで異なる装備やオプション装備

■ ナイトビュー画面表示について



1 ナイトビュー画面

2 歩行者検知枠

- ・ 歩行者を検知すると注意喚起枠とともに表示されます。
- ・ 検知された人数分の歩行者検知枠が表示されます。
- ・ 歩行者が検知されなくなると注意喚起枠とともに表示がなくなります。

3 注意喚起枠

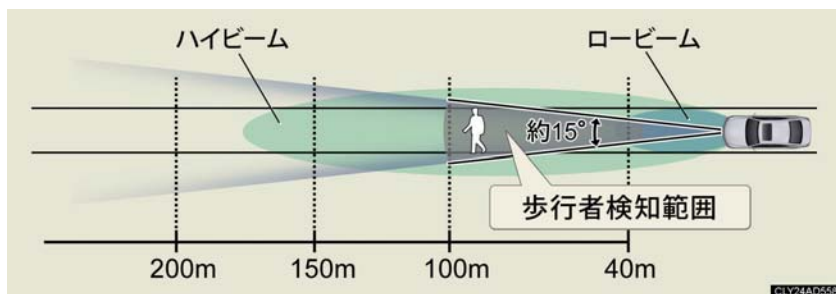
- ・ 歩行者を検知すると歩行者検知枠とともに表示され、3回点滅し、その後点灯にかわります。
- ・ 歩行者が検知されなくなると歩行者検知枠とともに表示がなくなります。

4 歩行者検知作動インジケータ

歩行者を検知可能かどうかアイコンで知らせます。

表示	作動の状況
	作動中
	非作動中

ナイトビューが映し出せる範囲



● 映像化できる範囲

車両前方約 15° 以内、ヘッドライトのロービーム照射範囲の先からハイビーム照射範囲の先までです。

● 歩行者検知の範囲

車両前方約 15° 以内、距離は約 40 ～ 100 m のあいだです。

車両の速度に応じて検知範囲はかわります。

知識

■ システムの作動しない環境

● ナイトビュー画面

ライトセンサー (→P. 192) が周囲の明るさの状態から夜と判断していないときは、ナイトビュースイッチを押してもナイトビュー画面は表示できません。

● 歩行者検知機能

- ・ ワイパーが連続で作動したとき
- ・ 周囲の明るさが一定以上のとき

ナイトビュー画面が表示される周囲の明るさと歩行者検知機能が作動する周囲の明るさは異なるため、ナイトビュー画面が表示されても歩行者検知機能が作動しないことがあります。

■ ナイトビュー作動中で車速が約 15 km/h 以下のときは

近赤外線が照射されなくなるため、ナイトビュー画面は表示されますが、映像化できる範囲や距離に制限があります。

- ナイトビューが作動可能なとき以外にナイトビュースイッチを押したときは
メーターにアドバイス情報が表示されます。表示されたアドバイスにしたがってください。
- ナイトビュー作動中にシフトレバーを R にしたときは
ナイトビュー画面は黒色となり映像は表示されません。

 警告**■ ナイトビューをお使いになる前に**

ナイトビューを過信しないでください。

ナイトビューは、夜間走行中に見えにくい前方の道路状況、歩行者認知を補助するものです。機能には限界がありますので、使用する場合には過信せず、下記に十分気をつけて安全運転に心がけてください。



警告

■ ナイトビュー画面について

- 通常の目視のかわりに、ナイトビュー画面のみを見て運転しないでください。
- 運転中にナイトビュー画面を見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。ナイトビューはあくまで運転の補助として使用してください。
- ナイトビューは夜間のカーブの少ない道路を走行するときに運転者の視覚を補助するためのものです。坂道やカーブの多い場所、市街地では使用しないでください。道路形状（カーブの大きさ、勾配など）により表示できない場所があります。
- インstrumentパネル照度調整スイッチ（→P. 179）と連動してナイトビュー画面の明るさが調整されます。暗い設定にしているときは、ナイトビュー画面が見づらい場合があるため、明るくして使用してください。
- ナイトビューは全てのものを明るく映像化できるわけではありません。全体が暗く映ったり、一部が見えにくくなることがあります。ナイトビューを過信せず、ナイトビューを装着していない車と同様に、必ず周囲の安全を確認しながら慎重に運転してください。

＜映像に映りにくいもの＞

- ・ 特定の素材の衣類（本革ジャケットなど）
- ・ 看板の文字
- ・ 道路案内板の情報など

＜映像が映りにくい状況＞

- ・ 雨、霧、降雪、吹雪などの悪天候時
- ・ 雨上がりの水たまりなど路面反射が大きいとき
- ・ カメラ前面のフロントウインドウが曇っているとき、汚れているとき、氷結しているとき
- ・ ヘッドライト付近に氷、雪、泥などが付着しているとき
- ・ 著しくバッテリーの電圧が低下しているとき
- ・ 対向する強い光源が前方にあるとき

 警告**■ 注意喚起枠について**

注意喚起枠は、ナイトビューの歩行者検知機能が歩行者を検知したときに表示され、運転者に注意を促すものです。

- 注意喚起枠が出た場合は、前方に歩行者がいるおそれがあるため、周囲の安全を十分に確認して運転してください。
- 注意喚起枠が出ても、ナイトビュー画面を見続けしないでください。前方の危険を見落とすおそれがあります。
- 天候や道路状況、歩行者の状況により注意喚起するタイミングが遅くなり、歩行者との距離が近くなる場合があります。注意喚起が出た場合は、まず直接周囲の安全を十分に確認して運転してください。
- わき見運転の状態では役に立ちません。

■ 歩行者検知機能について

歩行者検知機能には限界があります。機能作動状態でも、下記のような歩行者を検知できないおそれのある状況では作動しないことがあります。

● 映像が映りにくい状況

- ・ 雨、霧、降雪、吹雪などの悪天候時
- ・ ワイパー作動中および間欠作動時（ワイパー低速作動、高速作動中は歩行者検知機能を停止）
- ・ カメラ前面のフロントウインドウが曇っているとき、汚れているとき、氷結しているとき
- ・ ヘッドライト付近に氷、雪、泥などが付着しているとき
- ・ 著しくバッテリーの電圧が低下しているとき

など

- カーブや坂道、勾配のある道では、前方に歩行者がいても検知できない場合があります。
- 街路灯、照明、対向車の強いライトなど、強い光のある状態では検知しない場合があります。
- 自車の前方に歩行者が飛び出したときは、正しく検知できない場合があります。
- 歩行者検知範囲内でも、ガードレール、街路樹、柱、停車車両などで歩行者の体の一部が隠れている場合は検知できません

 警告

- 歩行者検知機能は、近赤外線カメラの映像の中から明暗の差、形状、大きさで歩行者を判断しているため、機能には限界があります。 また以下の場合は、正しく検知できない場合があります。

＜体型・姿勢の影響＞

- ・ 寝ている人、しゃがんでいる人
- ・ 身長 1 m 以下、または 2 m 以上の人
- ・ つれ立って歩く複数の人（ナイトビュー画面で重なって見える場合）
- ・ 横向きに立っている人
- ・ 手をあげている人

＜衣服の影響＞

- ・ 上下で反射率が大きく異なる服を着た人
- ・ 近赤外線カメラで暗く映るような近赤外線の反射率の低い服（本革ジャケットなど）を着た人
- ・ コートや着物などで手足のシルエットのような特徴が出にくい服装の人
- ・ 反射材のタスキなど身につけた人

＜持ち物の影響＞

- ・ 傘をさしている人
- ・ 大きな荷物、かばんなどを持っている人

＜その他＞

- ・ 自転車に乗った人、自転車を押している人
- ・ ベビーカーを押している人
- ・ 車いすの人、車いすを押している人

など

- 動物は検知しません。
- 歩行者検知機能は、近赤外線カメラの映像の中から明暗の差、形状、大きさで歩行者を判断しているため、人の形に似ているものがあつた場合、誤認識することがあります（看板、植木、テールライトなど）。

警告**■ 近赤外線カメラについて**

ナイトビューの故障や誤作動を避けるために、以下のことをお守りください。



- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります
- カメラに強い衝撃や力を加えない、または分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- フロントウインドウガラスが曇ったときはフロントデフロスターでガラスの曇りを取る
寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えます。
- カメラのレンズを汚したり、傷をつけたりしない
- カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにシールなどを貼らない
- ダッシュボードの上にものを置かない
フロントウインドウガラスに写り込んだ映像がナイトビュー画面に表示され、歩行者を正しく検知できない場合があります。

警告

■ 近赤外線投光器について



ナイトビューの故障や誤作動を避けるために、以下のことをお守りください。

- ヘッドライト付近の汚れはナイトビューの性能に影響を与えます。汚れている場合は洗車などを行ってください。
- 近赤外線投光器の電球は、ハイビームの電球も兼用しており、電球切れをおこすことがあります。ハイビームも使用できなくなるため、電球切れをおこした場合は、新しい電球に交換してください。
- 近赤外線投光器は目に見えない強いエネルギーを照射します。通常、停車時では近赤外線は照射されませんが、安全のため、ハイビームを長時間のぞきこまないようにしてください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。



警告

■ 積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。

お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ・ 運転席足元
- ・ 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
- ・ パッケージトレイ
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード

- 車内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。



■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシュャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことをおこなってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりリスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P にいれて駐車し、輪止めをしてください。



知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおっております。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。

- 安全に作業できる場所でおこなう
- 後 2 輪に取り付ける
- ジャッキで車を持ち上げておこなう
- タイヤチェーンに付属の取扱書にしたがう



警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

 警告**■ タイヤチェーン装着時の警告**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 50 km/h（一般路）または 30 km/h（冰雪路）を超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

必ずレクサス純正タイヤチェーンを使用してください。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ ガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。

合わせガラスの場合、ガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	276
・ インテリアライト	277
・ パーソナルライト	277

3-2. 収納装備の使い方

収納装備一覧	279
・ グローブボックス	281
・ コインホルダー	282
・ ドアポケット	282
・ カップホルダー	283
・ コンソールボックス	284
・ ノースモーカーズ ボックス	286
・ クールボックス・ 小物入れ	287
・ 小物入れ	291

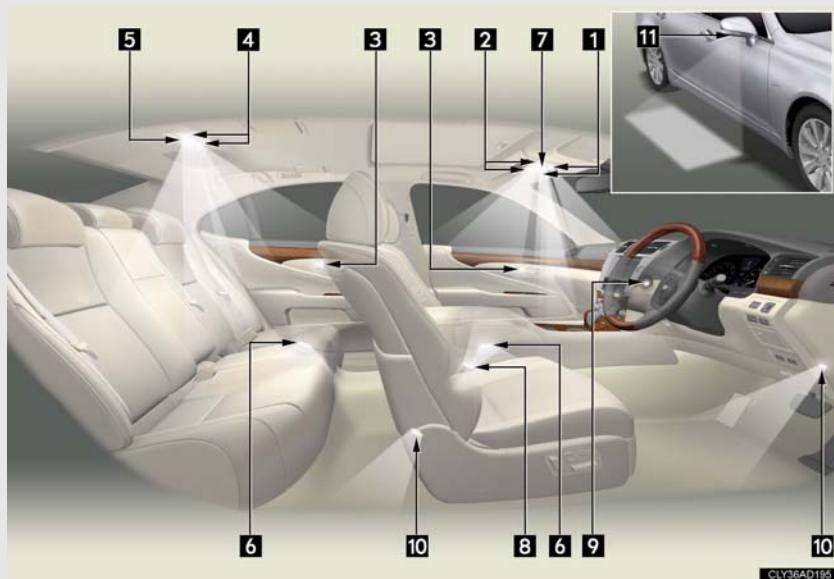
3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	293
バニティミラー	294
灰皿	295
シガレットライター	296
アクセサリソケット／ アクセサリ コンセント	298
ステアリングヒーター	302
コンフォータブル・ エアシート／ リヤシートヒーター	304
アームレスト	308
テーブル	309
リヤサンシェード	311
リヤドアサンシェード	315
トランクスルー	318
コートフック	320
フロアマット	321
トランク内装備	323

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧

夜間の乗降を補助するために、イルミネーテッドエントリーシステムが付いています。電子キー携帯の有無、ドアの施錠・解錠、ドアの開閉、“エンジンスタートストップ”スイッチの状態によって、各部の照明が点灯・消灯します。



- 1 フロントパーソナルライト (→P. 277)
- 2 フロントインテリアライト (→P. 277)
- 3 インサイドハンドル照明
- 4 リヤパーソナルライト (→P. 277)
- 5 リヤインテリアライト (→P. 277)
- 6 ドアカーテシー照明
- 7 シフト照明 (“エンジンスタートストップ”スイッチアクセサリまたはイグニッション ON モード)
- 8 シートベルトバックル照明
- 9 “エンジンスタートストップ”スイッチ照明
- 10 足元照明
- 11 ドアミラー照明

インテリアライト、パーソナルライト

インテリアライト

▶ フロント



- 1 OFF（消灯）
- 2 ドアポジション（ドア連動）
ON/OFF
- 3 ON（点灯）

▶ リヤ



点灯／消灯

フロントインテリアライトのドアポジションが ON のときは、ドアの開閉によっても点灯、消灯します。

3

室内装備の使い方

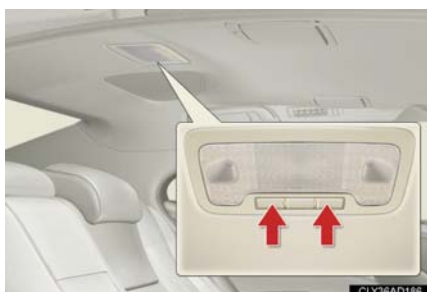
パーソナルライト

▶ フロント



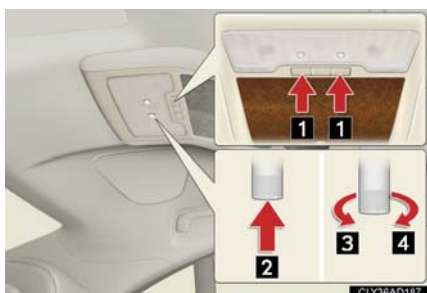
点灯／消灯

▶ リヤ（後席 9 型ワイドディスプレイ非装着車）



点灯／消灯

▶ リヤ（後席 9 型ワイドディスプレイ装着車）



1 点灯／消灯

2 ツマミを押して出します。左右にまわして明るさを調整できます。

3 暗くなる

4 明るくなる

 知識

■ バッテリーあがりを防ぐために

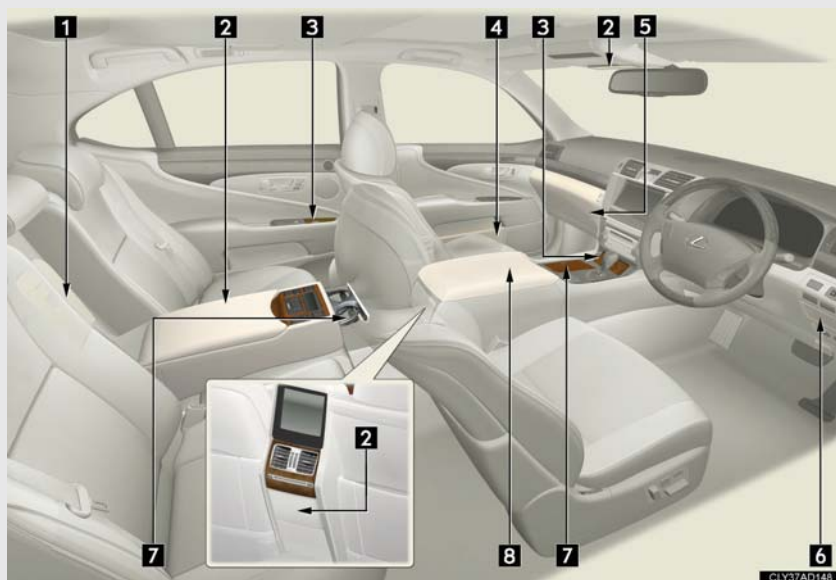
半ドア状態でフロントインテリアライトスイッチのドアポジションが ON のときに、インテリアライトが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧 →P. 421）

収納装備一覧

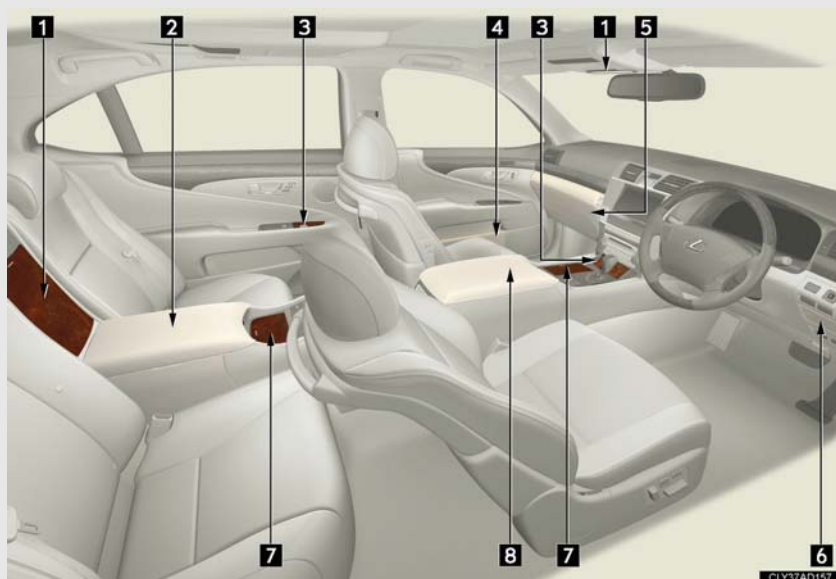
▶ 5人乗り



- 1 クールボックス・小物入れ*
- 2 小物入れ*
- 3 ノースモーカーズボックス*
- 4 ドアポケット
- 5 グローブボックス
- 6 コインホルダー
- 7 カップホルダー
- 8 コンソールボックス

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ 4 人乗り



- 1 小物入れ
- 2 クールボックス・小物入れ
- 3 ノースモーカーズボックス*
- 4 ドアポケット
- 5 グローブボックス
- 6 コインホルダー
- 7 カップホルダー
- 8 コンソールボックス

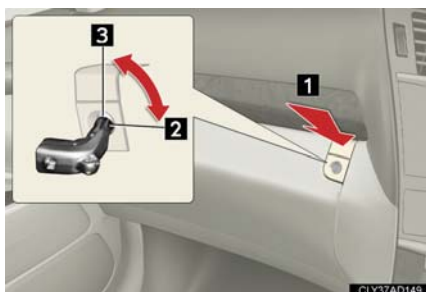
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

グローブボックス

警告**■ 収納装備に放置してはいけないもの**

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

- 1 開ける（ボタンを押す）
- 2 メカニカルキーで施錠
- 3 メカニカルキーで解錠

知識**■ トランクオープナーメインスイッチ**

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。（→P. 55）

警告**■ 走行中の警告**

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コインホルダー



ボタンを押す。

警告

■ 走行中の警告

コインホルダーを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたコインホルダーが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアポケット（フロント席）



フロントドアのドアポケットは開閉することができます。

警告

■ 走行中の警告

ドアポケットを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたドアポケットが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

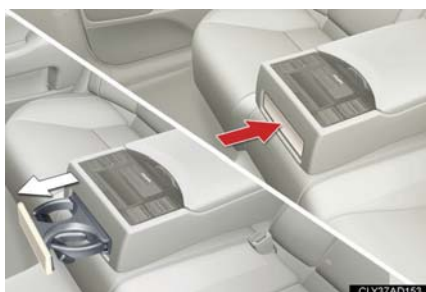
カップホルダー

▶ フロント



カップホルダーのふたの左側を押す。

▶ リヤ (5人乗り)



カップホルダーを押す。

▶ リヤ (4人乗り)



カップホルダーのふたのうしろ側を押す。

3

室内装備の使い方

警告**■ 収納してはいけないもの**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ 使わないときは

ふたを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス**▶ センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車**

- 1 ボタンを押しながらアームレストをスライドさせる。
- 2 アームレストを持ち上げる。

▶ センターコンソール付後席ディスプレイ装着車

- 1 ボタンを押す。
- 2 アームレストを持ち上げる。

コンソールボックス



知識

■ コンソールボックス内のトレイについて（センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車）



トレイは引き上げた状態でも使うことができます。

■ 開閉操作の補助機能（センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車）

コンソールボックスの開閉を途中まで行くと、開閉操作を補助するように、操作方向に適切に力が働きます。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出した
りして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ トレイについて

トレイの高さ以上にものを入れないでください。ふたの開閉の妨げになるおそれがあり
ます。

3

室内
装
備
の
使
い
方

ノースモーターズボックス*

▶ フロント



ふたの前部を押す。

▶ リヤ



ふたを開ける。

知識

■ ノースモーターズボックスの取りはずしについて（フロント）



本体の左端を持って引き上げます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ノースモーターズボックス、クールボックス・小物入れ

⚠ 警告**■ 安全にお使いいただくために**

ノースモーターズボックスを灰皿として使用しないでください。

■ 走行中の警告

ノースモーターズボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

クールボックス・小物入れ***▶ 5人乗り**

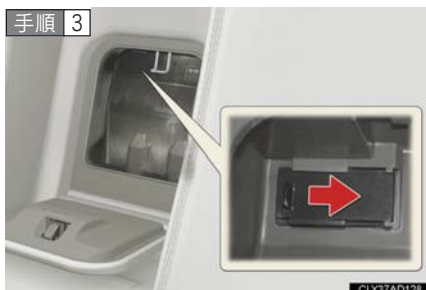
手順 1 アームレストを手前に倒す。(→P. 308)

手順 2



レバーを引く。

手順 3



冷風開閉口を開ける。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

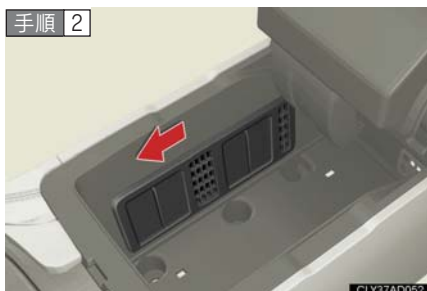
▶ 4人乗り

手順 1



レバーを引き上げてロックを解除し、アームレストを持ち上げる。

手順 2



冷風開閉口を開ける。

クールボックス・小物入れ



知識

■ クールボックスの作動条件

▶ 5 人乗り



リヤエアコン作動中、ディスプレイに  が表示されているとき。

▶ 4 人乗り



リヤエアコン作動中、ディスプレイに  が表示されているとき。

■ クールボックスに入れるものとして適さないもの

- ふたがされていない容器に入ったもの
- 割れもの、腐るもの、匂いが強いもの

3

室内装備の使い方

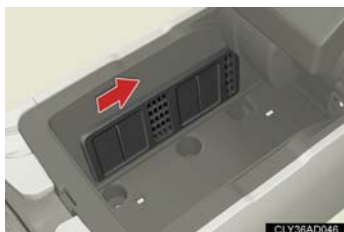
■ クールボックスを小物入れとして使うには

▶ 5 人乗り



保冷機能を停止するために、冷風開閉口を閉じます。

▶ 4 人乗り



保冷機能を停止するために、冷風開閉口を閉じます。

警告

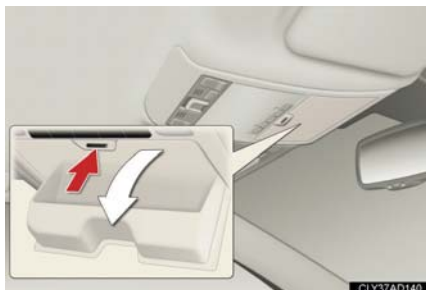
■ 走行中の警告

クールボックス・小物入れを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

小物入れ

小物入れ

▶ 天井*



ボタンを押す。

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

▶ コンソール背面（センターコンソール付後席ディスプレイ装着車）



ふたを押す。

▶ リヤシート（5人乗り）

手順 1 アームレストを手前に倒す。（→P. 308）

手順 2



1 ボタンを押す。

2 ふたを持ち上げる。

ふたがスライドしているときは持ち上げることができません。（→P. 308）

3

室内装備の使い方

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ リヤシート（4人乗り）



ふたの上側を押す。

DVD やヘッドフォンを収納するのに便利です。

 知識

■ コンソール内のトレイについて



トレイは取りはずすことができます。

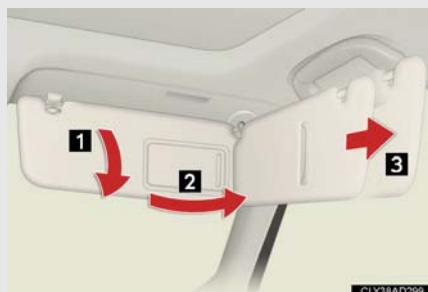
 警告

■ 走行中の警告

小物入れを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

サンバイザー



- 1 下ろす
- 2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす
- 3 横へスライドさせる

バニティミラー

▶ フロント



カバーをスライドして開けます。

カバーを開けるとライトが点灯します。

▶ リヤ



ボタンを押して開けます。

ライトが点灯します。

⚠ 注意

■ 使用しないときは（リヤ）

バニティミラーを必ず閉じてください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で長時間ライトを点灯しないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方

灰皿*

▶ フロント



ふたの前部を押して開けます。
閉めるときはもう一度ふたを押
します。

取りはずすときは、本体左右を持っ
て引き上げます。

▶ リヤ



ふたを開けます。

取りはずすときは、ふたを持って引
き上げます。

⚠ 警告

■ 使用後について

ふたを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

■ 出火を防ぐために

- マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

3-3. その他の室内装備の使い方

シガレットライター*

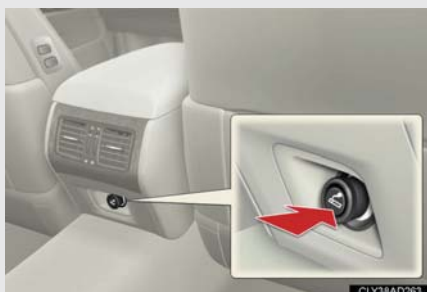
▶ フロント



灰皿のふたを開けて、シガレットライターを押し込みます。

もとの位置に戻ったら使用できます。

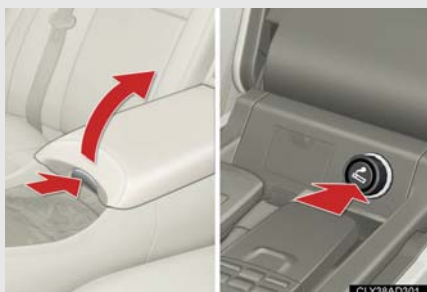
▶ リヤ（センターコンソール付後席ディスプレイ非装着の5人乗り）



シガレットライターを押し込みます。

もとの位置に戻ったら使用できます。

▶ リヤ（4人乗り）



シガレットライターを押し込みます。

もとの位置に戻ったら使用できます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 使用条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

 警告

■ やけどを防ぐために

- シガレットライターの金属部分に触れないでください。
- シガレットライターを押し込んだままにしないでください。
- 備えつけのシガレットライター以外のものを差し込まないでください。
ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

■ 使用後について（フロント）

ふたを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

3-3. その他の室内装備の使い方

アクセサリースOCKET／アクセサリコンセント

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

12V：DC12Vで最大電流 10A（最大消費電力 120W）以下の電気製品

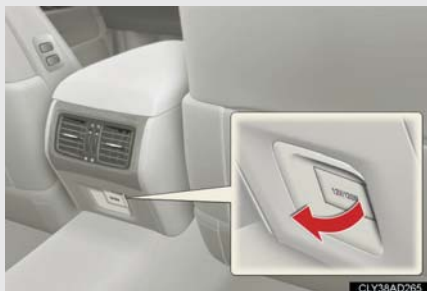
AC100V：AC100Vで最大消費電力 100W 以下の電気製品

■ アクセサリースOCKET

▶ フロント



▶ リヤ（センターコンソール付後席ディスプレイ非装着の5人乗り）*



*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ リヤ（センターコンソール付後席ディスプレイ装着の5人乗り）＊



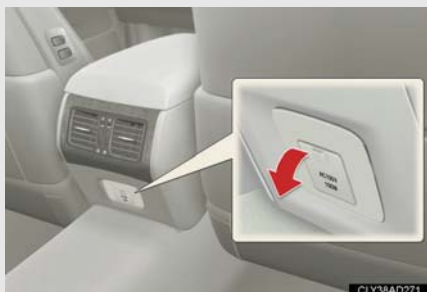
▶ リヤ（4人乗り）＊



＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ アクセサリーコンセント

▶ センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車*



▶ センターコンソール付後席ディスプレイ装着車*



■ 使用条件

▶ アクセサリーソケット

“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モードのとき

▶ アクセサリーコンセント

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 注意

■ ショートや故障を防ぐために

▶ アクセサリーソケット

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。

▶ アクセサリーコンセント

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときはコンセントから電気製品のプラグをはずし、ふたを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

▶ アクセサリーソケット

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

▶ アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態でアクセサリーソケット／アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切り替え（50/60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

3-3. その他の室内装備の使い方

ステアリングヒーター*

ハンドルのレザー部分をあたためることができます。



ON/OFF

作動中はインジケータが点灯します。



知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ タイマー機能

約 30 分後に自動で OFF になります。

■ インジケータが点滅した場合

スイッチを OFF にし、もう一度スイッチを押してください。点滅がさらに続く場合はシステムの異常が考えられます。作動を停止し、レクサス販売店で点検を受けてください。



警告

■ やけどについて

低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたが触れないようにご注意ください。

- ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
- ・ 皮膚の弱いのかた
- ・ 疲労の激しいのかた
- ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたのかた

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

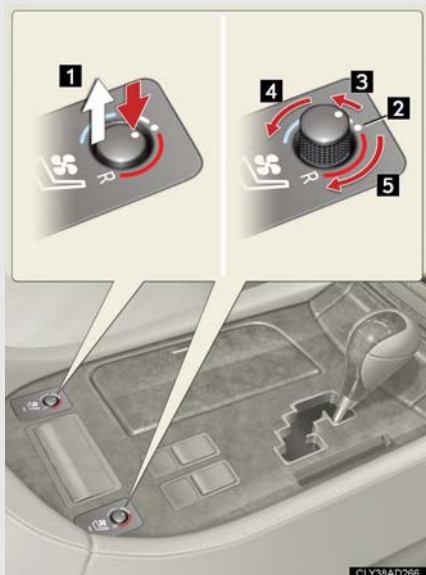
**注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときはスイッチを OFF にしてください。

コンフォータブル・エアシート* / リヤシートヒーター*

シートをあたためたり、冷やしたりすることができます。

■ フロントコンフォータブル・エアシート



1 ツマミを押して出します。左右にまわして温度を設定します。

2 OFF

3 送風

4 冷房

5 暖房

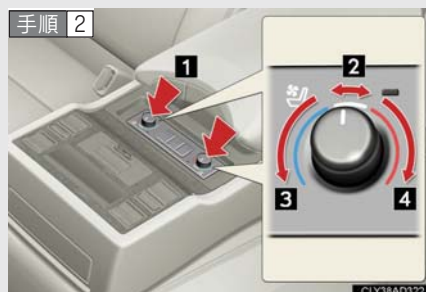
操作しないときは、ツマミを押し込みもとの位置に戻してください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ リヤコンフォータブル・エアシート

▶ 5 人乗り

手順 1 アームレストのふたをスライドさせる。(→P. 308)

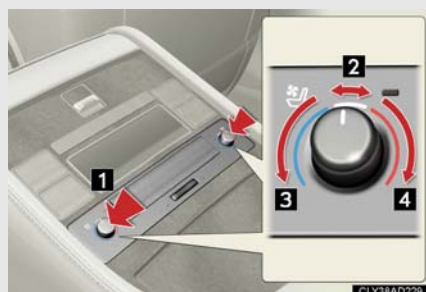


1 ツマミを押して ON にします。
左右にまわして温度を設定します。

OFF するにはもう一度ツマミを押します。

- 2 送風
- 3 冷房
- 4 暖房

▶ 4 人乗り



1 ツマミを押して ON にします。
左右にまわして温度を設定します。

OFF するにはもう一度ツマミを押します。

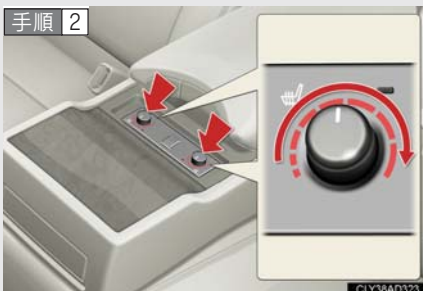
- 2 送風
- 3 冷房
- 4 暖房



フロント席からも ON/OFF することができます。

■ リヤシートヒーター

手順 1 アームレストのふたをスライドさせる。(→P. 308)



ツマミを押して ON にします。左右にまわして温度を設定します。

ツマミを右にまわすほど高温になります。OFF するにはもう一度ツマミを押します。



フロント席からも ON/OFF することができます。

□ 知識

■ コンフォータブル・エアシート／リヤシートヒーターの作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ フィルターについて

コンフォータブル・エアシートにはフィルターが入っています。交換の際はレクサス販売店にご相談ください。

 警告**■ やけどや冷やしすぎを防ぐために**

- 低温やけどや冷やしすぎのおそれがあるため、以下のかたは特にご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - ・ 皮膚の弱いかた
 - ・ 疲労の激しいかた
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- シートに毛布、クッションなどを使用しないでください。
コンフォータブル・エアシート／リヤシートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

 注意**■ コンフォータブル・エアシート／リヤシートヒーターの損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときはスイッチを OFF にしてください。

3-3. その他の室内装備の使い方

アームレスト（5人乗り）



手前に倒して使用します。

知識

■ アームレスト内のスイッチを操作するときは



ボタンを押してロックを解除し、ふたをスライドさせます。

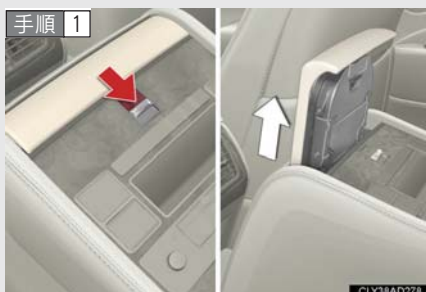
もとに戻すときもボタンを押してください。

注意

■ アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方 テーブル（4人乗り）



レバーをスライドさせてテーブルを上げる。



テーブルを引き上げ、手前へ倒す。



テーブルの向きを変えることができます。テーブルを使用する前に、必ずロックされている事を確認してください。

前席のパワーシートはテーブルに接触しそうになると作動が止まります。（→P. 65、79）



テーブルを戻すには、ロック解除レバーを引きながらテーブルを上げてください。

 警告

■ **使用しないときは**

けがを防ぐために、テーブルを戻してください。

■ **走行中の警告**

テーブルを確実に戻してください。事故や急ブレーキ時などに、テーブルに接触し、重大な傷害におよぶか、最悪な場合死亡につながるおそれがあります。

■ **テーブル使用中について**

以下の注意をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪な場合死亡につながるおそれがあります。

- テーブルが確実にロックされていることを確認してください。
- テーブルにもたれかけないでください。
- テーブルの上に 10kg を超える物体を置かないでください。

 注意

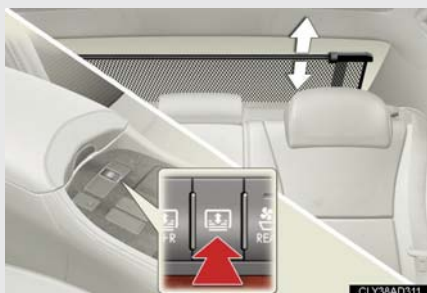
■ **テーブルの破損を防ぐために**

過度の負荷をかけないでください。

リヤサンシェード

スイッチ操作でリヤサンシェードを展開／格納できます。

- ▶ フロント席からの操作（センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車）



展開／格納

- ▶ フロント席からの操作（センターコンソール付後席ディスプレイ装着車）

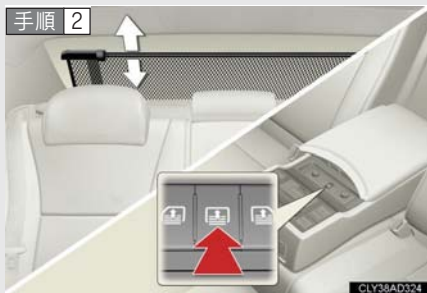


展開／格納

- ▶ リヤ席からの操作（5人乗り）

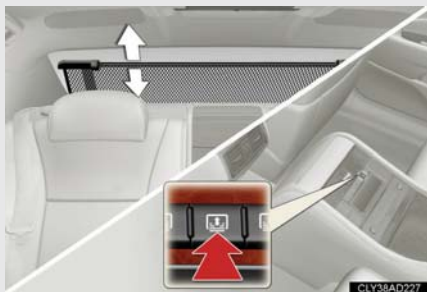
手順 1 アームレストのふたをスライドさせる。（→P. 308）

手順 2



展開／格納

▶ リヤ席からの操作（4人乗り）



展開／格納

 知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ “エンジンスタートストップ”スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 60 秒間リヤサンシェードを操作できます。

■ リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。

ただし、以下のいずれかをおこなうと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- スイッチをもう一度押す
- シフトレバーを P に入れる
- シフトレバーを P と R 以外にし、15 km/h 以上で走行する

リバース連動機能によりリヤサンシェードが下降した状態でエンジンを切った場合は、再びエンジンをかけて 15 km/h 以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

■ ボタンロック機能

誤った作動を防止するために、リヤアームレストのリヤサンシェード、リヤドアサンシェード、オーディオ、エアコンの操作を禁止することができます。

▶ 5人乗り



ロックするには MODE ボタンをブザーが鳴るまで押してください。

もう一度 MODE ボタンをブザーが鳴るまで押すと解除されます。

ボタンロック中はディスプレイにインジケータが表示されます。

▶ 4人乗り



ロックするには MODE ボタンをブザーが鳴るまで押してください。

もう一度 MODE ボタンをブザーが鳴るまで押すと解除されます。

ボタンロック中はディスプレイにインジケータが表示されます。

⚠ 警告

■ リヤサンシェード作動中は

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

 注意

■ バッテリーあがりを防ぐため

エンジンがかかっていない状態ではリヤサンシェードを操作しないでください。

■ 正常に機能させるため

以下のことをお守りください。

- モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉の妨げになる部分にものを置かないでください。
- リヤサンシェードにものを貼らないでください。
- 溝をきれいに保ってください。
- 長時間操作を続けないでください。

リヤドアサンシェード*

スイッチ操作でリヤドアサンシェードを伸縮できます。

- ▶ フロント席からの操作（センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車）



展開／格納

片側が開いている状態では両側とも格納します。

- ▶ フロント席からの操作（センターコンソール付後席ディスプレイ装着車）



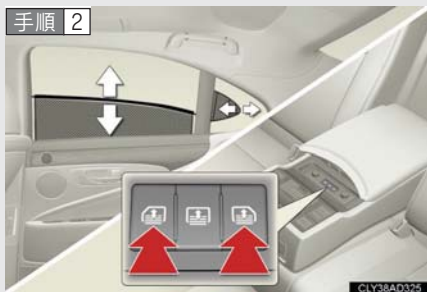
展開／格納

片側が開いている状態では両側とも格納します。

- ▶ リヤ席からの操作（5人乗り）

手順 1 アームレストのふたをスライドさせる。（→P. 308）

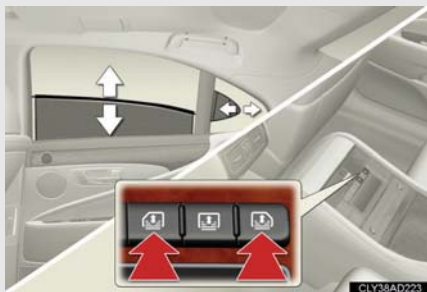
手順 2



展開／格納

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ リヤ席からの操作（4人乗り）



展開／格納

 知識

■ 作動条件

- “エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき
- リヤドアガラスが完全に閉じているとき
リヤドアガラスを開けると自動的にリヤドアサンシェードが格納します。

■ “エンジンスタートストップ”スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 60 秒間リヤドアサンシェードを操作できます。

■ 挟み込み防止機能

リヤドアサンシェードと窓枠との間に異物が挟まると挟み込み防止機能が作動し、アームからサンシェードがはずれてサンシェードが格納します。

▶ 展開作動中で挟み込み防止機能が作動したら

スイッチを押すとアームとサンシェードが連結されます。

スイッチをもう一度押すことで再び使用できます。

もしスイッチを押してもサンシェードが作動しない場合は、もう一度操作してください。

▶ 格納作動中に挟み込み防止機能が作動したら

サンシェードを再び展開させるためにボタンを押し、そのままサンシェードが完全に展開し停止してから 5 秒以上経過するまでボタンを押しつづけてください。

■ ボタンロック機能

誤った作動を防止するために、リヤアームレストの一部のボタン操作を禁止することができます。(→P. 313)

■ バッテリーを再接続したときは

バッテリーを再接続したあと、最初にスイッチを操作をすると、必ずリヤドアサンシェードは格納方向に動きます。



警告

■ リヤドアサンシェード作動中は

リヤドアサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。



注意

■ バッテリーあがりを防ぐため

エンジンがかかっていない状態ではリヤドアサンシェードを操作しないでください。

■ 正常に機能させるため

以下のことをお守りください。

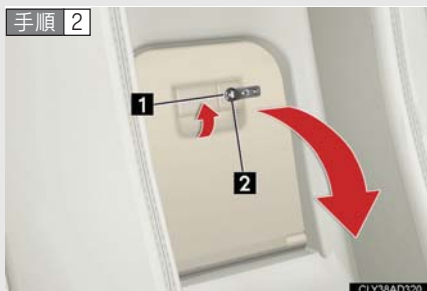
- モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉の妨げになる部分にものを置かないでください。
- リヤドアサンシェードにものを貼らないでください。
- 溝をきれいに保ってください。
- 長時間操作を続けないでください。

トランクスルー*

トランクとリヤ席のスペースを利用して、長い荷物を積むことができます。

手順 1 アームレストを手前に倒す。(→P. 308)

手順 2



アームレストドアを開ける。

アームレストドアはメカニカルキーで施錠、解錠することができます。

1 施錠

2 解錠

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

手順 3 リヤ席側から、またはトランク側からトランクスルードアを開け、荷物を積む。

▶ リヤ席から開ける



▶ トランクから開ける



警告

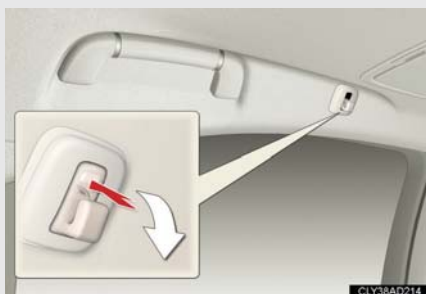
■ 使わないときは

トランクスルードアを閉めておいてください。
思わぬ事故や急ブレーキをかけたときなどに、トランクに収納していたものが車内に飛び出し、けがをするおそれがあります。

3-3. その他の室内装備の使い方

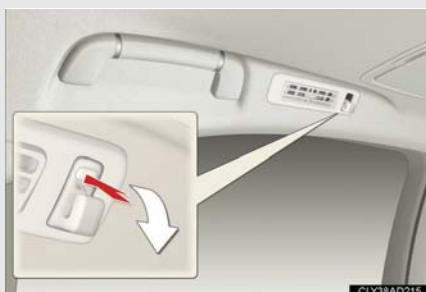
コートフック

▶ リアエアコン非装着車



使用するときには、コートフックを
押します。

▶ リアエアコン装着車



使用するときには、コートフックを
押します。

⚠ 警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

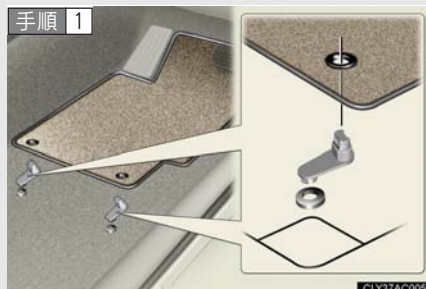
ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な
傷害または死亡につながるおそれがあります。

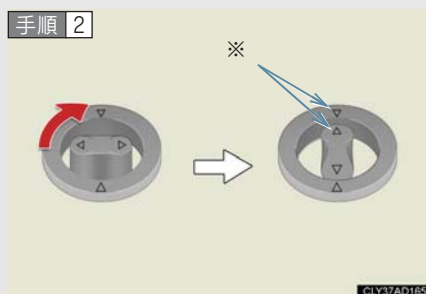
フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にとしっかりと固定してお使いください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。



固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



固定フック（クリップ）上部レバーをまわして固定する

※△マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。

詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くときは

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■ 運転する前に



- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

3-3. その他の室内装備の使い方

トランク内装備

■ 荷物固定用ネット

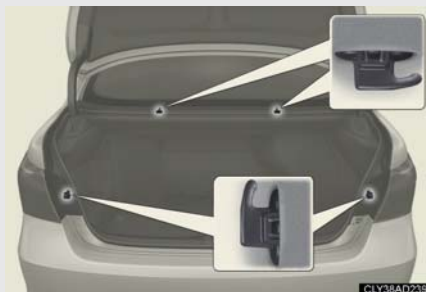


ネットを使って荷物を固定したり、トランク内を前後に仕切ることができます。

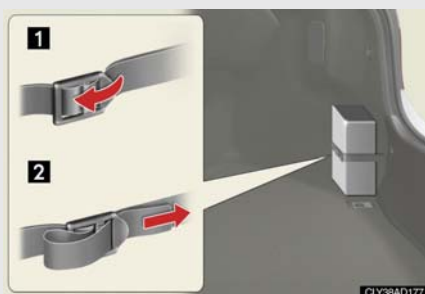
床上のフックを引き上げます。ネットをフックにかけます。



■ 買い物フック



■ 救急箱等固定用バンド



■ 三角表示板収納スペース



三角表示板を収納することが
できるスペースです。

(大きさ、形によっては収納できない
ことがあります。)

⚠ 警告

■ 荷物固定用ネットを使用しないときは

必ず固定用フックをもとの位置に戻しておいてください。

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	326
内装の手入れ	329
タイヤについて	332

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	335
ガレージジャッキ	337
エンジンルームカバー	339
タイヤの交換	341
電球（バルブ）の交換	347
ヒューズの点検、交換	358
電子キーの電池交換	361
ウォッシュャー液の補給	363

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをおこなう。

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください。)

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどレクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- 洗車する前に、ミラーを格納してください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。
- 洗車の前に給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を痛めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■ バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→ P. 95）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

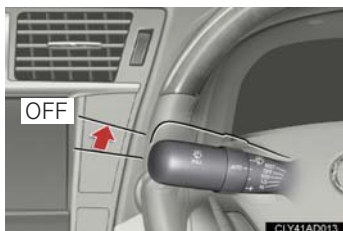
- 手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す
- 手順 2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす
- 手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す
- 手順 4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る
- 手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

⚠ 警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ フロントウインドウガラスを清掃するときは



ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

 警告

■ **排気管およびデュアルエキゾーストパイプ（バンパー一体ディフューザー付）について**

排気管およびデュアルエキゾーストパイプは排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管およびデュアルエキゾーストパイプが冷えてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ **後方プリクラッシュセーフティシステム*について**

リヤバンパーの塗装に傷がついたときは、レクサス販売店にご相談ください。

 注意

■ **塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり、泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ **ライトの清掃**

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけをおこなわないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ **自動洗車機を使用するときは**

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

4-1. お手入れのしかた

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分を拭き取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る



知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→ P. 86)



警告

■ **車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→ P. 117)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■ **内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

**注意****■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みをさけるために

革の部分の損傷・消耗をさけるために、以下のことをお守りください。

- 革についたほこりや砂はすぐに取り除く。
- 直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

4-1. お手入れのしかた

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）をFR車は10,000 kmごとに、AWD車は5,000 kmごとにおこなってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

● タイヤ空気圧

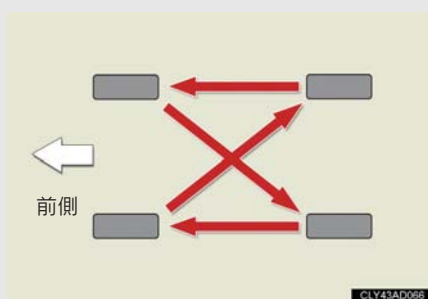
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときにおこなってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた



図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、レクサスは定期点検毎のタイヤローテーションをおすすめします。



知識

■ タイヤ空気圧の数値



前輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

後輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■ 点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、ベルテッドバイアスタイヤ、バイアスタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

 警告

■ **タイヤサイズの変更について**

新車時に装着されているタイヤサイズによってタイヤ切れ角の設定が異なるため、装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。サイズの異なるタイヤやホイールを装着した場合に車両の安定性が十分に確保できなくなるおそれがあり危険です。

■ **異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- 破裂などの修理できない損傷をあたえる
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

 注意

■ **走行中に空気漏れが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ **悪路走行に対する注意**

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

手順 1



ボンネット解除レバーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。

手順 2



レバーを引き上げてボンネットを開ける。

⚠ 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは



ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。

重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などで触れない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

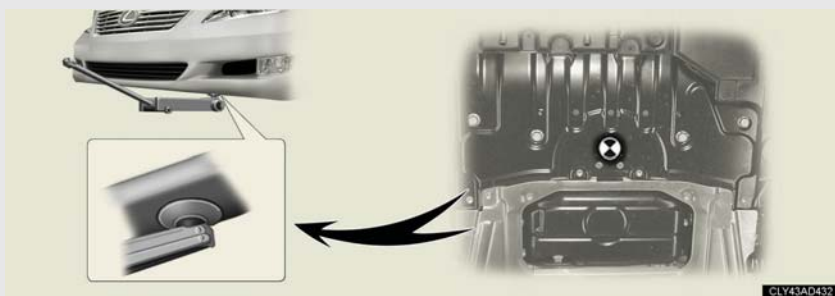
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用してお車を持ち上げる時は、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。

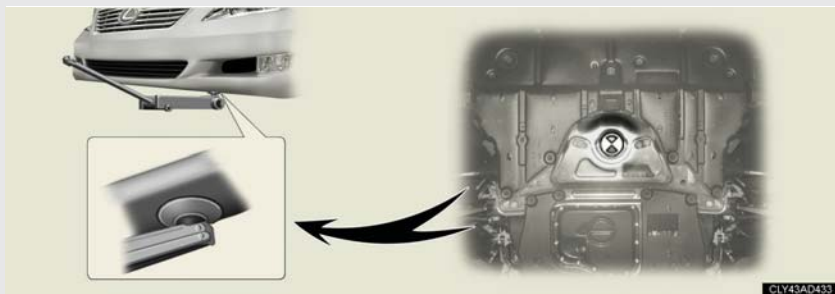
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側

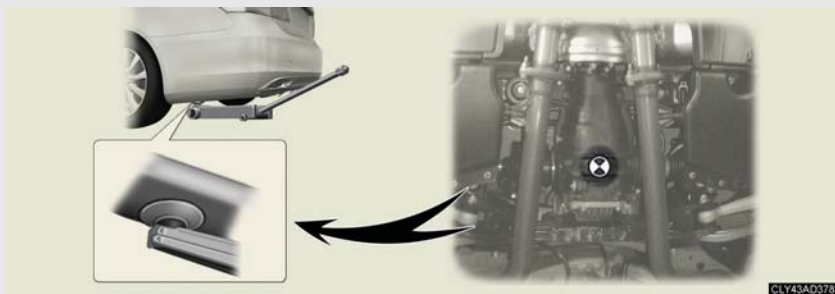
▶ FR 車（後輪駆動）



▶ AWD 車（4 輪駆動）



■ リヤ側



警告

■ 車両を持ち上げる時には

死亡または重大な傷害の危険性を低下させるために、以下のことをお守りください。



● 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する。
- 車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。
- 平らで硬い地面に車両を停車させ、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しく取り付けてください。
ガレージジャッキを正しく取り付けずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。
また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かないでください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 エンジンルームカバー

ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などをおこなうときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

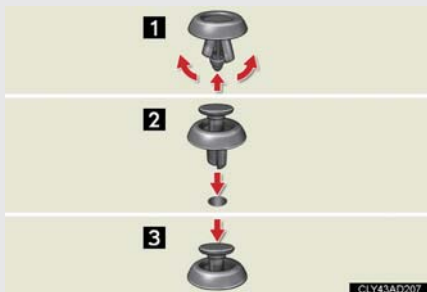
▶ 外側



▶ 前側



▶ クリップの取り付け方

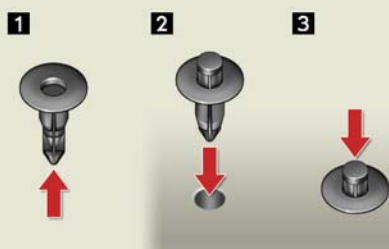


■ バッテリーカバーの取りはずし方

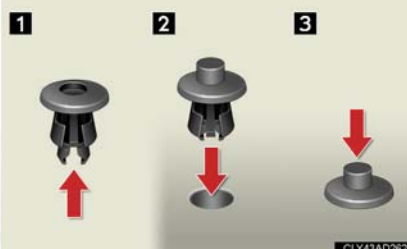


▶ クリップの取り付け方

小型クリップ



大型クリップ



⚠ 警告

■ けがを防ぐために

カバーを取りはずす前に、“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ カバーを取り付けたあとは

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認ください。

タイヤの交換

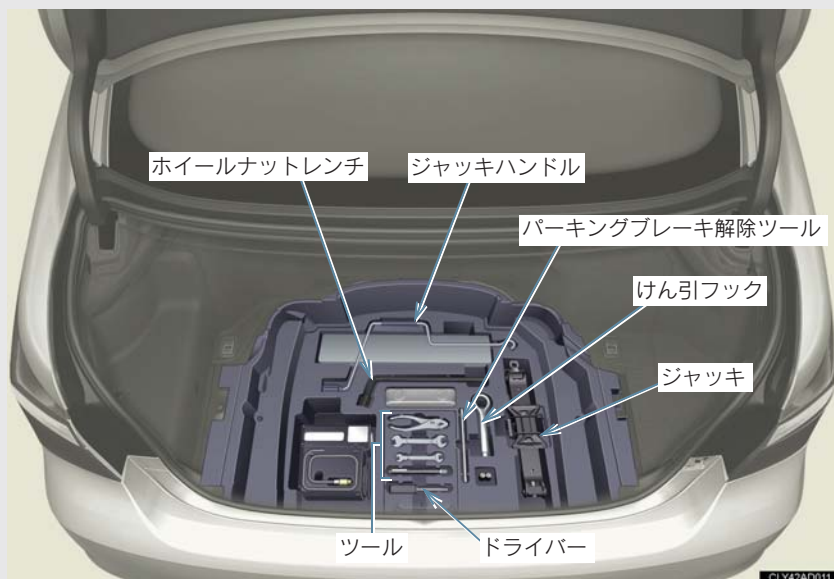
ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する

■ 工具とジャッキ位置



ジャッキの取り出し方

手順 1 ハンドルを起こし、ラゲージマットを折りたたんだあとデッキボードを取りはずす。(→ P. 384)



ジャッキのとめ具を取りはずす。

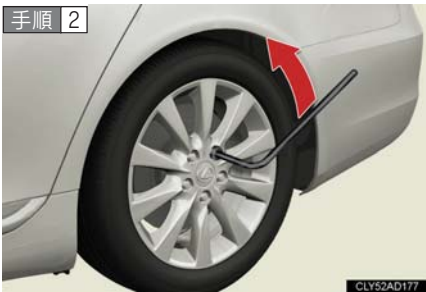
タイヤの交換



輪止め※をする。

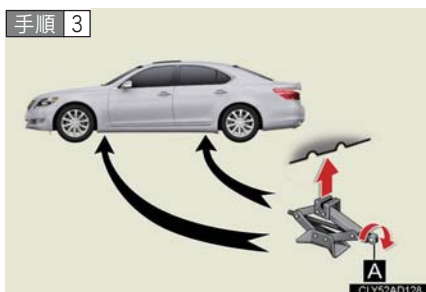
交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。



ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる。

手順 3



ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。

手順 4



タイヤが地面から少しはなれるまで、車体を上げる。

手順 5



ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷つかないように意匠面を上にする。

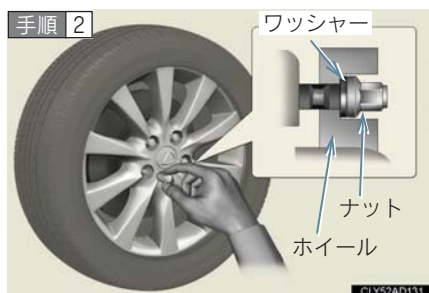
タイヤの取り付け

手順 1



ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

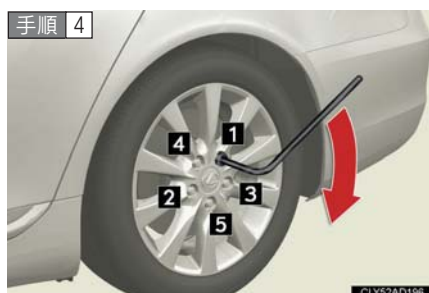


タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

ワッシャーがホイールに軽く当たるまでナットをまわす。



車体を下げる。



図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける。

締め付けトルク：
140 N・m (1428 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキを収納する。

 警告**■ ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車両が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。

以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車両に使ったり、他の車両のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車両の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動させたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車両を持ち上げない
- 車両を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものをのせない
- 車両を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車両の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、ジャッキアップ時は必ずエンジンを停止する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

 警告

■ **タイヤ交換について**

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットが緩みホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。
 - ・ ホイールの交換後は、すぐに 140 N・m (1428 kgf・cm) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

4-2. 簡単な点検・部品交換

電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、レクサス販売店にご相談ください。

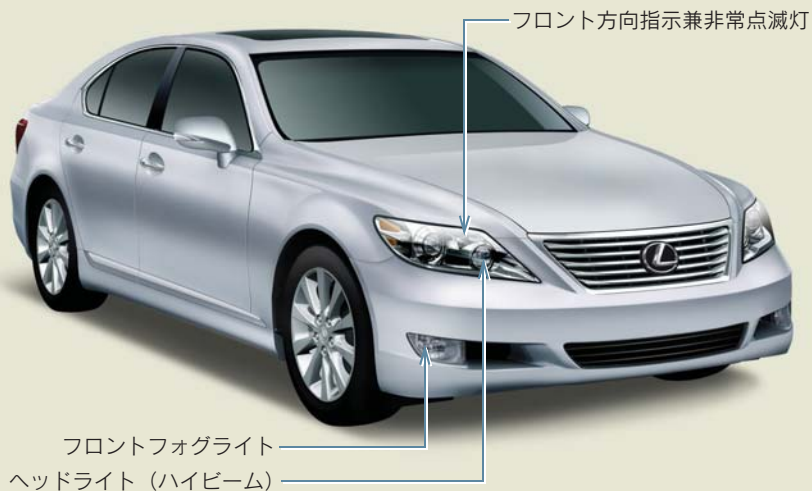
■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確認してください。（→P. 419）

■ エンジンルームカバーの取りはずし

→P. 339

■ フロントのバルブ位置



■ リヤのバルブ位置



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ ヘッドライト（ハイビーム）

手順 1 電球を交換する前に、

▶ 左側



ウォッシャー液補給口の固定ボルトをはずし、補給口の位置を移動する。

▶ 右側

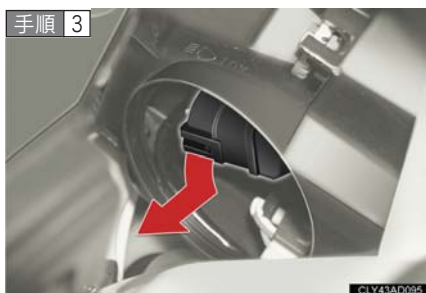


ヒューズボックス固定ボルトをはずし、ヒューズボックスを移動する。

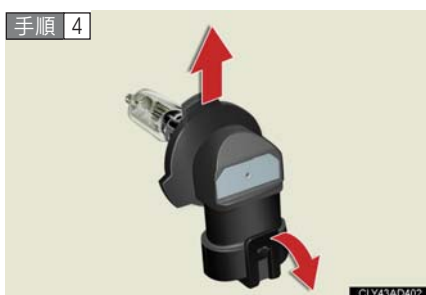
手順 2



カバーを取りはずす。

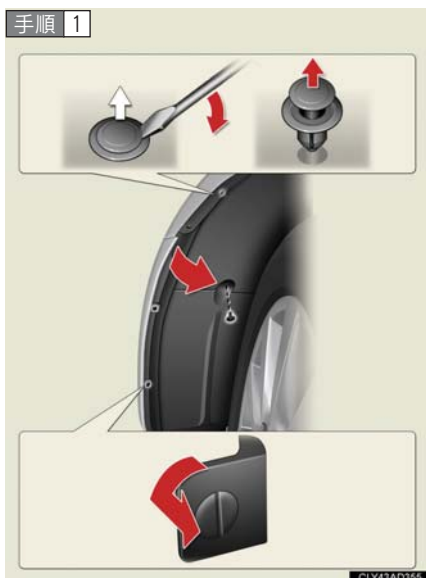


ソケットを取りはずす。



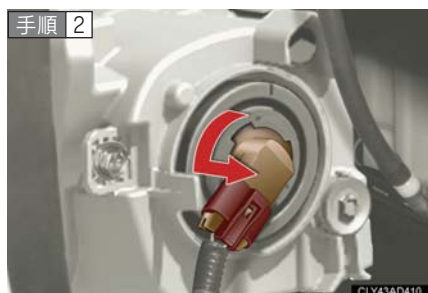
電球を取りはずす。

■ フロントフォグライト

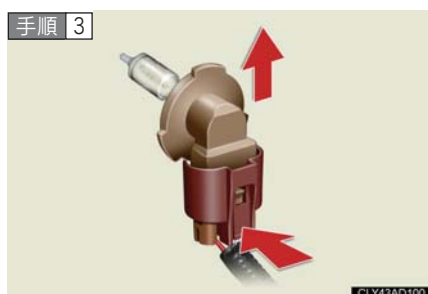


交換するライトの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる。

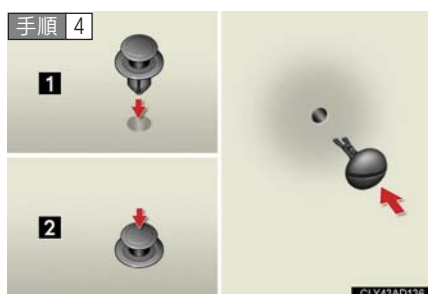
フェンダーライナー固定ボルトとクリップをはずし、フェンダーライナーをめくる。



ソケットを取りはずす。



電球を取りはずす。



固定ボルトとクリップを取り付ける。

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

手順 1 電球を交換する前に、

▶ 左側



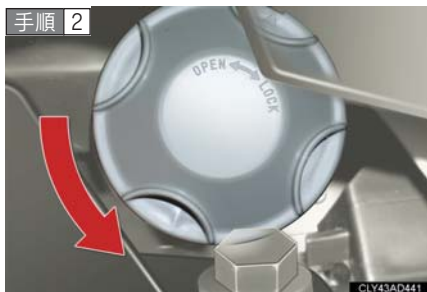
ウォッシャー液補給口の固定ボルトをはずし、補給口の位置を移動する。

▶ 右側



ヒューズボックス固定ボルトをはずし、ヒューズボックスを移動する。

手順 2



カバーを取りはずす。



ソケットを取りはずす。



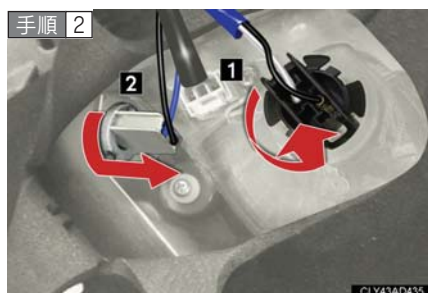
電球を取りはずす。

■ 後退灯、リヤフォグライト*



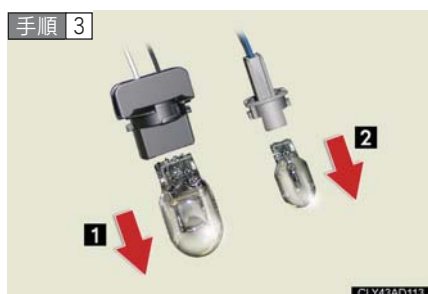
トランクを開け、カバーを取りはずす。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



ソケットを取りはずす。

- 1 リヤフォグライト
- 2 後退灯



電球を取りはずす。

- 1 リヤフォグライト
- 2 後退灯

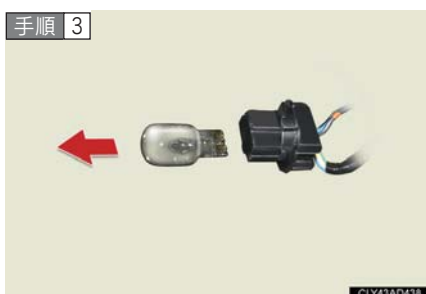
■ リヤ方向指示兼非常点滅灯



トランクを開け、カバーを取りはずす。



ソケットを取りはずす。



電球を取りはずす。

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドライト（ロービームまたはロー／ハイビーム）
- 車幅灯
- サイド方向指示兼非常点滅灯
- 制動灯
- 尾灯
- ハイマウントストップライト
- 番号灯



知識

■ レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ライト内に水がたまっている

■ ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。電圧が正常に戻ると再点灯します。



警告

■ 電球を交換するときは

- ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■ ディスチャージヘッドライトについて

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電による重大な傷害の原因となる場合があります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電による重大な傷害の原因となります。

 注意

■ ヘッドライト（ハイビーム）、フロントフォグライト、フロント方向指示兼非常点滅灯の電球交換について

ご自身で電球交換をおこなった場合、車を損傷するおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。

■ LED ライトについて

車幅灯、サイド方向指示兼非常点滅灯、制動灯、尾灯、ハイマウントストップライト、番号灯は数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検をおこなってください。

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする。

手順 2 エンジンルームカバーを取りはずす。(→P. 339)

手順 3 ヒューズボックスを開ける。

▶ エンジンルーム (ヒューズボックス A)



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ エンジンルーム (ヒューズボックス B)



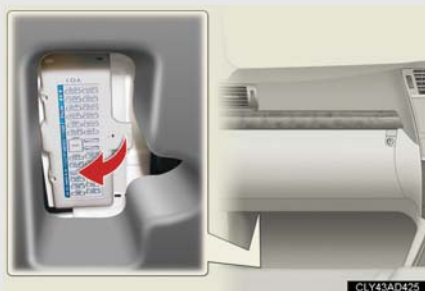
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ 運転席足元



カバーを取りはずす。

▶ 助手席足元



カバーを取りはずす。

▶ トランク



カバーを取りはずす。



手順 4

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く。

手順 5

1



2



CLV43AQ158

ヒューズが切れていないか点検する。

1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあと

- 交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 347)
- 取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズが同等品を使用してください。一瞬であっても、決して銅線などでつながないでください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換のしかた

手順 1



CLY43AD123

メカニカルキーを抜く。

手順 2



CLY43AD124

カバーをはずす。

手順 3



CLY43AD125

消耗した電池を取り出す。

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はレクサス販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 交換後、正常に機能させるために

以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

4-2. 簡単な点検・部品交換

ウォッシャー液の補給



ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補給する。

警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。

塗装にしみがつくおそれがあります。

■ ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

5-1. まず初めに

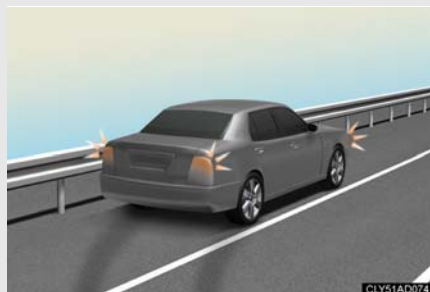
故障したときは.....	366
非常点滅灯	367
発炎筒	368
けん引について.....	370
フューエルポンプシャット オフシステム	374

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは.....	375
警告メッセージが 表示されたときは.....	379
パンクしたときは.....	382
エンジンが かからないときは.....	394
シフトレバーが シフトできないときは.....	396
パーキングブレーキが 解除できないときは.....	397
電子キーが正常に 働かないときは.....	401
バッテリーが あがったときは.....	405
オーバーヒートした ときは	408
スタックしたときは.....	411
車両を緊急停止するには	412

5-1. まず初めに 故障したときは

故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。



非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

(→ P. 367)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



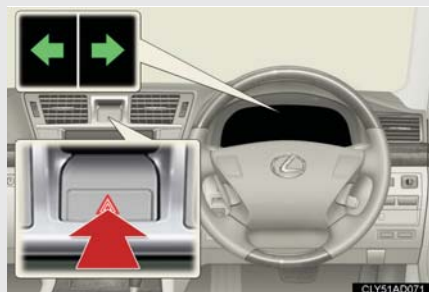
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)



緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→ P. 368)

5-1. まず初めに 非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向
指示灯が点滅し、もう一度押すと
消灯します。

注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

5-1. まず初めに

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。

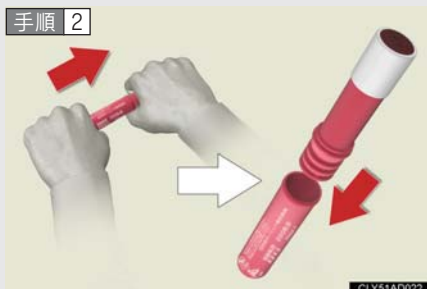
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

手順 1



助手席足元の発炎筒を取り出す。

手順 2



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む。

手順 3



先端のふたを取りはずし、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる。

知識

■ 発炎筒の有効期限

表示してある有効期間がきれる前に、レクサス販売店でお求めください。

**警告****■ 発炎筒が使用できない場所**

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

5-1. まず初めに けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

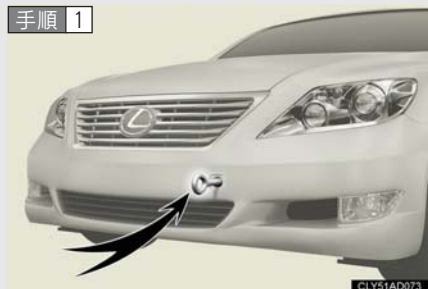
■ けん引する前に

以下の場合、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店へご連絡ください。

- エンジンがかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

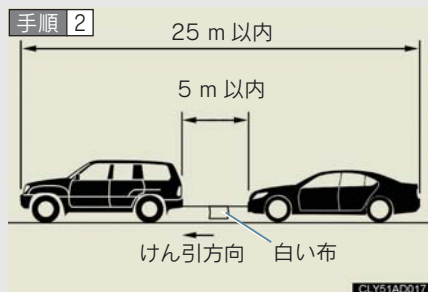
手順 1



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

手順 2



ロープの中央に白い布を付ける。

布の大きさ：

0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm) 以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける。

エンジンがかからないときは、“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する。

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取り付けかた

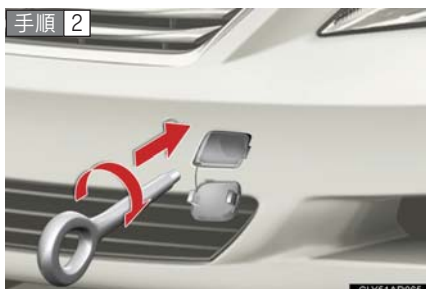
手順 1



マイナスドライバーを使ってふたをはずします。

車体への損傷を防ぐため、イラストのように車体とマイナスドライバーの間に布をあててください。

手順 2



けん引フックを穴に差し込み軽く締めます。

手順 3



ホイールナットレンチを使い確実に取り付けます。



■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 341



警告

■けん引フックを車両に取り付けるときは

しっかりと取り付けてください。

さもないとけん引時にはずれてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■車両を運搬するときは

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。

駆動装置が焼き付きを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。

■けん引中の運転について

- けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。

けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

- “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にしないでください。

ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- けん引される車は、慎重に運転してください。

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

**注意****■車の損傷を防ぐために**

- けん引するときは以下のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
 - ・前進方向でけん引する
 - ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車で他車やポート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にする

手順 2 エンジンを再始動する



注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー）※ ・ブレーキ液の不足 ・電子制御ブレーキシステムの異常

※ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電システムの異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常

警告灯	警告灯名・警告内容
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常 ・アクティブヘッドレストシステム*の異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	ブレーキ警告灯 ・電子制御ブレーキシステムの異常 ・電動パーキングブレーキシステムの異常
	パワーステアリング警告灯 EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
 (点滅)	PCS 警告灯* プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。 (→P. 247) ・プリクラッシュブレーキを OFF にすると点灯します。 (→P. 248) ・システムが一時的に使用できないときに点灯します。 (→P. 380)
	スリップ表示灯 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常
 (点滅)	オートマチックハイビーム表示灯 オートマチックハイビームシステムの異常
 (点滅)	クルーズコントロール表示灯 クルーズコントロールシステムの異常
 (点滅)	AFS OFF 表示灯 AFS（アダプティブフロントライティングシステム）の異常

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ パワーステアリング警告灯について

電圧が低い、または低下した場合に点灯することがあります。

 警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 (警告ブザー) ※ 1 いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉める。
 燃料計内	燃料残量警告灯 燃料の残量 (約 13 L 以下)	燃料を補給
	運転席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	助手席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	水温警告灯 (ファイン グラフィックメーター) エンジン冷却水温の異常	→ P. 408

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示	→ P. 379

- ※ 1 **半ドア走行時警告ブザー：**
各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h を超えたときにブザーが鳴ります。
- ※ 2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

 知識

- **助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について**
- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
 - 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときはメッセージの内容にしたがって処置してください。

▶ オブティロンメーター

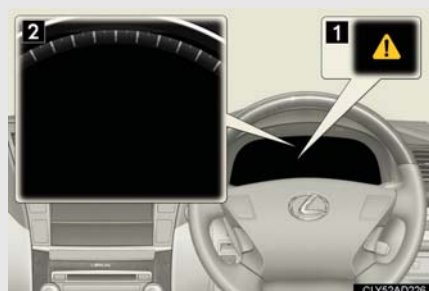


1 マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

▶ ファイングラフィックメーター



1 マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が以下のように切り替ります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	—	あり	走行に関わるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
—	点灯もしくは点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	お車を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※：メッセージを最初に表示したときに作動します。

 知識**■ 専用警告灯について**

以下の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングライトが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示をおこないます。

- AFS（アダプティブフロントライティングシステム）の異常
AFS OFF 表示灯が点滅します。（→P. 192）
- ブレーキシステムの異常
ブレーキ警告灯（赤色）が点灯します。（→P. 375）
- 電子制御ブレーキシステム・電動パーキングブレーキシステムの異常
ブレーキ警告灯（黄色）が点灯します。（→P. 375）
- ABS の異常
ABS & ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→P. 375）
- 充電系統の異常
充電警告灯が点灯します。（→P. 375）
- エンジン冷却水高温異常
水温計の針がレッドゾーンに入ります。（→P. 175）

■ 「電装品作動制限中」が表示されたときは

バッテリーの充電が不足していることを意味します。

このとき、エアコンなどの消費電力が大きい電装品の作動を一時的に制限することがあります。故障ではありませんので、バッテリーの充電が回復したときに電装品の作動は復帰します。

パンクしたときは

この車両にはスペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときにパンク修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク補修液1本につき、応急修理できるタイヤは1本です。)

パンク修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、販売店にご相談ください。

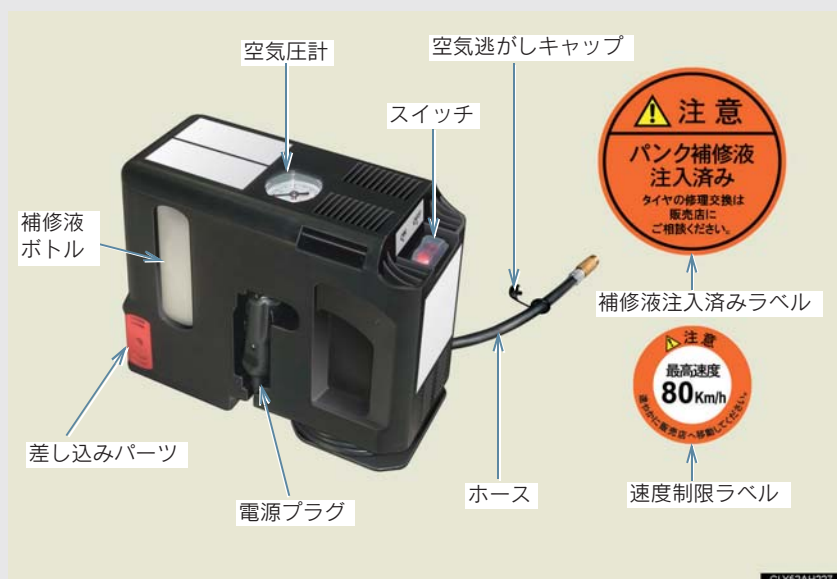
■ 応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ パンク修理キットとペンライトの位置



■ パンク修理キットの内容、各部名称



ペンライトの使い方

夜間の応急修理などに使用できるペンライトをトランク内に装備しています。



- 1 先端部を回して開ける。
- 2 電池を入れる。
- 3 先端部を装着する。
- 4 ON/OFF

パンク修理キットの取り出し方



ハンドルを起し、ラゲージマットを折りたたむ。



デッキボードを取りはずす。

手順 3 パンク修理キットを取り出す。

応急修理をする前に

応急修理をする前に、タイヤの損傷状況を目視で確認する。

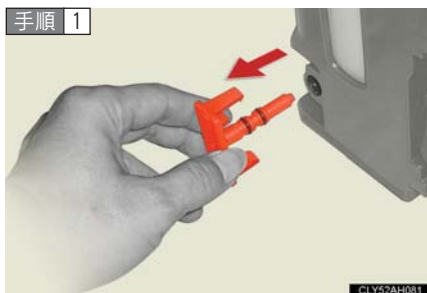


釘やねじなどが刺さっている場合のみタイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さったクギやネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなり、応急修理ができなくなる場合があります。
- ・ パンク補修液が漏れないように、パンク箇所が分かっている場合は、タイヤのパンク箇所が上側になるように車を移動してください。

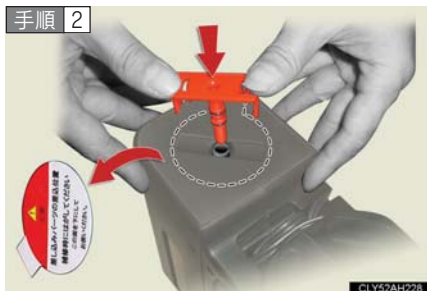
応急修理するときは

手順 1



キットから差し込みパーツを引き抜く。

手順 2



キット底面を上に向けてシールをはがし、差し込みパーツを押し込む。

“パチッ”と音がするまでしっかりと奥まで押し込んでください。

手順 3



キットの向きをもとに戻し、スイッチがOFFであることを確認する。

必ず立ててご使用ください。

手順 4



キットの電源プラグをアクセサリソケットに差し込む。(→P. 298)



バルブからバルブキャップを取りはずす。

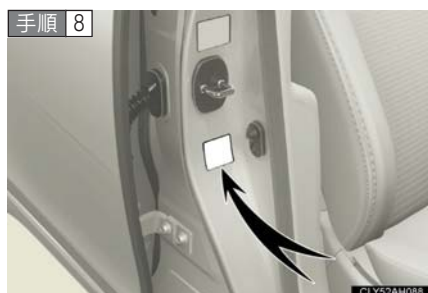


ホースから空気逃がしキャップを取りはずす。



ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する。

ホース先端を時計まわりに回してしっかりと最後までねじ込む。



タイヤの指定空気圧を確認する。

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 418)

手順 9 エンジンを始動する。

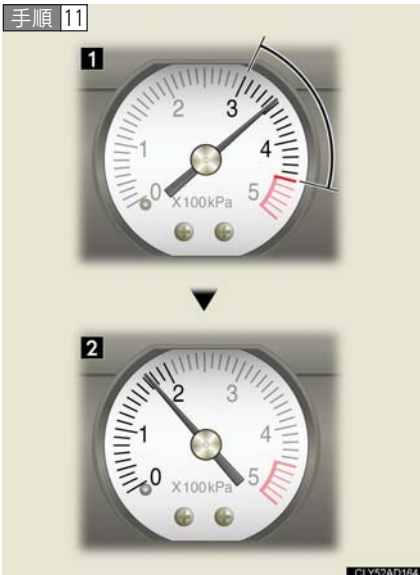
手順 10



キットのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する。

必ず立ててご使用ください。

手順 11



空気が指定空気圧になるまで空気を充填する。

- 1 スイッチ ON 直後はパンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が 300 ~ 450kPa まで上昇します。
- 2 1 分程度で実際の空気圧表示になります。指定空気圧になるまで充填してください。

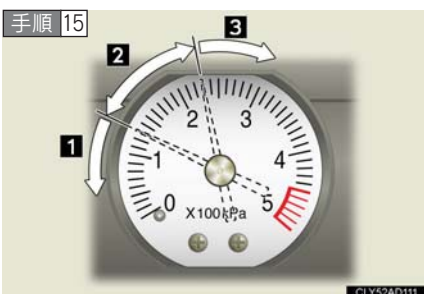
- ・ 空気圧は、キットのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認を繰り返してください。
- ・ 空気圧計の針が赤いゾーン (450kPa 以上) に達した場合、タイヤまたはキットに異常がある可能性があります。直ちに修理を中止してください。
- ・ 10 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。販売店にご連絡ください。
- ・ 空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→P. 390)

手順 12 バルブからキットのホースを取りはずし、アクセサリソケットから電源プラグを取りはずす。

手順 13 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、直ちに約 5 km 走行する。



走行後、再度キットを接続する。



キットのスイッチを数秒間ONにし、OFF にしてから空気圧を確認する。

1 空気圧が 130 kPa 未満の場合：
応急修理できません。販売店にご連絡ください。

2 空気圧が 130 kPa 以上、指定空気圧未満の場合： **手順 16** へ

3 空気圧が指定空気圧の場合：
手順 17 へ

手順 16 キットのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後に改めて **手順 14** から実施する。



キットを片付けて、付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける。

急ブレーキ、急ハンドルを避け、80 km/h 以下で慎重に運転して販売店へ行きます。タイヤの修理・交換については販売店にご相談ください。

知識

■ 以下のときは、パンク修理キットでは応急修理できません。販売店にご連絡ください。

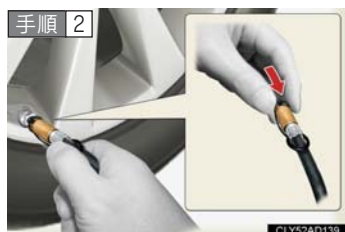
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側壁の亀裂や損傷によりタイヤがパンクしているとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤ溝に 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 か所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■キットについて

- パンク修理液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限がきれる前に交換してください。交換については販売店にご相談ください。
- タイヤ 1 本を 1 回、応急修理できます。使用したパンク補修液のボトルと付属品の交換は販売店にご相談ください。
- 外気温度が $-30^{\circ}\text{C} \sim 60^{\circ}\text{C}$ のときに使用できます。
- キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかに拭き取ってください。
- キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。

■空気を入れすぎてしまったときは

手順 1 タイヤからホースを取りはずす。



ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をバルブに押しあて、空気を抜く。

手順 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する。

手順 4 キットのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する。
(→P. 418)

指定空気圧より低いときは、再度キットのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のバルブについて

パンク修理キットを使用したときは、バルブを新品に交換してください。

 警告**■パンク補修液について**

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、直ちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させる。
- ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続する。
- ホースの接続が不十分な場合、空気が漏れたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- パンク補修液注入中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 破裂の危険があるのでキット作動中は補修中のタイヤからはなれてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、直ちにキットのスイッチを切り、修理を中止してください。
- キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。10分以上連続で作動させないでください。
- キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に速度制限ラベルを貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

警告

■ 補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、以下を確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 再度空気圧を測ってください。130kPa 以下の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■ パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■ 応急修理をするときは

- タイヤ溝に刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理をおこなってください。
取り除いてしまうと、パンク修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。
- キットが倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

 注意

■ キットについて

- キットは DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
- キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- キットは指定の位置に格納し、お子様が誤って手を触れないようご注意ください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 151）にしたがっても、エンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 151）にしたがって、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 108）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 405）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない

以下の原因が考えられます。

電装品の断線やヒューズ切れなど電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 395）

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 405）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置の方法がわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
- 手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。
- 手順 3 “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリモードにする。
- 手順 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んで “エンジンスタートストップ” スイッチを約 15 秒以上押しつづける。

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

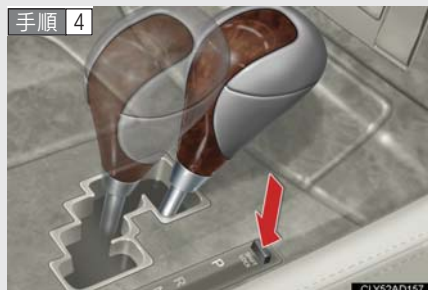
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリモードにする。

手順 3 ブレーキペダルを踏む。



シフトロック解除ボタンを押す。

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

パーキングブレーキが解除できないときは

パーキングブレーキスイッチを操作しても解除できない場合は、パーキングブレーキシステムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店へ連絡してください。

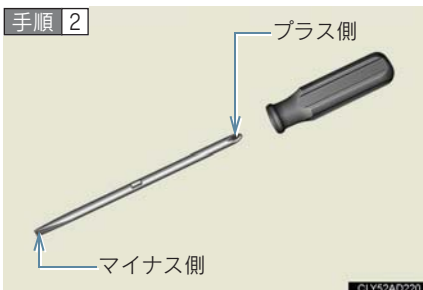
緊急時のみ、以下の手順で手動解除することができます。

■ 手動解除する前に

- シフトレバーを P に入れる
- “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする
- パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認する
- 輪止めをする

手動解除の方法

手順 1 パーキングブレーキ解除ツールとドライバーをトランクから取り出す。(→ P. 341)



ドライバーがマイナス側になっていることを確認する。

プラス側になっている場合は、マイナス側に入れ換えてください。

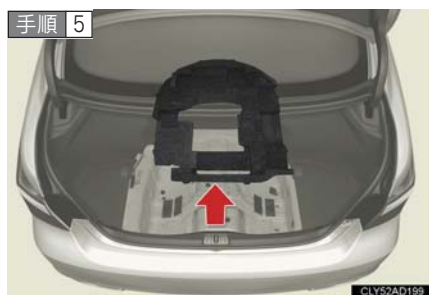


マイナスドライバーを使って、クリップを取りはずす。

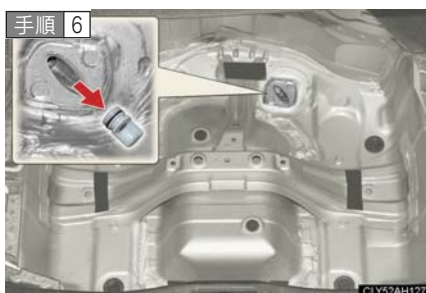
クリップを取り付けるときはP. 400を参照してください。



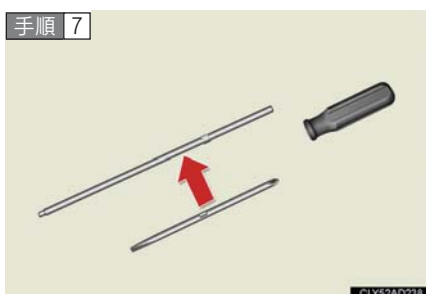
左右のサイドデッキボードの後部を持ち上げながらツールトレイを引き出す。



ツールトレイガードを取り出す。



キャップを取りはずす。



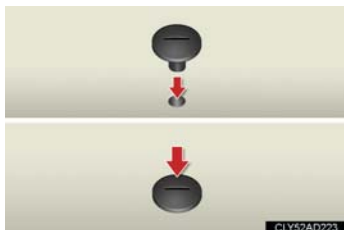
ドライバーのハンドルにパーキングブレーキ解除ツールを差し換える。



パーキングブレーキ解除ツールを差し込み、強く押し当てながら左へ止まるまでまわす。

 知識

■ ツールトレイのクリップを取り付けるときは



図のようにクリップを取り付けてください。

■ 手動解除したあとは

パーキングブレーキをかけることができません。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

 警告

■ 手動解除するときの警告

- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずシフトレバーをPに入れて輪止めで固定してください。
車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ず“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにして、パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認してください。
“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのときに手動解除をおこなうと、システムが作動して差し込んだツールが回転し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 40）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアやトランクを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使います。（→P. 33）

▶ ドア



運転席側のドアハンドルのカバーを取りはずす



- 1 全ドア施錠
- 2 ドアガラス・ムーンルーフ*が閉まる（長まわし）
- 3 全ドア解錠
- 4 ドアガラス・ムーンルーフ*が開く（長まわし）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備



操作が終わったらカバーを取り付ける

カバーの上側にあるツメを車両上側のツメにかけ、カバー下側を押して取り付ける

ツメが正しくかかっていないと、カバーが脱落する原因になるため、取り付け後はしっかり固定されていることを確認してください。

▶ トランク



メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける

モードの切り替え、エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む。



電子キーのレクサスエンブレム面で、“エンジンスタートストップ”スイッチに触れてください。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジンスタートストップ”スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。



手順 3 モードの切り替え：ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足をはなして“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。“エンジンスタートストップ”スイッチを押すごとにモードが切り替わります。(→ P. 152)

エンジンの始動：ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

処置をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店に連絡してください。



知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーを P にして“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

■ 電池交換について

上記のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 361)

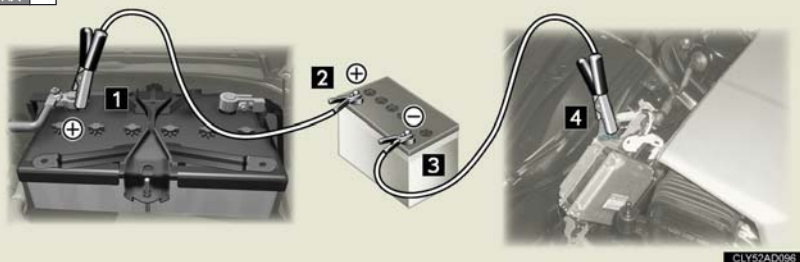
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

手順 1 エンジンルームカバーとバッテリーカバーをはずします。
(→P. 339)

手順 2



バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ。

- 1** 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ。
- 2** 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ。
- 3** 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ。
- 4** 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーからはなれた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ。

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する。

手順 4 “エンジンスタートストップ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する。

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジンスタートストップ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける。

手順 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

エンジンがかかっても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

 知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがったときは

コンピュータに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはレクサス販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■ バッテリーがはずされたり、バッテリーがあがってしまった場合は

“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーションなど）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

 警告**■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ブースターケーブルの+側と-側を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体につかないようにする
- バッテリーに寄りかかったりしない
- 誤ってバッテリー液が身体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近づけない

 注意**■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する。

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける。

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきってからエンジンを止める。

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、レクサス販売店に連絡する。

手順 4



エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する。

エンジンルームカバーを取りはずすには（→P. 339）

手順 5



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

 知識**■ オーバーヒートとは**

以下の状態がオーバーヒートです。

- 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る

 警告

■ **エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために**

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトからはなしてください。
- エンジン及びラジエーターが熱いうちはクーラントリザーバーキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

 注意

■ **冷却水を入れるときの注意**

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水をいれると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法を試みてください。

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P に入れ、エンジンを停止する。

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む。

TRC、VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC を停止してください。(→P. 243)

警告

■ 脱出するときの警告

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4



“エンジンスタートストップ”スイッチを3秒以上押し続けてエンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

車両仕様

6

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料、
オイル量など) 414

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 421

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
お車には、最も適した弊社純正オイル・液類のご使用をおすすめします。

弊社純正オイル・液類以外を使用される場合は、弊社純正オイル・液類に
相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	84

エンジンオイル

銘柄	容量 [L]（参考値※ ¹ ）	
	オイルのみ 交換	オイルとオイル フィルター交換
弊社純正モーターオイル SN 0W-20 ※ ² —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-20 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル SN 10W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30 弊社純正モーターオイル SM 0W-20 —API SM, EC, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC, SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC, SAE 10W-30	8.4	8.6 ※ ³ 9.0 ※ ⁴

※¹ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に
停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

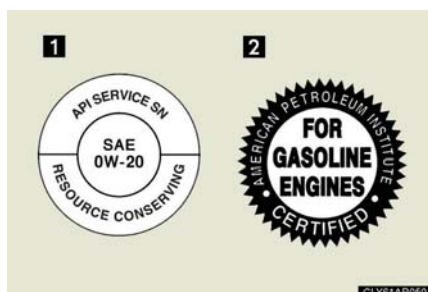
※² 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

※³ FR 車（後輪駆動）

※⁴ AWD 車（4 輪駆動）

■指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークが付いています。

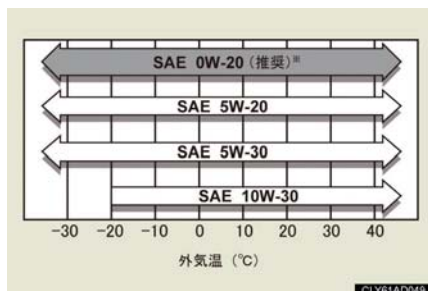


1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	駆動方式	容量 [L] (参考値)
弊社純正スーパーロングライフ クーラント 凍結保証温度 濃度 30% -12℃ 濃度 50% -35℃	FR（後輪駆動）	11.0
	AWD（4 輪駆動）	11.1

オートマチックトランスミッション

銘柄	駆動方式	容量 [L] (参考値)
弊社純正オートフルード WS	FR（後輪駆動）	10.3
	AWD（4 輪駆動）	10.7

トランスファー（AWD 車）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
弊社純正トランスファーギヤオイル LL80（推奨）、弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX（API GL-5, SAE 75W-85）	0.70

フロントディファレンシャル（AWD 車）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT（API GL-5, SAE 75W-85）	0.75

リヤディファレンシャル

▶ FR 車（後輪駆動）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	1.35

▶ AWD 車（4 輪駆動）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※	95

※ 200 N (20 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目 (エンジン始動時)	パーキングブレーキ表示灯の 状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上押したとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上引いたとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯しないことを確認する。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
4.7

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
235/50R18 97W	18 × 7 1/2J	230 (2.3)	230 (2.3)
235/50R18 97V			
245/45R19 98Y	19 × 8J		

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：H9） ロービームまたはロー／ハイビーム （ディスチャージヘッドライト）	65 35
	車幅灯	LED ※
	フロントフォグライト（バルブタイプ：HB4）	51
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯&尾灯	LED ※
	尾灯	LED ※
	後退灯	16
	リヤフォグライト*	21
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	LED ※
	ドアミラー照明	5

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球		W (ワット) 数
車内	フロントインテリアライト	8
	フロントパーソナルライト	LED ※
	フロントバニティライト	8
	リヤインテリアライト	8
	リヤパーソナルライト (後席 9 型ワイドディスプレイ装着車)	10
	リヤパーソナルライト (後席 9 型ワイドディスプレイ非装着車)	LED ※
	リヤバニティライト	3
	シフト照明	LED ※
	インサイドハンドル照明	LED ※
	ドアカーテシー照明	5
	シートベルトバックル照明	LED ※
	足元照明	LED ※
	グローブボックスライト	LED ※
	灰皿／ノースモーカーズボックスライト	LED ※
	コンソールボックスライト	LED ※
	コンソール背面小物入れライト	LED ※
	クールボックスライト	LED ※
	トランクリッドライト	3.8
	トランクライト	3.8

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
LS460	USF40	1UR-FSE (4.6L ガソリン)	FR（後輪駆動）
	USF45		AWD（4 輪駆動）
LS460L	USF41		FR（後輪駆動）
	USF46		AWD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。レクサス販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。
また、ナビゲーションシステムの画面操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

レクサス販売店で変更できるカスタマイズ一覧

以下のカスタマイズには、ご自身でも設定を変更することができる項目が含まれています。(→P. 425)

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 36)	解錠ドアの選択	全席	運転席
			各席
			側席
	スマートエントリー&スタート	する	しない
ワイヤレスドアロック (→P. 47)	ワイヤレス機能	あり	なし
	解錠時の操作	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドアのみ解錠、連続2回で全ドア解錠
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	トランク解錠時の操作	1 回長押し	2 回押し
			1 回短押し
スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック (→P. 36、47)	非常点滅灯での作動の合図	する	しない
	半ドア警告ブザー	あり	なし

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ドアロック (→P. 49, 401)	車速感応オートドアロック	する	しない
	運転席を開けたときの全ドア解錠	しない	する
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠	する	しない
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	しない	する
	メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠
トランク (→P. 54)	パワートランクリッド機能	あり	なし
パワーイージー アクセスシステム (→P. 76)	降車時運転席シート移動量調節	多め	OFF 少なめ
	ハンドルのオートアウェイ・オートリターン機能	する	しない
パワーウィンドウ (→P. 97)	助手席・リヤ席スイッチによる自動全開	あり	なし
	運転席スイッチによる助手席・リヤ席の自動全閉	あり	なし
	メカニカルキー連動時の作動	開閉作動	なし
			開作動のみ
			閉作動のみ
	ワイヤレスリモコン連動時の作動	なし	開作動のみ
			閉作動のみ
	スマートエントリー&スタートシステム連動閉機能	あり	開閉作動 なし

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ムーンルーフ (→P. 100)	ドアキー連動時の作動	開閉作動	なし
			開作動のみ
			閉作動のみ
	ドアキー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ
	ワイヤレスリモコン連動時の作動	なし	開作動のみ
			閉作動のみ
			開閉作動
ライト自動点灯・消灯システム (→P. 191)	ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ
	スマートエントリー&スタートシステム連動閉機能	あり	なし
	ライトセンサーの感度調整	標準	-2 ~ 2
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め
	オートマチックハイビーム	作動	非作動

項目	機能の内容	初期設定	変更後
イルミネーション (→P. 276)	室内照明の消灯までの時間	15 秒	OFF
			7.5 秒
			30 秒
	ドアミラー照明の点灯時間	15 秒	OFF
			7.5 秒
			30 秒
	メーターなどの明るさを、 周囲にあわせ自動減光する センサーの感度	標準	-2 ～ 2
	自動減光したメーターなど の明るさをもとに戻すセン サーの感度	標準	-2 ～ 2
	解錠時の作動	あり	なし
	“エンジンスタートストッ プ” スイッチ OFF 後の作 動	あり	なし
エアコン (ナビゲーションシステム取扱 書参照)	足元照明の点灯	あり	なし
	シフト照明の点灯	あり	なし
	AUTO スイッチが ON のと き、連動して外気導入と内 気循環を自動的に切りかえ る	する	しない
	AUTO スイッチを ON にし たとき、A/C (エアコン) スイッチが連動して ON に なる	する	しない
	排ガスセンサー感度調節	標準	-3 ～ 3
	エコドライブモード時のエ アコン制御	する	しない

ご自身で変更できるカスタマイズ一覧

以下のカスタマイズは、ナビゲーションシステムの画面操作により、ご自身でも設定を変更することができます。

(ナビゲーション画面でのカスタマイズ設定の操作は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。)

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 36)	解錠ドアの選択 (スマートドアアンロック)	全席	運転席
			各席
			側席
	スマートエントリー&スタート	する	しない
ワイヤレスドアロック (→P. 47)	解錠時の操作 (ボタン 2 回操作アンロック)	1 回で全ドア解錠 (しない)	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠 (する)
スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック (→P. 36、47)	非常点滅灯での作動の合図 (施錠・開錠時非常点滅灯応答)	する	しない
ドアロック (→P. 49、401)	車速感応オートドアロック	する	しない
	運転席を開けたときの全ドア解錠 (運転席ドア開連動アンロック)	しない	する
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	する	しない
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	しない	する
	メカニカルキーによる解錠 (キー 2 回操作アンロック)	1 回で全ドア解錠 (しない)	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠 (する)

項目	機能の内容	初期設定	変更後
パワーイーजी アクセスシステム (→P. 76)	降車時運転席シート移動量 調節	多め	OFF
			少なめ
ライト自動点 灯・消灯システ ム (→P. 191)	ライトセンサーの感度調整 (コンライト感度調節)	標準	-2 ~ 2
イルミネーショ ン (→P. 276)	室内照明の消灯までの時間 (室内照明消灯時間調節)	15 秒	OFF
			7.5 秒
			30 秒
	ドアミラー照明の点灯時間 (室外照明点灯時間調節)	15 秒	OFF
			7.5 秒
			30 秒
	メーターなどの明るさを、 周囲にあわせ自動減光する センサーの感度 (減光開始 感度調節)	標準	-2 ~ 2
エアコン (ナビゲーショ ンシステム取扱 書参照)	自動減光したメーターなど の明るさをもとに戻すセン サーの感度 (減光解除感度 調節)	標準	-2 ~ 2
	AUTO スイッチが ON のと き、連動して外気導入と内 気循環を自動的に切りかえ る (内外気切替 AUTO ス イッチ連動)	する	しない
	AUTO スイッチを ON にし たとき、A/C (エアコン) スイッチが連動して ON に なる (エアコン AUTO ス イッチ連動)	する	しない
	排ガスセンサー感度調節	標準	-3 ~ 3

さくいん

略語一覧..... 428

五十音順さくいん 429

症状別さくいん 442

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・ GPS ボイスナビゲーション
- ・ オーディオ&ビジュアル
- ・ エアコン・デフォッガー
- ・ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター
- ・ バックガイドモニター
- ・ インテリジェントパーキングアシスト
- ・ クリアランスソナー
- ・ ETC システム／ITS スポットサービス (DSRC)

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
A/C	エアコンディショナー／エアコンディショニング
ABS	アンチロックブレーキシステム
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
AI-SHIFT	アーティフィカルインテリジェンスシフト
AVS	アダプティブバリアブルサスペンションシステム
AWD	オールホイールドライブ
DISP	ディスプレイ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECT	エレクトリックコントロールドトランスミッション
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックツールコレクション
FR	フロントエンジンリヤドライブ
IPA	インテリジェントパーキングアシスト
LED	ライトエミッティングダイオード
LKA	レーンキーピングアシスト
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
PWR	パワー
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VDIM	ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント
VGRS	バリアブルギヤレシオステアリング
VSC	ビークルスタビリティコントロール

あ	アームレスト.....	308
	アクセサリコンセント	298
	アクセサリソケット	298
	足元照明.....	276
	アダプティブフロントライティング システム	192
	アンチロックブレーキシステム.....	241

い	ETC システム※	
	イグニッションスイッチ	151
	イベントデータレコーダー	28
	イルミネーテッドエントリー システム	276
	インストルメントパネル 照度調整スイッチ.....	179
	インテリアライト スイッチ	277
	インテリジェントパーキング アシスト※	
	インナーミラー.....	92

う	ウインカー	
	スイッチ	167
	電球の交換	347
	W 数.....	419
	ウインドウ	
	ウォッシュャー	200
	パワーウインドウ.....	97
	ウインドウロックスイッチ	97
	ウォーニングライト	375
	ウォッシュャー	
	液の補給	363
	スイッチ	200
	タンク容量	418
	冬の前の準備・点検.....	271
	運転	
	寒冷時の運転	271
	正しい姿勢	115
	手順	142
	運転席シートベルト	
	非着用警告灯.....	377

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

え

エアコン※

エアコン・デフォッガー※

エアバッグ

一般的な警告 122

SRS エアバッグ 117

お子さまのための注意 122

カーテンシールドエアバッグに

関する警告 122

カーテンシールドエアバッグの

作動条件 119

改造・分解 125

警告灯 375

サイドエアバッグに

関する警告 122

サイドエアバッグの作動条件 ... 119

正しい姿勢 115

配置 117

フロントエアバッグの

作動条件 119

エコドライブモード 156, 162

エレクトリック

パワーステアリング 241

エンジン

イグニッションスイッチ 151

エンジン回転計 175

エンジンがかからない 394

エンジン警告灯 375

エンジンスイッチ 151

エンジンルームカバー 339

オーバーヒート 408

かけ方 151

タコメーター 175

ボンネット 335

エンジンイモビライザー

システム 108

エンジンオイル

冬の前の準備・点検 271

容量 414

エンジンスイッチ 151

お	オーディオ※	
	オートアラーム	109
	オートマチックトランスミッション	
	S モード	157
	M モード	164
	オートマチックトランス	
	ミッション	155, 160
	シフトレバーが	
	シフトできない	396
	オートマチックハイビーム	194
	オートレベリングシステム	193
	オーバーヒート（エンジン）	408
	オープナー	
	給油口	104
	トランク	54
	ボンネット	335
	お子さまの安全のために	
	ウインドウロックスイッチ	97
	エアバッグに関する警告	122
	お子さまのシートベルト着用	88
	お子さまをのせるときは	27
	コンフォータブル・エアシートに	
	関する警告	307
	シートヒーターに関する警告	307
	シートベルトコンフォート	
	ガイド	87
	シートベルトに関する警告	89
	ステアリングヒーターに	
	関する警告	302
	チャイルドシート	135

	チャイルドシートに	
	関する警告	138
	チャイルドプロテクター	50
	電子キーの電池に関する	
	警告	362
	トランクに関する警告	57
	発炎筒に関する警告	369
	バッテリーに関する警告	407
	パワーウインドウに	
	関する警告	99
	ムーンルーフに関する警告	103
	オドメーター	175
か	カーテンシールドエアバッグ	117
	外気温表示	175, 186
	買い物フック	323
	カスタマイズ機能	421
	カップホルダー	283

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

き

キー	
エンジンスイッチ	151
キー	32
キーナンバー	32
キーレスエントリー	47
キーをなくした	35
電子キー	32
電子キーが正常に働かない	401
メカニカルキー	32
ワイヤレスドアロック	47
救急箱等固定用バンド	323
給油口	104
緊急時の対処	
エンジンがかからない	394
オーバーヒートした	408
キーを無くした	35
警告灯がついた	375
警告メッセージが表示された ...	379
けん引	370
故障したときは	366
シフトレバーが	
シフトできない	396
車両を緊急停止する	412
スタックした	411
電子キーが正常に働かない	401
パーキングブレーキが	
解除できない	397
発炎筒	368
バッテリーがあがった	405
パンクした	382
緊急ブレーキシグナル	241

<

空気圧 (タイヤ)	418
クールボックス	287
区間距離計	175
曇り取りスイッチ※	
クリアランスソナー※	
クルーズコントロール	
クルーズコントロール	203
レーダークルーズ	
コントロール	207
レーダークルーズコントロール	
(全車速追従機能付)	219
グローブボックス	281

け	計器	
	メーター	175
	メーター照度調整スイッチ	179
	警告灯	
	アンチロックブレーキ	
	システム	375
	SRS エアバッグ	375
	エンジン	375
	シートベルト非着用	377
	充電	375
	水温	377
	スリップ表示灯	375
	燃料残量	377
	パワーステアリング	375
	半ドア	377
	プリクラッシュセーフティ	
	システム	375
	プリテンショナー	375
	ブレーキ	375
	ブレーキアシスト	375
	マスターウォーニング	377
	警告表示	379
	警告ブザー	
	シートベルト非着用	377
	半ドア	377
	マスターウォーニング	377
	化粧用ミラー	294
	けん引	370

こ	コインホルダー	282
	交換	
	タイヤ	341
	電球	347
	電子キーの電池	361
	ヒューズ	358
	工具	341
	後退灯	
	電球の交換	347
	W 数	419
	コートフック	320
	後方プリクラッシュセーフティ	
	システム	257
	子供専用シート	126
	小物入れ	
	小物入れ	291
	ノースモーカーズボックス	286
	コンソールボックス	284
	コンフォータブル・エアシート	304
	コンライト	
	(自動点灯・消灯装置)	191
さ	サイドエアバッグ	117
	三角表示板収納スペース	324
	サンシェード	
	リヤ	311
	リヤドア	315
	ルーフ	101
	サンバイザー	293

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

し

G-Link ※

シート

運転席ポジションメモリー 76

コンフォータブル・

エアシート 304

シートポジション

メモリー 76, 81

助手席ポジションメモリー 76

正しい姿勢 115

チャイルドシートの固定 135

調整 61, 67

調整に関する警告 66, 75

手入れ 329

パワーイージーアクセス

システム 78

ヘッドレスト 83

ペルビックサポートシート 71

リヤシートポジション

メモリー 81

リヤシートリラクゼーション

システム 72

シートベルト

お子さまの着用 88

緊急時シートベルト固定機構 88

シートベルト警告灯 377

シートベルト

プリテンショナー 87

清掃・手入れ 329

正しい着用 86

チャイルドシートの固定 135

調整 86

妊娠中のかたの着用 88

シートポジション

メモリー 76, 81

シガレットライター 296

室内灯

スイッチ 277

W 数 419

シフト照明 276

シフトレバー

オートマチックトランス

ミッション 155, 160

シフトレバーが

シフトできない 396

シフトロックシステム 396

車高調整

電子制御エアサスペンション ... 239

ジャッキ

ガレージジャッキ 337

車載ジャッキ 341

ジャッキハンドル 341

車幅灯

スイッチ 191

車両型式 420

車両仕様 414

収納装備 279

助手席シートベルト

非着用警告灯 377

す	水温計	175
	スイッチ	
	ECT スイッチ	156, 162
	イグニッションスイッチ	151
	ウインドウロックスイッチ	97
	ECO MODE	
	スイッチ	156, 162
	エンジンスイッチ	151
	オートマチックハイビーム	
	スイッチ	194
	ステアリングヒーター	
	スイッチ	302
	ドアロックスイッチ	49
	パーキングブレーキスイッチ ...	168
	ハザードライトスイッチ	367
	パドルシフトスイッチ	163, 164
	パワーウインドウスイッチ	97
	パワートランクリッド	
	スイッチ	54
	非常点滅灯スイッチ	367
	フォグライトスイッチ	199
	ライトスイッチ	191
	ワイパー&ウォッシュャー	
	スイッチ	200
	スタック	
	スタックした	411
	ステアリングホイール	
	調整	91
	パワーイージーアクセス	
	システム	78
	ハンドルポジションメモリー	76
	ヒーター	302
	ロック解除	153
	ステアリングホイールヒーター	302
	スピードメーター	175

	スペック	414
	スマートエントリー& スタートシステム	
	エンジンの始動	151
	ドアの施錠・解錠	36
	トランクを開ける	36
せ	清掃	
	外装	326
	シートベルト	329
	内装	329
	積算距離計	175
	洗車	326
	前照灯	
	オートマチックハイビーム	194
	スイッチ	191
	ディスチャージヘッドライトに 関する警告	356
	電球の交換	347
	W 数	419
そ	速度計	175

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

た	タイヤ	
	空気圧	418
	交換	341
	チェーン	271
	点検	332
	パンクした	382
	パンク修理キット	382
	冬用タイヤ	271
	ローテーション	332
	タコメーター	175

ち	チェーン (タイヤチェーン)	271
	チェンジレバー	
	オートマチックトランス	
	ミッション	155, 160
	チェンジレバーが	
	シフトできない	396
	チャイルドシート	
	ISOFIX バーでの固定	136
	シートベルトでの固定	136
	種類	126
	チャイルドプロテクター	50
	駐車ブレーキ	168

つ	ツール	341
----------	-----------	-----

て	DSRC※	
	ディスプレイ	
	警告メッセージ	379
	トリップインフォメーション ...	186
	レーダークルーズ	
	コントロール	207, 219
	手入れ	
	外装	326
	シートベルト	329
	内装	329
	テーブル	309
	テールランプ	
	スイッチ	191
	電球	
	交換	347
	W 数	419
	電子キー	
	正常に働かない	401
	電子制御エアサスペンション	239
	電話スイッチ※	

と	ドア	
	ドアガラス	97
	ドアミラー	94
	ドアロック	36, 47, 49
	ドアカーテシー照明	
	ドアカーテシー照明.....	276
	W 数	419
	ドアポケット.....	282
	ドアミラー	
	調整.....	94
	ミラーポジションメモリー	76
	ドアミラー照明	
	ドアミラー照明	276
	W 数.....	419
	盗難警報アラーム	109
	盗難防止システム	
	エンジンイモビライザー	
	システム	108
	オートアラーム	109
	トークスイッチ※	
	ドライビングポジションメモリー....	76
	トラクションコントロール	241
	トランク	
	オープナー	54
	クローザー	54
	トランクスルー	318
	トランクライト	
	W 数.....	419
	トリップメーター	175
な	ナイトビュー	260
	ナビゲーションシステム※	

に	荷物	
	積むときの注意.....	269
	荷物固定用フック	323
ね	燃料	
	給油	104
	種類	414
	燃料計	175
	容量	414
は	パーキングブレーキ	
	パーキングブレーキ	168
	パーキングブレーキが	
	解除できない	397
	パーソナルライト	
	スイッチ	277
	W 数.....	419
	灰皿	295
	ハザードライト	
	スイッチ	367
	発炎筒.....	368
	バックアップライト	
	電球の交換	347
	W 数.....	419
	バックガイドモニター※	
	バッテリー	
	バッテリーがあがった	405
	冬の前の準備点検.....	271
	パドルシフトスイッチ	163, 164
	パニティミラー	294
	パニティライト	
	パニティライト.....	294
	W 数.....	419
	バリアブルギヤレシオ	
	ステアリング.....	241

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

バルブ

交換 347

W 数 419

パワーイージーアクセスシステム.... 78

パワーウィンドウ 97

パンク

パンクした 382

パンク修理キット 382

ハンズフリー※

ハンドル

調整 91

パワーイージーアクセス

システム 78

ハンドルポジション

メモリー 76

ヒーター 302

ロック解除 153

ひ

ピークルスタビリティ

コントロール..... 241

ピークルダイナミクス

インテグレイテッド

マネージメント..... 241

非常点滅灯

スイッチ 367

尾灯

スイッチ 191

ヒューズ..... 358

表示灯 180

ヒルスタートアシスト

コントロール..... 241

ふ

フォグライト

スイッチ 199

電球の交換 347

W 数 419

フック

買い物フック 323

けん引フック 370

コートフック 320

荷物固定用フック..... 323

冬用タイヤ..... 271

ブリクラッシュセーフティ

システム 247, 257

ブレーキ

緊急ブレーキ信号..... 241

パーキングブレーキ..... 168

ホールド 171

ブレーキアシスト 241

ブレーキホールド 171

フロアマット..... 321

フロントシート

シートポジションメモリー 76

調整 61

ドライビングポジション

メモリー 76

パワーイージーアクセス

システム 78

フロントターンシグナルライト

電球の交換 347

W 数 419

フロントフォグライト

スイッチ 199

電球の交換 347

W 数 419

へ	ヘッドライト	
	オートマチックハイビーム	194
	スイッチ	191
	ディスチャージヘッドライトに 関する警告	356
	電球の交換	347
	W 数	419
	ヘッドレスト	
	アクティブヘッドレスト	65
	調整	83
	プリクラッシュインテリ ジェントヘッドレスト	257
	ペルビックサポートシート	71
	ペンライト	383

ほ	ホイール	332
	方向指示灯	
	スイッチ	167
	電球の交換	347
	W 数	419
	ホーン	174
	ボンネット	335
ま	マルチインフォメーション ディスプレイ	184
み	ミラー	
	インナーミラー	92
	ドアミラー	94
	パニティミラー	294
む	ムーンルーフ	100

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

め

メーター

インストルメントパネル

照度調整スイッチ 179

メーター 175

メモリーコール機能 77

メンテナンス

メンテナンスデータ 414

ら

ライト

室内灯 276

電球の交換 347

ドアカーテシーライト 276

パーソナルライト 277

ハザードライト 367

バニティライト 294

非常点滅灯 367

フォグライト 199

ヘッドライト 191

方向指示灯 167

W 数 419

リ

リヤウインドウデフォッガー	
スイッチ※	
リヤサンシェード	311
リヤシート	
シートポジションメモリー	81
調整	67
テーブル	309
リヤシートリラクゼーション	
システム	72
リヤターンシグナルライト	
電球の交換	347
W 数	419
リヤドアサンシェード	315
リヤフォグライト	
スイッチ	199
電球の交換	347
W 数	419
リヤブリクラッシュセーフティ	
システム	257

れ	冷却水	
	冬の前の準備・点検.....	271
	容量.....	416
	冷却装置	
	エンジンオーバーヒート.....	408
わ	レーダークルーズ	
	コントロール.....	207, 219
	レーンキーピングアシスト	233
	ワイパー	
	スイッチ	200
	ワイヤレスドアロック	
	電池交換	361
	リモコン	47

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

症状別さくいん

症状別さくいん



タイヤがパンクした

P. 382 パンクしたときは



エンジンがかからない

P. 394 エンジンがかからないときは

P. 108 エンジンイモビライザーシステム

P. 405 バッテリーがあがったときは



シフトレバーが動かない

P. 396 シフトレバーがシフトできないときは



水温計の針が
赤いゾーンに入った

P. 408 オーバーヒートしたときは



エンジンルームから
蒸気が立ちのぼった



キーをなくした

P. 35 キーを紛失したときは



バッテリーがあがった

P. 405 バッテリーがあがったときは



ドアが施錠できない

P. 36
P. 47
P. 49
ドア



ホーンが鳴り出した

P. 109 オートアラーム



ぬかるみや砂地などで
動けなくなった

P. 411 スタックしたときは



警告灯が点灯、点滅した

P. 375 警告灯がついたときは

▶ オプティロンメーター



▶ ファイングラフィックメーター



■ 警告灯一覧



ブレーキ警告灯

P. 375



充電警告灯

P. 375



ABS& ブレーキアシスト
警告灯

P. 375



運転席シートベルト非着用
警告灯

P. 377



ブレーキ警告灯

P. 375



助手席シートベルト非着用
警告灯

P. 377

	燃料残量警告灯 P. 377		マスターウォーニング P. 377
	SRSエアバッグ/プリテンショナー警告灯 P. 375		パワーステアリング警告灯 P. 375
	半ドア警告灯 P. 377		PCS 警告灯（点滅） P. 375
	エンジン警告灯 P. 375		水温警告灯（ファイングラフィックメーター） P. 377
	スリップ表示灯 P. 375		オートマチックハイビーム表示灯（点滅） P. 375
	クルーズコントロール表示灯（点滅） P. 375		AFS OFF 表示灯（点滅） P. 375



警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

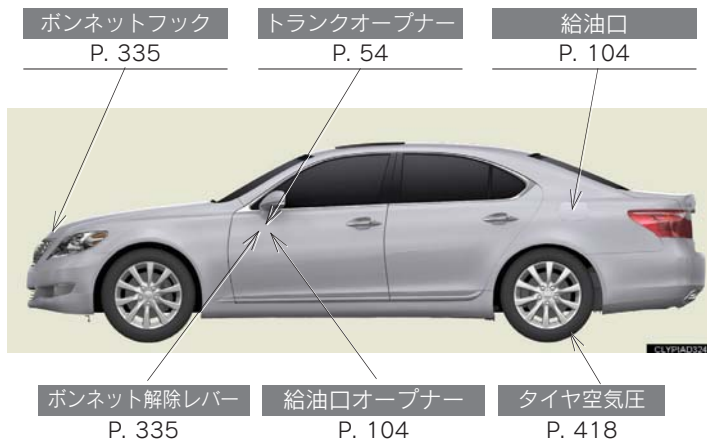
- 警告灯が点灯、点滅している (→P. 375)
- 警告メッセージが表示されている (→P. 379)

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 44
	車外に出たとき	
	スマートエントリー&スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 158
	シフトダウンしたとき	P. 158, 165
	レーダークルーズコントロールを使っているとき	P. 207, 219

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量 (参考値)	84 L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク) P. 105, 414
タイヤが冷えているときの空気圧	230 (2.3) kPa (kg/cm ²)
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 : 8.4 L オイルとフィルター交換時 FR 車 (後輪駆動) : 8.6 L AWD 車 (4 輪駆動) : 9.0 L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ・ SN 0W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20) ・ SN 5W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20) ・ SN 5W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30) ・ SN 10W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30) ・ SM 0W-20 (API SM, EC, SAE 0W-20) ・ SM 5W-30 (API SM, EC, SAE 5W-30) ・ SM 10W-30 (API SM, EC, SAE 10W-30)

「個人情報保護方針」については、<http://lexus.jp> にて掲載しております。

